

日本私立小学校連合会

—結成 70 年のあゆみ—

日本私立小学校連合会

日本私立小学校連合会

—結成 70 年のあゆみ—

2010 年代の教育宣言

今や、地球規模で激動する 2010 年代を迎えました。私たち私立小学校は、著しい社会変化と科学技術の高度化が進展する時代の中で、建学の精神を継承するとともに伝統を重んじ、その使命とする理想の教育をめざし、誇りをもって初等教育の先駆的な実践を世に問うてきました。

21 世紀は「知識基盤社会」の時代であるといわれています。その一方で「心」の時代でもあります。私たち私立小学校は、個人の自由と人権および児童一人一人の個性を尊び、その内なる可能性を児童愛をもって引き出す方法を実践・探究し、未来を切り拓いていく基礎的資質と心豊かな人間性を育成します。

併せて、真の世界平和と持続可能な自然環境の維持のために、広い視野をもって考え、共感する力を身につけた児童を育成します。

そのため、私たち私立小学校は、伝統と特色ある教育をさらに充実させ、私学人としての自覚に立ち、お互いに協力結束し磨き合い、わが国初等教育の新たな創造をめざすことをここに宣言します。

2010（平成 22）年 6 月 11 日

日本私立小学校連合会

私立小学校が果たしている役割と使命

建学の精神に基づく人間教育

日本の私立小学校の中には、明治の初期に創立された歴史の古い学校もあれば、最近創立された歴史の新しい学校もある。それぞれの学校が建学の精神に基づき、特色ある教育を時代に即して実践し、個性豊かでバランスのとれた人間を育てている。特に、人間形成の基礎となる初等教育を通して、確固たる信念をもって人格教育に努めている。

初等教育における先駆的教育活動

全国の私立小学校は連携して、教員の資質向上を目指し研修・研究を深め合い、絶えず新しい実践研究を試み、特に、初等教育から中等教育・高等教育までの一貫教育の実践、学校週5日制の実践とカリキュラムの整合性、外国語教育の充実、生活科のパイロットスタディー等、日本の初等教育における先駆的教育活動は高く評価されてきた。

少子化にもかかわらず私立小学校は増加の傾向

近年、少子化の影響で全国の小学校数は減少しているが、私立小学校数はこの10年間を見ても、平成13年度の172校から平成23年度は216校と増加の傾向にある。このことは、明らかに私立小学校に対する社会的評価の高まりを意味するものであろう。

臨時教育審議会第二次答申（昭和61年4月）でも、「それぞれの建学の精神に基づいて設置される私立学校の役割は、今後一層重視される必要がある。この観点から、私立の小学校・中学校については、その設置が促進されるよう、適切な諸方策を検討する必要がある」と提言、私学の建学の精神に基づく独自の特色ある教育の実践が期待されている。

多様な教育機会の提供

社会環境の変化と共に価値観が多様化していく中で、個性的で多様な子どもたちが多く見られるようになってきた。こうした子どもたちに、小学校がどのように対応していくか、大きな課題となってきた。

現在、216校の私立小学校は、それぞれの学校の特色を発揮して、児童一人一人の個性を尊重し、その可能性を伸長する方法を実践探求し、子どもたちの多様な学習ニーズに対応できるように、教育の機会を提供して公教育としての使命を果たすと共に、日本の初等教育の充実発展のために寄与している。

70年のあゆみを支えた歴代会長

初代 濱野 重郎

S 16 - 37

3代 S 43 - 48



2代 佐藤 瑞彦

S 38 - 43



4代 青柳義智代

S 49 - 52



5代 野村 純三

S 53 - 54



6代 人見 楠郎

S 55 - H 10



7代 長谷川良昭

H 11 - 13



8代 平野 吉三

H 14 - 22



9代 清水 良一

H 23 -



記念式典



清水会長式辞

平成 24 年 1 月 19 日 アルカディア市ヶ谷（私学会館）

お祝辞をいただいた方



文部科学事務次官 森口 泰孝 殿
(平野博文文部科学大臣の祝辞代読)



全私学連合代表 清家 篤 殿



開式の辞（原 誠治副会長）



受章の人たち



私立小学校教育振興功労者文部科学大臣表彰受章者代表（中村太貴生 殿）



会長表彰受章者代表謝辞
小川 正夫 殿



閉式の辞（塩田 征雄副会長）

記念祝賀会



開会のことば（牧山副会長）



来賓祝辞（吉田晋中高連会長）



乾杯の音頭（河田悌一私学事業団理事長）



日私小連 70 年の思い出を語る



祝辞（天野昭一元副会長）



日私小連 70 年の思い出を語る



祝辞（板東久美子高等教育局長）



和太鼓で祝宴を盛り上げてくれた、東初協の若い先生方



和太鼓のメンバーと共に



祝辞（堀俊一前副会長）

目 次

巻頭言「結成 70 周年 継承と闊達な進取の精神の昂揚」

日本私立小学校連合会 会長	清水 良一 …	1
---------------	---------	---

I. 結成 70 周年を祝して

全私学連合 代表	清家 篤 …	5
日本私立学校振興・共済事業団 理事長	河田 悌一 …	7
私学研修福祉会 理事長	増田 壽男 …	9
日本私立短期大学協会 会長	佐藤 弘毅 …	11
日本私立中学高等学校連合会 会長	吉田 晋 …	13
全日本私立幼稚園連合会 会長	香川 敬 …	15
日本私立小学校連合会 前会長	平野 吉三 …	17

II. 結成 70 周年記念式典

1. 開式の辞	日本私立小学校連合会 副会長	原 誠二 …	19
2. 会長式辞	日本私立小学校連合会 会長	清水 良一 …	20
3. 経過説明	日本私立小学校連合会 副会長	矢崎 昭盛 …	22
4. 祝 辞	文部科学大臣	平野 博文 …	25
	全私学連合 代表	清家 篤 …	26
5. 表 彰	……………		28
① 文部科学大臣表彰「私立小学校教育振興功労者表彰」			
謝 辞	元相山女学園大学附属小学校 校長 中村太貴生 …		29
② 会長表彰「私立小学校永年勤続者表彰」			
謝 辞	聖ステパノ学園小学校 校長 小川 正夫 …		30
③ 記念式典・祝賀会・次第	……………		32
④ 大臣表彰並びに会長表彰受賞者氏名	……………		32
6. 閉式の辞	日本私立小学校連合会 副会長	塩田 征雄 …	36

III. 結成 70 周年を祝して	38
～私学人 OB・OG から後世に語り継ぐべきこと～	
IV. 日本の私立小学校（加盟校紹介）	
～建学の精神と特色等～	
・北海道・東北地区	59
・東京地区	62
・関東地区	76
・西日本地区	88
・九州地区	103
V. 20 年のあゆみ（平成 4 年度～ 23 年度）	
1. 年代別教育宣言	107
2. 日私小連の主な活動	120
3. 研修会のあゆみ	132
4. 歴代役員	159
5. 歴代事務局長	166
VI. 資料	
1. 小学校数と児童数の推移	167
2. 私立小学校の地区別・宗教別学校数と児童数	168
3. 年度別研修会一覧	169
4. 私立高等学校等に対する経常費助成推移	178
5. 日私小連の概要	180
あとがき	181

「結成 70 周年 継承と闊達な進取の精神の昂揚」

日本私立小学校連合会

会長 清 水 良 一

関係各位のお力をいただき日本私立小学校連合会（以下「日私小連」）は 1941（昭和 16）年の同志的結成以来 70 周年を迎えることができました。日私小連結成 70 周年記念事業において記念式典・祝賀会開催と共に、特に『日本私立小学校連合会—結成 50 年のあゆみ—』（発刊 1992 年）以降 20 年間の記録を残す上でもこの記念誌を上梓し後世に引き継ぐ資料とさせていただきます。お祝辞を賜り原稿をお寄せくださいました皆様に深く感謝申し上げます。

日私小連加盟校 179 校は全私学連合（清家 篤代表）を構成する団体（日本私立大学団体連合会 清家 篤会長、日本私立短期大学協会 佐藤弘毅会長、日本私立中学高等学校連合会 吉田 晋会長、全日本私立幼稚園連合会 香川 敬会長）の一つとしてその役割を担わせていただいております。

日本において私立小学校の占める割合は、その学校数においても 1 %、在籍 79,000 名という児童数においても 1.1 % 余ですが、日私小連は本誌扉に掲げました「2010 年代の教育宣言」と後掲の「日私小連『2010 年代の教育宣言』作成主旨」（本誌 114 ページ）を羅針儀とし未来を切り拓いていく基礎的資質と心豊かな人間性を育成するために励んでおります。これもひとえに永きに亘る諸先輩のお力に拠ります。

この結成 70 周年という大きな節目にあたり、私どもが実践躬行すべきことは何でありましょうか。それは、諸先輩が築かれ連綿として受け継いでこられた日私小連の目的「日本の私立小学校の強力な提携によって、その自主性と公共性を発揮し、私立小学校教育の充実向上を図ること」（会則第 3 条）を結束の枢

要としその理念を私たちも全面的に受け継ぐこと、加えて闊達な自発性をもって進取の精神をさらに奮い立たせ紐帯を持って磨き合いを為すこと、いわば継承と闊達な進取の精神の昂揚 ―この二つを次の原点に基づき己に刻み合い、新たな実践に冒険心をもって船出することであります。

原点とすべきは、日私小連歴代会長が語られ第4代会長青柳義智代先生が「本会の体質」として「各校がそれぞれの建学の精神に教育の原点をおき、この精神を基盤として学校教育の昂揚に努力され、全国私立教職員一丸となり相互の切磋琢磨による研鑽は益々私学教育の止揚へと導かれ、日本の小学校教育の先導的立場を顕揚してきた」（『日本私立小学校連合会のあゆみ―創立35周年記念―』）と記され、第6代会長人見楠郎先生が「若者の命に尊い灯をともし、その光を掲げながら次代を開拓する使命をその人に托することが私学教育の本質である」（『日本私立小学校連合会―結成50年のあゆみ―』）と記してくださっている諸点に皆様のお考えが結実されている理念であります。

今、私たちは楽観を許されない難局にあります。東日本大震災・放射性物質流出事故における日私小連「北海道・東北地区」を中心とする諸学校の皆様方における復旧復興の大事業。出生数が戦後最少の105万人、人口減少幅が過去最大の20万人にのぼる少子化の一段の加速、欧州債務危機に伴う信用不安や歴史的な円高の長期化などからくる景況感の落ち込み、世論調査にも現れた大地震への危機感切迫による遠距離通学への敬遠傾向。これ等からと見られる私立小学校への志願者減少傾向。

この難問たる減少傾向が顕現されたのでありますが、手立ては必ず有ると真正面から受け留めて処します。昭和15年12月、「国民学校には私立の国民学校は認めず」という国民学校令公布目前における文部大臣ラジオ放送により私立小学校は廃止されるという危機に瀕しましたが、後に日私小連初代会長に就任される濱野重郎先生を中心に私立小学校大団結の力により存続の道を打開してくださいました。この団結力と行動力の連綿たる遺伝子を70年に亘っていただいている私たちは今の難局をもきっと乗り越え未来を拓いて参ります。

後世がもしその私学教育の存在理由たる成果を問うのであれば、それは奥深い村里にも街にも、人に知られようとも知られまいとも、日本を世界を地球を担い続ける如何なる数の「若者の命に尊い灯をともし」得たかであります。人生の少き日^{わか}に一生を貫く尊い灯を燈され、生命の輝きが引き出されるならばそれは何にも勝る寶となるのであります。その灯を燈し生命の輝きを引き出す業を教職員は骨身を惜しまず労を我が身の喜びとし育てあげようとして参りました。記すことを許されるならばそれこそが私学人の矜持であります。皆様、今後とも日本私立小学校連合会をどうぞよろしくお願い申し上げます。明日に向かって高らかに銅鑼を鳴らし新たな船出といたしましょう。

I. 結成 70 周年を祝して

祝 辞

全私学連合

代表 清 家 篤
(慶應義塾 義塾長)



日本私立小学校連合会が、本年めでたく結成 70 周年を迎えられましたことを、全私学連合を代表して心よりお祝い申し上げます。

日本私立小学校連合会の起源は、日本が先の大戦へ突入していくなかで、挙国一致の名のもと発令された国民学校令によって、私立小学校が消滅の危機に瀕した際、その状況を打開するために日本中の私立小学校が連携したことにあり、と伺っております。

結成以来 70 年、幾多の困難を乗り越えて、またそれぞれの学種別私学団体などと協力しながら、いわゆる私学三法や私立学校振興助成法など、私立学校の振興と発展、その他の問題解決に取り組まれ、初等教育を中心に我が国の教育の振興発展に寄与してこられました。

特に私立小学校は、人間形成の基礎づくりを行う初等教育の場として、日本の義務教育の重要な役割の一翼を担っています。それぞれの学校が建学の精神に基づき、特色ある初等教育を時代に即して実践し、個性豊かでバランスのとれた人間を育む私立小学校の存在意義は大きいと思います。

長期的な少子化傾向にもかかわらず、私立小学校の数は増えています。この 10 年間の国公私合わせた小学校総数は、平成 13 年度に 23,964 校でしたが平成 22 年度には 22,000 校に減少しています。その一方で私立小学校は、平成 13 年度の 172 校から平成 22 年度には 213 校と、新たに 41 校が増えています。

この数値が示すように私立小学校に対する社会的な要請は高まっており、全国の私立小学校が連携して、研修・研究を深め合うなど協力する必要性はますます大きくなっていると思います。特に初等教育から中等教育・高等教育まで

の一貫教育の実践、外国語教育の充実、生活科のパイロットスタディー等、日本の初等教育において私立小学校が積極的に取り組んできた先駆的教育活動をこれからも継続、発展させていって頂きたいと願っています。

私立学校全体を取り巻く経営環境は非常に厳しいものがありますが、逆境の中にあってもその時々時代の要請に柔軟に対応できるのが私立学校の特長であり、存在意義でもあります。不透明な時代であればあるほど、建学の精神に基づく自主・自立した多様な私立学校教育に対する国民の期待は、学種の違いを問わずそれぞれにますます高まっていると申せましょう。

改正「教育基本法」を受けて策定された「教育振興基本計画」が、策定から5年目を迎えるに当たり同計画の見直しが検討されるなど、日本の教育の在り方は新たな局面を迎えておりますが、その意味においても、日本私立小学校連合会の役割はいよいよ重きを増していると思います。

日本私立小学校連合会が、今日まで大きな成果を挙げてこられましたことに対しあらためて深く敬意を表するとともに、この機を新たな飛躍への出発点として、日本の初等教育をリードする存在として、私立学校教育の振興と日本社会の発展のためになお一層ご尽力されるよう祈念致しまして私の祝辞といたします。

祝 辞

日本私立学校振興・共済事業団

理事長 河 田 悌 一



日本私立小学校連合会が結成 70 周年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴連合会は、1941（昭和 16）年に結成されて以来 70 年。私立小学校の自主性と公共性を高め、その健全な発展に大きな貢献をしてこられました。なかでも、結成のきっかけとなった国民学校令に関わる私立小学校廃止問題、戦後の混乱、教育基本法の成立——いわゆる「私学四法」を実現するという大きな課題、幾多の困難を乗り越えながら、私立小学校の発展の歴史を築いてこられました。そのご苦勞、ご努力は、並大抵のことではなかったろうと拝察いたします。

また、貴連合会は、私立小学校に係る諸課題について、幅広い見地から調査・研究を重ね、多くの初等教育に関する指針や意見・要望などを示すとともに、教職員や学校運営者に対する様々な研究会、研修会を積極的に開催し、私立小学校教育振興を推進する連合体としての役割を果たされております。

ここに、あらためて清水良一会長はじめ歴代の会長、関係者の皆様のご熱意とご尽力に対し、深甚の敬意を表する次第であります。

6 年間と期間が長く、人間形成の基盤づくりの場である小学校は、極めて重要な役割を担っています。国土面積が小さく、地下資源にも乏しいわが国の繁栄をこれまで支えてきたものは人的資源であり、ほかならぬ教育の成果によるものであります。

グローバル化と情報化が進む 21 世紀において、さらなる発展のために必要とされるものは何か。それは、創造性に富んだ心豊かなたくましい人材の育成を図ること、であります。小学校での 6 年間は、まさに将来のわが国を形成する

後継者として必要な人間力の基礎を養い、自らが主体的に考え判断し、行動することのできる力を育成する場であります。それゆえ“建学の精神”に基づいた私立の小学校の魅力あふれる教育は、わが国の初等教育の発展に大いに貢献してまいりました。

しかし、近年の私学教育を取り巻く環境は、少子化や先行きの見えない経済不況などによって年々厳しさを増しています。各私立学校は自らの理念を貫き、その特色を大いに発揮し、充実した教育活動を推し進めるために、さらなる工夫と努力を行うことが求められています。

貴連合会が、2010（平成 22）年 6 月にまとめられた「2010 年代の教育宣言」には「個人の自由と人権および児童一人一人の個性を尊び、その内なる可能性を児童愛をもって引き出す方法を実践・探求し、未来を切り拓いていく基礎的資質と心豊かな人間性を育成」すること、がうたわれております。

私学への深い信頼と強い絆。それは、知育教育に偏らず、個性をひき出す全人的教育に力を注ぎ、教育理念の実現に努力するという、真の教育への理想を追求する姿勢であります。21 世紀という激動の時代における私立小学校教育の振興と発展のため、貴連合会の果たされる役割は、これまで以上に重要なものになると考えます。

現在、日本の社会は大変厳しい状況が続いています。昨年は東日本大震災という未曾有の悲しい出来事に直面しました。私学事業団といたしましても、日本の将来を担う子ども達を守り支えるため、貴連合会とともに、私立学校の振興・発展に全力を尽くしてまいる所存であります。

最後に、日本私立小学校連合会の一層のご発展並びに清水会長をはじめ、関係者の皆様方のご健勝とさらなるご活躍をお祈り申し上げ、お祝いの言葉いたします。

祝 辞

財団法人 私学研修福祉会

理事長 増 田 壽 男

(法政大学 総長)



日本私立小学校連合会が結成 70 周年を迎えられたことは、私学関係者一同にとって誠に意義深く慶賀に堪えません。これまでの活動を通じ今日の隆盛を構築された歴代会長をはじめ役員そして会員の皆様方の並々ならぬご尽力に対し改めて敬意を表します。

貴連合会の設立にあたりましては、大変なご苦勞があったと伺いました。

明治初期に学制が公布された当時の私立小学校は 4,500 校あまり設置されていたと記録にありますが、公立小学校が学区制を基に全国的に設置されたために大正末期には約 100 校まで減少してしまいました。その後、昭和に入り準戦時体制から戦局の情勢に応じて教育全般の検討が行われ国内教育の体制づくりが行われました。その結果、1940 年 12 月に、私立小学校を全廃するという閣議決定が全国に流されたことを機に、私立小学校の校長たちが団結し、東京の私立小学校を中心に協会組織を固めながら、文部省と折衝を重ねた結果、私立小学校廃止論の撤回を勝ち取られました。

この私立小学校廃止問題で、全国の私立小学校の結束が高まり、1941 年に日本私立小学校連合会が誕生したとお聞きしています。

爾来 70 年間貴連合会は常に日本の初等教育を先導され、多大な貢献をされてきたことは枚挙にいとまがありません。

昨年、世界の人口は 70 億人を突破し、食糧問題をはじめ経済格差の拡大、そして環境問題など人類は、益々解決困難なさまざまな問題に直面しています。また、わが国でも東日本大震災の経験を契機にして、従前の生活様式全般を問い直す動きも盛んになっています。

このような混迷を続ける状況乗り越えていくためには、当面する課題に常に自ら考えを決断し、柔軟にかつたくましく対応していく力が求められることとなります。この一連の営みは、正に私立小学校が創設者の教育に係る情熱と建学の精神に基づいて、それぞれの学校が一人ひとりの個性を尊重し特色ある教育を目指してこられた歩みそのものであらうと思われ、今後とも貴連合会に日本の初等教育の先導的役割が期待される由縁でもあります。

当会は、貴連合会をはじめとする全私学連合の総意により、私立学校教職員の研修及び福祉厚生を図ることを目的に昭和 31 年設立され、以来私立学校教職員の資質向上のため各種の研修事業を実施し、私立学校教育の振興発展に尽力して参りましたが、貴連合会は当会設立以前から全国規模の研修会を開催され研鑽を積み重ねられておられました。当会設立はこの活動を一層助長し、当初は、全国教員夏季研修会として 10 研究部会を実施したが、現在では 13 部会に及んでおります。また、全国教頭研修会や全国幹部研修会、他各地区別に研修会を実施し、平成 22 年度には 4,400 名を越える参加者を迎え私立小学校教育充実の礎となっております。

一方、私学会館は昭和 33 年に開業し、今日まで全国私学のセンターとしての役割を果たし今後ともたゆまぬ発展を遂げる私立学校を影から支える役割を堅持していく所存でありますので、従来にも増したご支援、ご協力をお願い申し上げます。

また、今日まで当会が順調に運営を続けられてまいりましたのは、貴連合会のひとかたならぬご支援の賜物と深く感謝いたしております。

終わりに、貴連合会の 70 周年を心からお祝い申し上げますとともに、一層のご発展とご活躍を心から祈念し、祝辞とさせていただきます。

祝 辞

日本私立短期大学協会

会長 佐 藤 弘 毅

(目白大学短期大学部 学長)



日本私立小学校連合会が結成 70 周年を迎えられ、このたびその歩みを克明に綴る記念誌が発行されますことは実に意義深く、心からお慶び申し上げます。

日本私立小学校連合会は、戦時下における当時の文部大臣が私立小学校の廃止論を表明したことから、全国の私立小学校が結束し、昭和 16 年 12 月に結成されました。

爾来、今日までの 70 年の長きにわたり、私立小学校の充実発展に多大な貢献をされてこれました歴代の会長先生をはじめ、関係各位のご苦労に対し、ここに深甚なる敬意を表する次第です。

私立小学校は、それぞれの学校が建学の精神に基づき、特色ある教育を時代に即して実践し、個性豊かでバランスのとれた人間を育て、特に、人間形成の基礎となる初等教育を通して、確固たる信念をもって人格教育に努めておられます。

また、全国の私立小学校の連携により、教員の資質向上を目指し研修・研究を深め合い、絶えず新しい実践研究等の先駆的教育活動は高く評価されているところです。

いまや我が国は人口減少社会に入り、全国の小学校数は減少していますが、私立小学校数は平成 13 年度の 172 校から平成 22 年度は 213 校と増加傾向にあります。このことは明らかに私立小学校に対する社会的評価の高まりを意味するものです。

貴連会におかれては、「児童一人一人の個性を尊重し、未来を切り拓いていく基礎的資質と心豊かな人間性を育成する。」(「2010 年代の教育宣言」)との宣

言をなされました。これはまさに、現在の小学校教育に対する社会全体の声でもあると確信いたしております。

このような社会からの要請に応えるために、このたびの結成 70 周年を契機として、全国の私立小学校がますます結束し力強く歩まれることを願うとともに、日本私立小学校連合会の一層のご発展を心からお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。

私立小学校に学ぶこと

日本私立中学高等学校連合会
会長 吉 田 晋
(富士見丘中学高等学校 理事長・校長)



日本私立小学校連合会の結成 70 周年を心からお祝い申し上げます。

現在、大学から幼稚園に至る私立学校は、各学校種ごとに全国団体を組織していますが、結成 70 周年を迎えるのは小学校が初めてであり、意義深いものがありますが、更に結成の経緯そのものがわが国の私学の歴史の中で忘れえぬ一場面であったことを思えば、その意義は誠に大きなものがあります。

大先輩の方々から結成当時の苦労話を直接伺いすることは出来ないかも知れませんが、幸いなことに、日私小連の結成 50 周年記念誌には、当時の体験談が掲載されており、貴重な資料となっています。

昭和 16 年当時、わが国の小学校を、ドイツの「フォルクス・シューレ」に倣い「国民学校」に衣替えしようとした動きは、背景に国家総動員体制があったにせよ、教育関係者の信念を問われる大事件でありました。子どもたちまで巻き込み、学校教育を選別する政策が国を挙げて行われたことは、わが国の学校教育の歴史の中の一大汚点であったことは間違いありません。あの時代のわが国の「国民学校化」の名残りは、形を変えて韓国や台湾にも及んでおり、台湾では、今でも初等教育を担う学校を「国民学校」と称していますし、韓国では、1990 年代まで「国民学校」であったものを、「小学校」でなく敢えて「初等学校」と変更したという厳しい経緯もあります。

その中にあって、時代の流れに安易に乗らなかった一団が私立小学校であったことは、今から考えてみても、私立学校関係者としては大きな誇りであり、その決断をされた諸先輩には敬意の念とともに改めて感謝を捧げたいと思います。

それから幾星霜を経て、私立小学校は大きく発展し、常にわが国の初等教育

の先駆的役割を果たし、少数派とはいえ、確固たる地位を築かれていることはご同慶の至りです。

現在、全国各地で教育活動を展開する私立小学校は、学校数で 216 校であり、全体に占める在学児童数の割合は 1.1%に過ぎませんが、それぞれの私立小学校は自らの存在意義を世の中に問い、日頃の地道な活動を通じて高い評価を得ています。

一方で、私立小学校の保護者の皆様には、学校運営の主要な財源として少ない学費をご負担いただいているにも拘らず、多くの保護者の皆様が子どもたちの学校生活の出発点として私立小学校を希望されています。

わが国の初等教育は、数の上では公立小学校が圧倒的多数を担っていますが、これからの公教育の健全な発展には、公立の均一的な教育とともに特色ある先駆的な私立小学校の教育が必要であることは、嘗ての「国民学校」の反省に立てば明らかであります。

願わくは、私立小学校の運営費に対して、更なる公的支援が恒常的に行われ、私立小学校へより多くの層の子どもたちが入学出来れば、私立小学校はさらに活性化し、このことは公教育全体の発展に繋がると確信しています。

考えてみれば、日本中の大人のすべてが小学校の卒業生です。誰もが、小学校の入学式のこと、教室での授業のこと、運動会や遠足のことなどを懐かしさとともに鮮やかに思い出することができます。しかし、残念なことに、大部分の方々にとっては、「小学校」は思い出の中にしかありません。現にある学校に残っているのは、校舎や運動場などであり、そこで共に学んだ級友やそこで教を受けた先生方との絆は卒業と同時に切れたままです。

その点、私立学校では小学校から大学に至るまで、人的ネットワークが確立されています。中でも、私立小学校の絆は、在校生や卒業生という枠や時代を超えて広がっていますが、これこそが私立学校の原点であるともいえます。

このたびの日本私立小学校連合会結成 70 周年を一つの契機として、加盟各校が特色ある教育や学校運営を通じて、今後ともわが国の初等教育の中で先導的な役割を担っていただくようお願いして、お祝いのことばといたします。

結成 70 周年を祝して

全日本私立幼稚園連合会

会長 香 川 敬

(鞠生幼稚園 理事長・園長)



日本私立小学校連合会が結成 70 周年を迎えられ、学校教育の一翼を担ってこられたその輝かしい軌跡を綴る記念誌が発刊されますことに対し、心からお祝いを申し上げます。

顧みますと昭和 20 年 9 月、文部省の「新日本建設ノ教育方針」に始まり、新教育制度の基礎となる重要な法律が相次いで制定・実施されました。昭和 22 年 3 月には「学校教育法」が公布され、新しい学制がしかれました。そして、昭和 24 年、私立学校の特性に鑑み、私立学校の健全な発展を図ることを目的として「私立学校法」が公布されました。

そうした激動の中、貴連合会が昭和 16 年に結成され、爾来、建学の精神を継承され、伝統を重んじられ、誇りをもたれて初等教育の先駆的な実践を積み重ねてこられたことは、誠に意義深いと拝察しています。

時代は今大きな変革期にあり、私たち、私立幼稚園を取り巻く環境は実に厳しいものがあります。しかし、変革期であるからこそ、私たちはこれを得がたい時と捉え、近未来の私立幼稚園の在り方を追求し、保護者や社会の要請に応えるべく幼児教育の充実に努めなければならないと考えています。

このため、OECD の提言にある『イノベーションをもたらす人』の育成を視野に入れながら、保育者の質・教育課程の質・学校経営の質、三つの質の向上を図り、学校力を高めていくことに努めています。

また、子どもを取り巻く環境が著しく変化し、子どもに歪みが生じているという由々しき事態に鑑み、全日私幼連では、「未来を担う子どもたちを共に育てる、子どもを真ん中にして様々な立場の人がつながる」そんな社会を実現する

ために、『こどもがまんなか PROJECT』を展開しています。

このような私立幼稚園の取組みは、いずれも『子どもの最善の利益』を目指すものであり、「今」目の前に生きる子ども一人一人を何よりも大切に考え、「今」目の前の子ども一人一人を幸せにする取組みです。

この考え方は、貴連合会と志を一にするものではないでしょうか。

幼小のなめらかな接続が求められている今日、子どもたちの内面的な育ちを大切にし、発達や学びの連続性を踏まえた質の高い教育を目指し、貴連合会のご指導を賜りながら、共に学び合い、高め合っていきたいものだと思います。

イギリスの歴史家 E・H・カーは、「歴史から学ぶというのは、決してただ一方的な過程ではない。過去の光に照らして現在を学ぶというのは、また、現在の光に照らして過去を学ぶということも意味している。」（『歴史とは何か』）と述べています。

本記念誌を通して、貴連合会における教育の歩みを総合的に見直し、先人の偉業を偲ばれるとともに、その優れた教育精神等を将来への指針とされ、貴連合会が今後益々充実・発展されますよう祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

結成 70 周年おめでとうございます

日本私立小学校連合会

前会長 平 野 吉 三

(啓明学園 理事長)



日本私立小学校連合会の会長職を 2002 年度から 2010 年度の 9 年間にわたり務めさせていただいた立場から、結成 70 周年に向けてひと言ご挨拶申し上げます。まずは結成 70 周年を迎えられた日私小連関係者に心からお祝い申し上げます。在職中は、役員の先生方や事務局職員の皆さんに心暖かく支えていただきました。また、役員会や研修会を通して先生方と交流する機会に恵まれ、教育行政に苦言を呈したり、社会情勢や親学といった幅広い分野で意見を交換するなど、私を私学人として育てていただいた時と場所が懐かしく思い出されます。また、全国の私立小学校を訪問する機会にも恵まれ、公立学校では真似のできない独自性と特色ある教育環境に、私立学校の歴史と伝統の深さを再認識されました。

今でこそ私立小学校は公教育としての社会的基盤を確実なものにしていますが、過去の歴史を振り返ると大変厳しい立場に立たされていたことが分かります。1940 年当時、橋田文相が私立小学校は国民学校として不適當であると発言したことで、私立の小学校は大変動揺し、校長連中はその発言に激怒しました。そこで濱野重郎（清明学園初等学校）先生を中心に全国の私立小学校同志の結束を呼びかけ、翌年 1941 年 12 月に日本私立小学校連合会の誕生へと一挙に動きました。その時の様子を元日私小連会長人見楠朗先生が結成 50 年誌に以下のように記されています。「第二次大戦開始直前に連合会を結成せざるを得ない非常事態に陥った。それは、一瞬時にして息の根を止められる危機から身を守るために、どうしても個々別々に生きていけなくなったという、絶体絶命の土壇場を迎えたことによるものであった。止むに止まれぬ結末であった」と。つま

り国民学校の中に私立学校は入れてやらない、という私学つぶしと思える重大なことが起きていたのです。結束に至る歴史的な重みと、私学の独自性を守る私学魂が幹部の先生たちに根付いていたことを思い知らされます。

ところで私立学校に対する圧迫、監督が強化され不平等な扱いを受けていたころ、私の学校（啓明学園）は日私小連結成1年前の1940年に創立しています。時代の混乱期にさしかかった時代にもかかわらず、当時数少ない海外からの帰国生のために開いた学校で、創立者三井高維は子どもたちが海外で習得した語学の維持伸張と、異文化体験を許容する教育を柱に添えたのです。ところがある日突然、三井は陸軍参謀本部に呼ばれ「キリスト、平和、国際を唱え、英米帰りの子女を教育し、英語を教えているスパイ学校はただちに廃止せよ」と脅かされました。しかし、キリストの教えを基に人格教育を施し、国際性を涵養し、外国語に力を注ぎ、帰国子女に対する特別の授業を断固守りぬいた三井高維の信念は、学園の特筆すべき出来事のひとつになっています。濱野先生をはじめとする当時の私学人の勇気ある行動が、今日の私立学校の形を築き上げてきたとも言えるでしょう。

「理念なくして私学なし」。これは常々肝に銘じている私の信念です。私立学校は創始者の熱い思いがあり、歴史の中で独自の教育方針を実践し、数値では比較できない特色ある教育や創意工夫を凝らしているところに意義があります。2010年代の日私小連教育宣言には、「個人の自由と人権および児童一人一人の個性を尊び、その内なる可能性と児童愛をもって引き出す方法を実践・探求し、未来を切り開いていく基礎的資質と心豊かな人間性を育成する」と、わが国初等教育の新たな創造を目指すことを誓っています。70周年を節目にさらなる先に日私小連が全国の加盟校の発展と私学振興に汗を流されることを心より願うひとりでです。

Ⅱ．結成 70 周年記念式典

平成 24 年 1 月 19 日（木）
（アルカディア市ヶ谷「大雪」）

1. 開式の辞

日本私立小学校連合会
副会長 原 誠 治

本日、日本私立小学校連合会結成 70 周年記念式典を開催しましたところ、皆様、大変お忙しい中、ご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

本日は、ご来賓として、平素から大変お世話になっております。文部科学事務次官森口泰孝様はじめ文部科学省の方々、東京都生活文化局の方々、私学団体の各代表の方々など、大勢のご来賓の皆様に公務ご多用の中、ご臨席賜りまして本当にありがとうございます。

お陰様で、このように盛大に開催できますますことを、心から御礼申し上げます。ありがとうございます。

また、式典開催にあたりましては、東京地区の先生方、事務局の方々、アルカディア市ヶ谷様など、大勢の方々に大変なご尽力をいただきました。ありがとうございました。

日本私立小学校連合会は、昭和 16 年に結成されて本年度で 70 周年を迎えましたが、この 70 年に至るまでに、文部科学省様はじめ、関係機関様、関係団体様などのご指導、ご支援のもと、私たちの先輩の方々の並々ならぬご努力、ご尽力があったお蔭と思い、皆様方に心から厚く御礼申し上げますとともに、日私小連加盟 179 校の今後一層の益々の発展を願ひまして、只今より文部科学省後援、日本私立小学校連合会 結成 70 周年記念式典を開催させていただきます。

どうぞ 宜しくお願いいたします。



2. 会長式辞

日本私立小学校連合会

会長 清水 良 一

教育は国家百年の大計であると申します。教育こそが我が国発展の原動力であると申します。2012年の年明け、本日ここに日本の教育、その中枢を担って下さいます森口泰孝文部科学事務次官様、私学行政の要職を担う皆様方、わが国の私立学校、幼稚園から大学まで約1万校、500万人の子どもたちから大学生までを束ねて下さる全私学連合 清家 篤代表をはじめ、各界重鎮のご臨席を賜り、「日本私立小学校連合会結成70周年記念式典」を開催できます事を深く感謝申し上げます。私たちは、この上ない幸せの中に今おいて頂いております。

また、この佳き日に、私学教育への功勞をもって「文部科学大臣表彰」の榮譽を受けられます皆様方と、永年勤続を表彰申し上げます皆様の列席を頂きまして開催出来ます事を合わせて感謝申し上げます。

我が国におきまして、本連合会に加盟します私立小学校179校はその割合において、その学校数においても1%程しかございませんが、先輩が築かれ連綿として受け継いで来られた本連合会の目的「日本の私立小学校の強力な連携によっても、その自主性と公共性を発揮し、私立小学校教育の充実向上を図ること」を結束の要とし、各校は建学の精神に基づき、多様な特色ある教育を行って参りました。この結成70周年という大きな節目に当たりまして、私どもが実践躬行すべきことは何でありましょうか。それは、本連合会結束の理念を私たちも全面的に受け継ぎ、加えて闊達な自発性をもって進取の精神をさらに奮い立たせ、磨き合いを為すこと、いわば、継承と闊達な進取の精神の昂揚をもって広く公教育に貢献すること、新たな実践に冒険心をもって船出することであると思っております。

原点とすべきは、日私小連歴代会長が語られ、第6代会長 人見楠郎先生が、「若者の命に尊い灯をともし、その光を掲げながら、次代を開拓する使命をその人に托すことが私学教育の本質である」と記してくださっているこの点に皆様のお考えが結実されている理念であると思います。

今、私たちは樂觀を許されない状況にあります。東日本大震災・放射性物質流出事故における本連合会「北海道・東北地区」を中心とする小学校におかれ

ましては、復旧復興の大事業。また、この 60 年間で 210 万人から 105 万人にへと半減した出生数に見られる少子化。欧州債務危機に伴う信用不安や歴史的な円高の長期化などから来る景況感の落ち込み。世論調査に現れた地震への危機感切迫。遠距離通学の敬遠傾向。—これらがその要因とみられる私立小学校への志願者減少が続いている事です。

この難局は必ず乗り切れると信じております。返りますれば、小学校制度発足以来今日まで、140 年間の歴史と共に歩んだ私立小学校も激動の歴史の連続でありました。

明治 5 年の「学制」43 条の示すところでは、当初から公立と私立とを併用する建前の為、明治 6 年の小学校総数 12,596 校中、私立小学校はその 36.5% で実に 4,599 校と記されております。しかし、公立小学校の拡大とともに私立小学校は目立って減少を余儀なくされ、大正の末には 100 校程に減少し、追い討ちかける如く、昭和 15 年 12 月、「国民学校には私立の国民学校は認めず」という、国民学校令公布目前における文部大臣ラジオ放送により、私立小学校は廃止されるという危機に瀕しましたが、初代会長濱野重郎先生を中心に、私立小学校大団結のお力により、存続の道を打開してくださいました。そして、本連合会が生まれたのであります。爾来 70 年、この歴史、大先輩の団結力と行動力を想起するときに、その連綿たる遺伝子を頂いている私達は今の難局をもきつと乗り越えて、未来を拓いて参りたいと思っております。

後世がもしその私立小学校の存在理由たる成果を問うのであれば、それは奥深い村里にも街にも、人に知られようとも知られまいとも、その持ち場を自分の為に、人の為に照らし、日本を世界を地球を担い続ける如何なる数の「若者の命に尊い灯をともし」得たかであります。

人生の「少き日」に一生を貫く尊い灯を燈されるならば、それは何にも勝る寶となるものであります。その灯を燈す業を教職員は骨身を惜しまず労を我が身の喜びとし、尊い存在として、吾が子のように育てあげようとして参りました。

皆様、今後とも私立小学校連合会は、誠に小さな団体でありますけれども、そのがんばりを私共は歩み出したいと思っております。明日に向かって力強く銅鑼を鳴らし次なる船出をさせて頂きたいと思っております。諸先生方どうぞ宜しく願い申し上げます。

3. 経過説明

日本私立小学校連合会

副会長 矢 崎 昭 盛

歴史的側面を交えながら経過説明をさせていただきます。日本の教育機関としては、奈良時代に天智天皇が「学校」を創設したという記述があり、官僚の育成機関としての「大学」や「国学」がそれに当たります。その後、平安時代に空海が「綜芸種智院」を創設しました。これが庶民の子弟の教育を目的とした私立学校のはじまりでしょう。

江戸時代には、武士の子弟の為の藩学や、一般庶民の為に寺子屋や私塾が次々に開設され、明治の新政府になった頃には、全国で一万数千の教育施設が存在していました。その中でも吉田松陰の「松下村塾」が明治の新しい時代を切り開く多くの人材を育成した事は世に知られております。

明治5年に「学制」が施行されましたが、その中に「町村人民ノ公益タルベキ私立学校アルトキハ、別ニ公立小学校ヲ設置サセルモ妨ゲンシ」と特記されている様に、当時私立小学校が公教育に対して如何に高い貢献をしていたかを伺い知る事が出来ます。そして同時に急速に公立小学校を増設して行った過程を見る事が出来ます。

明治5年に私立の義務教育小学校は約4,600校であり、新しく公立小学校が約8,000校が創設されております。その時点で私立小学校の日本に於ける学校数の割合は全体の37%でございました。

私立小学校と公立小学校を車の両輪として位置づけていこうとした「学制」でありましたが、私立小学校に対する教育行政の援助は幅広いものではありませんでした。その結果大正末期には私立小学校の数は100校にまで減ってしまいました。しかし、このような状況の中でも大正のヒューマニズムの流れに起こった、画一的な教育に異議を唱えた自由主義・児童尊重の教育を掲げて、新教育運動を展開した人々も多くありました。しかし、時代は昭和16年の第二次世界大戦に向かい。日本も軍国主義・国家主義時代に突入しました。東條内閣が誕生し、挙国体制の一環として「国民学校令」が敷かれ、その後尋常小学校も高等小学校も総て国民学校に統一されて行きます。その過程で「閣議で決定したから」という事で、当時の橋田邦彦文部大臣が昭和15年12月24日のラジオ放送で、「私立小学校は国民学校とするには不適當であるから廃止に決定した。

私立小学校は3ヶ月後に廃止する。」という内容の発言を、一夜の内に全国に放送したのです。この突発的な事態に、私立小学校関係者の驚きと困惑は計り知れないものがありました。

私立小学校はそもそも、その創立の理念に基づいてひたすら教育に専念していましたから、横の繋がりには薄いものでした。しかし、昭和6年の夏に「私立小学校を一つにまとめたい」という想いをもって、桜井・神戸芦屋児童の村小学校責任者と濱野重郎 清明学園創立者が話し合いを持ち、少しずつ話し合いの輪が広がっておりました。東京では組織造りを目指して同志を募り、加盟校28校で話し合いを進めておりました。

昭和15年の放送を機に、私立小学校の校長達が数回に渡って文部省にその経緯の説明を求め、そして抗議を重ねましたが埒が明かず、全国の私立小学校が結束して事態に当たる事として、昭和16年2月8日に暁星小学校にて「実行委員会」という名の下に全国の校長が集まりました。折衝上東京が中心となって全国に呼び掛ける形をとりましたが、事実上ここに「日本私立小学校連合会」が誕生したのです。

その後濱野氏を中心に文部省に赴き「私立学校が如何に日本の為になる義務教育を実施して来たか」、また「私立小学校を今全廃させる事は将来の日本にとっても無謀な事である」と繰り返し説いた結果、国民学校令の中に現行の私立学校の存置を認める条文を挿入して頂く事に成功し、私立小学校が辛うじてその廃止を免れました。

この年の4月に東京初等学校協会も組織が出来、事務局を置きましたので、ここを中心に全国運動が展開してゆきました。

それでも昭和16年3月に「国民学校令」が公布されますと、小学校の名称が廃止されると共に、私立小学校は国民学校という名称を使用する事が出来ず、初等部・初等科・初等学校・少年学校・国民学園などと名を変えて存続していきしました。

しかし戦火が激しくなり、疎開をやむなくされましたが、学童疎開に対する行政の配慮はほとんど無く、食料などの生活物資が困窮し、あるいは校舎を失い、戦時中34校の私立小学校が廃校に追い込まれ、全国で60校以下に落ち込んでしまいました。東京でも僅か23校になってしまいました。

しかし少しずつ私立学校が認められる様になり、昭和20年代に「私立学校法」「私立学校振興会法」「私立学校教職員共済組合法」のいわゆる私学三法が成立し

ました。そして昭和 50 年 7 月に「私立学校振興助成法」が成立しました。その第一条に「この法律は、学校教育における私立学校の果たす重要な役割にかんがみ、国及び地方団体が行う私立学校に対する助成の措置について規定することにより、私立学校の教育条件の維持及び向上並びに私立学校に在学する幼児、児童、生徒又は学生に係る修学上の経済的負担の軽減を図ると共に私立学校の経営の健全性を高め、もって私立学校の健全な発達に資することを目的とする。」とあり、私立学校に対する国の考え方が示されました。現在国会への加盟校は 179 校ありますが、それまで各学校が力を合わせ、私立学校の発展にとって最も重要な課題の一つである「教育内容」ならびに「教育方法の研修・研究」に力を入れてまいりました。昭和 31 年に設立された私学研修福祉会の助成によって、この年「全国教員夏季研修会」の第一回研修会が学習院初等科において 10 研究部によって開催されました。本年は第 56 回を迎え、合計 14 研究部によって開催される予定です。現在、日本私立小学校連合会は北海道・東北、東京、関東、西日本、九州の 5 地区に分かれて組織され、毎年各地区毎に様々な研究会・研修会が行われ、ほぼ全教職員が参加しています。また全国幹部研修会・全国教頭研修会・新任研修会・5 年・10 年経験者研修会も実施されております。

私立学校の団結は他の私立団体とも手を取りあって確かなものになって参りました。また本日「日本私立小学校連合会」が 70 周年を迎えられるのも公教育に於ける私学の果たす役割を理解して下さっている文部科学省と各都道府県、そして私学の他団体のお陰であります。心より感謝申し上げます。

私立の各小学校は幾多の困難を乗り越えてまいりました。現在全国の私立小学校 216 校は建学の精神に基づく人間教育を施し、そして初等教育の先駆的教育活動を実践し、多様な「教育機会」を提供しております。これまで週 5 日制・ゆとり教育・毎回の指導要領改定など数々の行政指導にも対応しつつ、更に現在は先行き不透明な経済面や震災の影響などで私学が苦しい時代に入りましたが、各学校が歯をくいしばりながらも発展をめざしているのは、その創立理念の日本の教育における異議と果たすべき役割を認識しているからこそであります。総ての私立小学校はこれからも国民に幅広く教育の形を提供し、それぞれが高い理想を持ちながら今後の日本の教育に貢献して参りたいと思っております。今後とも皆様のお力をお借りしてこの日本私立小学校連合会が今後結成 80 周年・100 周年ににぎやかに迎えられる事を祈念して経過説明を終わらせていただきます。

4. 祝 辞

文部科学大臣

平 野 博 文 殿

本日、日本私立小学校連合会結成 70 周年記念式典が盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

日本私立小学校連合会は、昭和 16 年にその母体となる実行委員会が結成され、以来 70 年の永きにわたり、我が国の私立小学校教育の振興・充実に多大の貢献をしてられました。清水会長をはじめ歴代役員及び関係の皆様方のこれまでの御尽力に対し、心から感謝の意を表します。

また、私立小学校教育の振興に長年にわたり尽力され、本日表示を受けられます方々におかれましては、これまでの並々ならぬ御労苦と多大のご功績に対し、深く敬意を表します。

昨年は、東日本大震災や集中豪雨等に見舞われ、我が国にとって激動の年でした。今後、我が国が「元気な日本の復活」を実現するためには、次代の日本を担う人材の育成が重要であり、そのために教育の果たす役割は極めて大きいものがあると考えております。とりわけ小学校教育は義務教育として行われる普通教育の初段階であり、生涯にわたり学習する基盤を培う重要な教育であります。また、我が国の小学校教育の一層の充実・発展を考えると、独自の建学の精神に基づき特色ある教育を行い、個性豊かな子供達を育てられた私立小学校に寄せる期待はますます大きいものがあります。

私立小学校の関係の皆様方におかれましては、我が国の公教育の重要な一翼を担う私立小学校の充実・発展のために、一層の御尽力をいただきますようお願い申し上げますとともに、本日の栄えある式典を契機に日本私立小学校連合会が今後ますます充実・発展を遂げられますことを心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

(文部科学事務次官 森口泰孝様代読)

祝 辞

全私学連合 代表

清 家 篤 殿

(慶應義塾 義塾長)

日本私立小学校連合会が、本年めでたく結成 70 周年を迎えられましたことを、全私学連合を代表して心よりお祝い申し上げます。清水良一会長をはじめとする役員の皆様、事務局の皆様、また加盟校の皆様、関係各位におかれまして誠にありがとうございます。70 年という永きにわたり、その設立の主旨にのっとり小学校教育の振興にたいへんご尽力をされてこられました皆様に、心から敬意を表するものであります。

さて、先程来清水会長、矢崎副会長のお話にもございましたように、日本私立小学校連合会の起源は、日本が先の大戦に突入していく中で、挙国一致の名のもと発令された国民学校令によって、私立小学校が消滅の危機に瀕した際、その状況を打開するために日本中の私立小学校が連携したことにあると承知しております。結成以来 70 年、幾多の困難を乗り越えて、またそれぞれの学種別私学団体などと協力されながら、私学三法や私立学校振興助成法などの成立も含めて、私立学校の振興と発展、その他の問題解決に取り組まれ、初等教育はもちろんのこと我が国の教育の振興発展に寄与してされました。

特に私立小学校は、人間形成の基礎づくりを行う初等教育の場として、日本の義務教育の重要な役割の一翼を担っておられるわけですが、それぞれの学校が建学の精神に基づき、特色ある初等教育を時代に即して実践し、個性豊かでバランスのとれた人間を育む私立小学校の存在意義というのは誠に大きなものがあると信じております。

長期的な少子化傾向にもかかわらず、私立小学校の数は増えております。この 10 年間の国公私合わせた小学校総数は、平成 13 年度に 23,964 校でしたが平成 22 年度には 22,000 校に減少しております。その一方で私立小学校は、平成 13 年度の 172 校から平成 22 年度には 213 校と新たに 41 校が増えています。

学校の数が増えているというこの事実が示しますように、私立学校に対する

社会的な要請は高まっており、全国の私立小学校が連携され、研修・研究を深め合うなど協力をされる必要性はますます大きくなっていると思います。とりわけ、初等教育から中等教育・高等教育までの一貫教育の実践、外国語教育の充実、生活科のパイロットスタディーといったように、日本の初等教育において私立小学校が積極的に取り組んでこられた先駆的教育活動はきわめて貴重なもので、これからも引き続き、発展させていって頂きたいと願っています。

幼稚園から大学、大学院での私立学校全体を取り巻く経営環境は非常に厳しいものがありますが、逆境の中にあってもその時々時代の要請に柔軟に対応することができるのが私立学校の特長であり、存在意義であると思います。とりわけ、今日のような大きな変化の時代であればあるほどその社会の中に、多様性を確保することが社会の持続可能性を高めるためにも大切なことであります。その意味で、建学の精神に基づく個性ある教育を行う私立学校の存在は貴重であり、その中で私立小学校は初等教育に於いて、教育の多様性を確保するために、今日の日本の社会にとってはなくてはならない存在であると信じております。

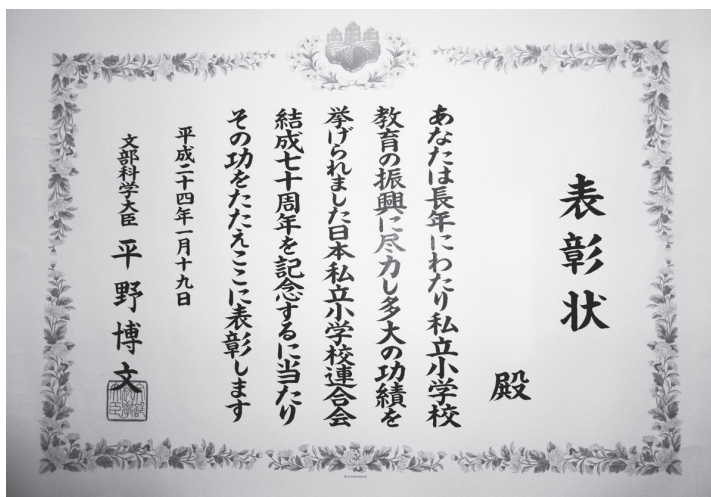
ご承知の通り改正「教育基本法」を受けて策定されました「教育振興基本計画」が、策定から5年目を迎えるにあたりまして同計画の見直しが検討されるなど、日本の教育のあり方は新たな局面を迎えておりますが、そうした中で、日本私立小学校連合会の役割はいよいよ大きなものになってきていると思っております。日本私立小学校連合会が、今日まで社会に大きな貢献をなしてこられたことに対しあらためて深く敬意を表するとともに、この70周年という機会を機に新たな飛躍への出発点とされまして、日本の初等教育の質を高め、更に私立学校教育全体の振興と日本社会の発展のためになお一層ご尽力されるよう祈念いたしまして私の祝辞といたします。今日はまことにおめでとうございました。

5. 表 彰

日本私立小学校連合会結成 70 周年を記念するに当たり、私立小学校の教育に長く従事し、私立小学校の教育の振興に特に功績のあった学校法人の理事長、理事、校長、また校長に準ずる職にある先生に対して、文部科学大臣がその功労をたたえ表彰することを決定し、文部科学省高等教育局長が文部科学大臣表彰候補者の推薦を都道府県知事に依頼、推薦のあった候補者のなかから 12 氏を表彰した。

また、本会は日本の私立小学校が幾多の困難を克服し、時代の変遷とともに着実な発展を遂げ、今日の私立小学校教育の隆盛を築き、支えてきた学校法人の理事長、理事、監事、学校長、副校長、教頭、専任教諭、専任講師並びに職員の現職者のうち、理事長、校長から推薦のあった候補者のなかから私立小学校永年勤続者 211 名を表彰した。

①文部科学大臣表彰



謝 辞

文部科学大臣
平 野 博 文 殿

文部科学大臣表彰 被表彰者代表
中 村 太貴生

日本私立小学校連合会が結成されて 70 周年を迎えたこの良き日に、ただ今は教育振興功労者表彰という身に余る光栄に浴し、ただただ感激で胸が一杯です。心より厚く御礼申し上げます。

私共は取り立てて申し上げる程の業績を挙げたわけではありません。

ただ「私学は一つ、教育は私学から」の気概を胸に夫々が其々の所属する学校の理念に基づき私学教育の充実発展を願って日々、地道に努力を重ねて参っただけですが、このように表彰していただき、これに勝る喜びはございません。私共は、本日の表彰を大いなる励みとして、今後も私学教育進展のため、出来る限りの力を尽くして参りたいと思います。

最後になりましたが、文部科学省におかれましては、永年に亘って私立小学校に対し深い御理解と温かな御支援を賜り誠に有難うございます。深甚なる謝意を表して御礼の言葉とさせていただきます。

平成 24 年 1 月 19 日



謝 辞

日本私立小学校連合会
会長 清水良一 殿

私立小学校永年勤続者表彰 被表彰者代表
小 川 正 夫

本日、日本私立小学校連合会結成 70 周年記念の会に、参列させていただけますことを、大変光栄に思っております。

只今、永年、私学を支え続けて来られた皆様とご一緒に、表彰を戴くことができますことを大変名誉なものと、心より感謝申し上げます。

多くの先輩方が、70 年の歩みの中で築いてこられた礎が、道標となり、私学で共に働く多くの教職員の方々のご支援の中でこそ、戴ける栄誉であることを確り心に置き、常に研鑽努力する教育者として、明日を創り出す子ども達を支えて参ります。

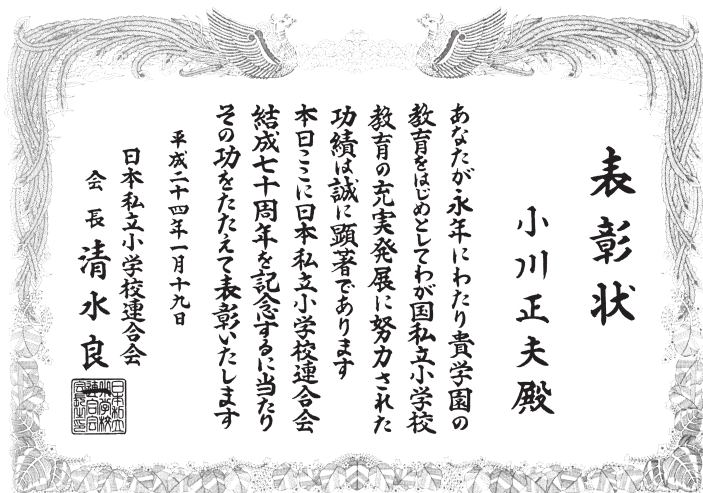
私学には、夫々の学校独自に掲げる創立の精神教育に願う理念があります。その精神と理念が私学教育の歴史を支え、発展してきました。

その伝統を受け継ぎ、子ども達が勇気を持って自分の将来をつみ掴み取る努力ができるように、全力で支援してまいります。

本日表彰されました私達は、みな、新たな勇気と情熱が湧いてきました。

私学教育こそ、目指す我が国の教育の要、輝く日本の明日の力となるように、新たな意気込み誠実な姿勢で子ども達に向き合っていくことお誓いして、感謝の言葉と致します。ありがとうございました。

②会長表彰



記念式典次第

【司会】日本私立小学校連合会
常任理事 進 藤 洋 輔

- | | | |
|----------------|---|----------------------|
| 1. 開式の辞 | 日本私立小学校連合会 副会長 | 原 誠 治 |
| 2. 国歌斉唱 | [テープ誘導] | |
| 3. 会長式辞 | 日本私立小学校連合会 会長 | 清 水 良 一 |
| 4. 日私小連経過報告 | 日本私立小学校連合会 副会長 | 矢 崎 昭 盛 |
| 5. 祝 辞 | 文部科学大臣
全私学連合 代表 | 平 野 博 文 殿
清 家 篤 殿 |
| 6. 来賓紹介 | | |
| 7. 文部科学大臣表彰状授与 | 私立小学校教育振興功労者表彰被表彰者代表
元 梶山女学園大学附属小学校 校長 | 中 村 太貴生 殿 |
| 8. 受賞者代表謝辞 | | |
| 9. 会長表彰状授与 | 私立小学校永年勤続者表彰被表彰者代表
聖ステパノ学園小学校 校長 | 小 川 正 夫 殿 |
| 10. 受賞者代表謝辞 | | |
| 11. 閉式の辞 | 日本私立小学校連合会 副会長 | 塩 田 征 雄 |

私立小学校教育振興功労者文部科学大臣表彰被表彰者

福島県	川 田 紀美子	桜の聖母学院小学校校長
東京都	矢 崎 昭 盛	国本小学校校長、(学) 国本学園学園長
	景 山 壽 貴	小野学園小学校教頭
	功 力 俊 文	元 日本女子大学附属豊明小学校校長
	園 田 達 彦	元 聖徳学園小学校校長
	大 森 隆 實	元 日黒星美学園小学校校長
	武 田 博 信	元 トキワ松学園小学校校長
	中 村 弘 之	自由学園初等部部長
	竹 下 昌 之	元 成城学園初等学校校長
愛知県	中 村 太貴生	元 梶山女学園大学附属小学校校長
京都府	櫻 井 成	光華女子学園光華小学校校長
奈良県	堀 俊 一	(学) 帝塚山学園学園長補佐、元 帝塚山小学校校長

私立小学校永年勤続者表彰（会長表彰）被表彰者

宮城県	土井智子	聖トミニコ学院小学校	東京都	加藤三明	慶應義塾幼稚舎
	石井美知子	"		近藤由紀彦	"
東京都	飯塚みづ江	"		大島誠一郎	"
	蓮沼勇一	暁星小学校		梅野三四郎	"
	根本睦洋	"		高柳信夫	東京女学館小学校
	花房徳子	白百合学園小学校		細谷正夫	"
	益本由美子	"		島根照夫	青山学院初等部
	出津いよ	"		池田敬介	"
	香取順子	"		伊原直美	"
	武田毅子	"		佐々木淳	"
	松浦栄子	"		中村貞雄	"
	吉野玲子	"		窪田靖	"
	藤井美奈子	"		柚田早苗	"
	藤松薫	聖心女子学院初等科		佐藤圓	宝仙学園小学校
	井出美奈子	"		千葉忠茂	"
	池田直之	"		石川雅彰	立教女学院小学校
	岸尾祐二	"		大塚直美	"
	今井敏子	東洋英和女学院小学校		宮谷昭光	"
	小野寺才逸	日本女子大学附属豊明小学校		小塚洋	光塩女子学院初等科
	田畑英子	"		村越みどり	"
	松澤令子	"		林芳子	"
	辻戸誠治	"		村松賢一	星美学園小学校
	戸谷秀一	"		佐藤慎	聖学院小学校
	篠原眞澄	"		村上富美子	"
	川合洋子	"		伊地知美佳恵	"
	新井勝夫	目黒星美学園小学校		工藤みつ子	"
	小林憲一	"		角田芳子	"
	石川俊夫	"		児玉秀夫	淑徳小学校
	濱野富美子	清明学園初等学校		長澤和夫	"
	浅野輝一	"		山内真一	"
	乙訓富枝	文教大学附属小学校		渡辺博枝	"
	藤雄比佐夫	聖トミニコ学園小学校		三嶋佳	"
	伊藤敦子	"		大島りか	武蔵野東小学校
	玉鈴恵美子	"		瀬清	明星学園小学校
	石田宏子	"		秋野憲治	"
	山崎昭彦	"		清水浩美	"
	茂木幸彦	成城学園初等学校		野崎恵子	明星小学校
	立木和彦	"		石割葉子	"
	木村隆	"		竹村敏	"
	瀬戸和好	"		佐々木靖	"
	塩野雅樹	"		菅野秀二	"
	佐藤澄枝	"		古賀博	"
	杉田博之	"		西村美智子	啓明学園初等学校
	本多静枝	"		磯沼素	"
	崎間雄	"		馬場敏行	晃華学園小学校
	板橋昭夫	東京都市大学附属小学校		小崎奈穂美	"
	三浦晴弘	田園調布雙葉小学校		田中五造	玉川学園小学部
	佐々木顕	"		土本和光	"
	田中龍郎	"		才記隆光	"
	持丸由美子	"		小川恵子	"
	岡田ひろ子	"		大黒喜晴	"
				小野肇	"

記念祝賀会次第

【司会】日本私立小学校連合会

常任理事 中 村 弘 之

常任理事 横 澤 敬 蔵

- | | | |
|-----------|---|-----------------------------|
| 1. 開会のことば | 日本私立小学校連合会 副会長 | 牧 山 涼 子 |
| 2. 会長あいさつ | 日本私立小学校連合会 会長 | 清 水 良 一 |
| 3. 来賓祝辞 | 日本私立中学高等学校連合会 会長
全日本私立幼稚園連合会 会長 | 吉 田 晋 殿
香 川 敬 殿 |
| 4. 乾 杯 | 日本私立学校振興・共済事業団 理事長 | 河 田 悌 一 殿 |
| 5. 祝 宴 | | |
| 6. 音楽の贈り物 | 和太鼓 | 東京私立初等学校協会教員有志 |
| 7. 祝 辞 | 前 日本私立小学校連合会 会長
元 日本私立小学校連合会 副会長
前 日本私立小学校連合会 副会長 | 平 野 吉 三
天 野 昭 一
堀 俊 一 |
| 8. 閉会のことば | 日本私立小学校連合会 副会長 | 矢 崎 昭 盛 |

和太鼓 出演者

加 藤 陸 雄（成城学園初等学校）	桐 谷 乃字奈（成城学園初等学校）
湯 山 陽 子（成城学園初等学校）	堀 辺 千 晴（成城学園初等学校）
秋 山 朋 也（成城学園初等学校）	酒 井 和 也（成城学園初等学校）
野 口 祐 之（清明学園初等学校）	日 高 和 徳（清明学園初等学校）
林 久 博（成蹊小学校）	遠 藤 優（国本小学校）
瀧 川 有 子（国本小学校）	

6. 閉式の辞

日本私立小学校連合会

副会長 塩 田 征 雄

本日は、日本私立小学校連合会 70 周年記念式典がかくも穏やかに、そして滞りなく終了する運びとなりました。高きところからではございますが、ご臨席たまわりました方々、そしてこの式典の遂行にご尽力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

“今” 閉会を直前にしたこの時、私は皆さまと共にしたいことがあります。それは一昨年 6 月、日本私立小学校連合会が高らかに謳った「2010 年代の教育宣言」です。その没頭「今や、地球規模で激動する 2010 年代を迎えました。私たち私立小学校は、著しい社会変化と科学技術の高度化が進展する時代の中で、建学の精神を継承すると共に伝統を重んじ、その使命とする理想の教育を目指し、誇りを持って初等教育の先駆的な実践を世に問うてきました」と、格調高く説かれ、最後に「私たち私立小学校は伝統と特色ある教育を更に充実させ、私学人として自覚に立ち、お互いに協力結束し磨き合い、我が国初等教育の新たな創造を目指すことをここに宣言します。」と結ばれています。

この宣言は、これからの向こう 100 周年、そして更なる未来永却に向けて、「揺るがぬ」私学の教育の理念としてのメッセージです。是非、皆さまと共に大切にしたいとの願いから読ませていただきました。

さて、今年は特に、2010 年から 2011 年への確かな繋がり大切さを思います。なぜなら、未だおさまらない地震に「揺らぐ大地」を思うからです。そして、昨今の「揺らぐ政治」を思うからです。更に様々な視点での「揺らぐ価値観」を思うからです。

その“揺らぐ今”、にあって、願いはただ一つです。それは次代を担う子ども達の健やかな成長です。しかし、私たちには、その不透明な“今”生きる子ども達とどうよりそえるかに「ためらい」を禁じ得ませんでした。

で、今、私たちはその「ためらい」が払拭されました。

それは、私たちは本日の日本私立小学校連合会結成 70 周年記念式典を通して、

決してぶれることない、「揺るがぬ私学教育の理念」をあらためて確信が出来たからです。

二つ目はに日本の私立小学校が70年の歳月に堂々と営んできた“今まで”の私学教育に関わってこられた先達を通して繋がった、“今”を思うことが出来ました。そして、その“今”を生きる大切さを思うことが出来ました。そして、“これから”に繋げる使命と勇気をいただきました。そして、“これから”繋がる営みが決して「揺らぐ」ことがないことの確認がその「ためらい」を払拭したのだと思いました。

その意味で、本日、ご臨席賜った参列して下さった皆さまに言葉では言い尽くせない感謝を申し上げて、閉会の辞と致します。ありがとうございました。繰り返し感謝です。ありがとうございました。



Ⅲ. 結成 70 周年を祝して

～私学人 OB・OG から後世に語り継ぐべきこと～

教育を先導する私立小学校

元 捜真小学校 校長

元 日本私立小学校連合会 副会長

天 野 昭 一

私は平成 2 ～ 3 年、日本私立小学校連合会会長人見楠郎先生、関東地区私立小学校協会理事長松本尚先生の力強い御指導のもと日私小連の理事を務め、そのおり日私小連結成 50 周年の準備、記念事業が実施されました。

その後、松本尚先生がお亡くなりになりましたあと、平成 5 ～ 7 年日私小連副会長、関東地区私立小学校協会理事長の責を担うことになりました。

平成 7 年捜真小学校を退職する時、鎌倉の清泉小学校の校長シスター山路鎮子先生から「清泉に来ていただきたい。」とのお話をいただき「しっかり教育をしておられるので、私の出る幕はありませんが。」と申しあげましたが、ぜひとのことで伺うことにしました。清泉小学校は学校をあげて研修活動が盛んですので楽しみに参りました。校内での活動のほか、三浦半島に広大な畑、水田、果樹園、宿泊設備も整い、常駐して指導、管理をする先生もおり、各学年は年間予定にしたがって学校のバスで行き来し、収穫された作物は学校のトラックで鎌倉まで運ばれてきます。お正月あけ、2 年生が自然教室に行く日、「今日は何しに行くの。」と聞きましたところ「七草がゆを作りに行きます。」とのことでした。現地で七草にあたるものを探し、七輪にお鍋を乗せ、火をつけパタパタあおいで作ります。シスター、先生方の「日本の子どもを育てる。」という意識を感じました。近頃、七草がゆを食べない家庭が多くなっている時、七草がゆの話を聞き、「今日は七草がゆを作っていただきました。」と家に帰ってお話する小学校 2 年生に「それはよかったわね。」と家の方々は清泉小学校の教育に対する信頼をますます深くし、清泉が好きという方が増えて行きます。私学はその学校が好きという方々によって支えられていきます。

清泉の 1、2 年生に「読書」という時間があります。学校が指定した本を読ん

で、ノートに書き写します。クラス担任と私でクラスを半分に分け、静かに読んでいそばに小さい椅子に座って1、2分聞いています。「よく、読めました。」と言って次の方に移ります。この短い時間。教師と児童が1対1、「今は私だけの先生」これが大事なのです。清泉小学校には3年間だけでしたが、成長してゆく子どもを見て、清泉の教育のすばらしさを感じました。

平成11年横浜の聖坂養護学校の役員を頼まれ何うことになりました。関東学院六浦小学校の校長をされ、昭和30年～54年にわたって日私小連の理事、副会長をされた下平千太郎先生が聖坂養護学校の理事長をされて、保護者の方に聖書の学び「聖読会」を担当されておられました。聖坂養護学校は小、中、高、専攻科まであります。小学部は神奈川県私立学校協会に属し「神奈川県私立小学校造形展」にも出品し、私立小学校の交わりをもっています。下平千太郎先生がお亡くなりになり「聖読会」の担当を平成14年から引き受けました。普段はお母様だけですが、ある時お父様が見えておりました。息子さんがどうしても聖坂に入りたく、家は埼玉ですので一人で通学は無理、お家の方が送り迎えをされるのならということで入学された方でした。朝送り、下校時につれて帰るということで、日中は横浜にいなければなりませんので、「聖読会」にお父様か、お母様のどちらかが出席するようになりました。私学はどうしてもこの学校で教育を受けたいという方によって成り立っているのです。小学部は県内の私立、横浜英和小学校5年生、捜真小学校3年生、逗子の聖マリア小学校6年生と年2回交流を続けています。平成23年3月11日東日本大震災の時、交流に来ていた聖マリア小学校35名は交通機関が止まって逗子に帰ることも出来ず、迎えも困難で教師3名と6年生25名は聖坂に宿泊しなければならいませでした。深い交わりとなりました。なお、県内の私立小学校の交流の場は「私立小学校水泳大会」「私立小学校音楽会」として毎年盛大に行われています。

今日、日私小連に新たに加盟される私立小学校があることはすばらしいことであり、研修会が盛んに行われ、各学校がその役割を担い、参加人数も多くなっている現状は嬉しいことでございます。

教育を先導する日本私立小学校連合会の結成70周年誠にとおめでとうございます。今後益々の御発展を願って終わりの言葉とさせていただきます。

日私小連国語研究部の誕生

元 宝仙学園小学校 校長

元 日本私立小学校連合会 常任理事

石 川 謹 悦

昭和 45 年 4 月から、私は、東京私立初等学校協会国語研究部主任の任に当たっていました。

この年は、東初協国語部有志による読み物研究会が、今までの成果をまとめて、「新日本子どもの文学」学年別（仮称）として、発行の準備を進めている年でもありました。

その年度初めに、成蹊小学校の亀村五郎先生から、「そろそろ、日私小連の国語研究部をつくる話し合いを始めませんか。」という、ご相談がありました。

日私小連の全国研修会では、すでに、算数、理科、社会など、主要教科の研究部会があり、毎年、全国教員夏季研修会での成果が報告されていました。

ところが、日私小連には国語研究部がないため、各地域では国語研究部に所属しているものの、全国夏季研修会では、図書館部会や学級経営部会等に参加せざるをえませんでした。

先の読み物研究会などをとおして、東初協国語部のなかでは、日私小連に国語部がないことについての暗黙の了解のようなものがあり、熟成を待つかのような雰囲気がありました。

しかし、何故、全国組織の国語研究部会がないのか、以前から疑問の声がありました。

この頃、成蹊小学校長の野村純三先生が、日私小連の常任理事を務めていた時期でもあり、亀村先生に国語部創設の話をなさったのではないかと想像されます。

国語部が生まれなかったその一番大きな要因は、安易に全国組織を作ることへの危機感があったからです。組織を作って魂入れずでは、他人任せの形だけのものとなってしまいます。その内容の盛り方や進め方を、どうするかに心配があったからです。

私と副主任の荻野有司先生は、日私小連国語部を設けることについて、関西および神奈川の意向を確かめるべく、直接、各地域に足を運びました。

どちらの地域でも、大きな反対はなかったのですが、作るなら形だけの組織

ではなくて、「内容のある、発展性のある国語部会でありたい」という一点に集約されました。なお、創設についてのまとめ役は、東京地区が担当することで話は進められました。

そこで、45 年度夏の研修会では、「全国国語部会設立についての話し合いを開く」旨、各地区に連絡をし、全国夏季研修会ではどこかの部会に参加をしていただくようにしました。

その年は、神奈川の西熱海ホテルで夏季研修会が行われました。まだ、国語部はありませんので、各部の研修が終わったあとホテルの一室を借りて、国語部設立についての話し合いを開きました。

西熱海の研修会では、ガリバン刷りの速報版が出ていて、その日のことや翌日の予定を知ることができるというサービスぶりでした。国語部設立準備会についても取材があり、時間や場所をその速報版に載せていただいたことを覚えています。

準備会は、二十人ぐらいの集まりとなり、一人ひとり、国語部創設についての希望や意見が述べられました。中でも、私学としての国語部のありかた、また、私学の若い先生を育てていくための国語部のありかた等、意見の交換はこれからの試案づくりに有意義な内容だったように思います。

そのような命題を胸に冬休みだったように記憶していますが、東京 4 名、神奈川 1 名、関西 2 名の日私小連国語研究部設立委員が代々木の日本青年会館に泊まりこみ、来年の夏に向けての準備をすすめました。

残念ながら現在、私の手もとに当時の資料はほとんどありませんが、国語部創設についての骨子、部会の持ち方等についてまとめたように思います。それを基に、各地区で、夏の発表者や司会の細部が決められていきました。

そして、昭和 46 年度の日私小連全国教員夏季研修会の要項に、初めて国語研究部会の文字がはいりました。

昭和 46 年 8 月神戸市で行われた夏季研修国語部会、初回の研修会は、亀村五郎先生を部会長にして発足をし、100 名を超える参加者があり文字どおり熱い研修会となりました。

私学を思い国語部を思い、一人の教師としての部会長の基調報告は、胸の高鳴りを思わせるものだったことを覚えています。

私のおぼろげな記憶をたよりに、日私小連国語研究部誕生のいきさつをつづりました。

世界で活躍する日本のサッカーを育てるには

元 東京創価小学校 校長

元 日本私立小学校連合会 常任理事

伊 藤 譲

私学会館（アルカディア市ヶ谷）で行われた幹部研修会の講演会でお聞きした国際オリンピック協会委員の岡野俊一郎氏のお話は、今でも印象深く思い出することが出来ます。

日本サッカー協会のリーダーとしても多角的に活躍されていた岡野氏の講演が終わった後、私は「日本のサッカーが世界の舞台で活躍するようになるには、少年サッカーの育成が重要だと思います。少年サッカーの応援にはどんな心掛けが大切でしょうか？また、スポーツの応援に限らず本当に人生の糧になる応援はどうあるべきでしょうか」と質問しました。

岡野氏は、あの人なつこい表情で、「私は、少年サッカーの応援に来ているお母さんに『お母さん、サッカーやっていたんですか？』って聞いてみたいと思うことかあるのです」——「何やってるの?!」「早く蹴りなさい!」と具体的な指示を出すお母さんの熱心な応援風景を紹介しながら「試合中の具体的な指示は監督に任せるのです」「私達が目指すのは『困難を乗り越える教育』です」との基本的な考えを示されました。

そして、試合が終わったら、勝っても負けても、立ち上がって拍手で迎え、「よく頑張ったね!」「お母さんは、家で温かいご飯を作って待っていますよ」と明るく声をかけてほしいと要望されました。

裕福な家庭に育ったご自身の生い立ちを紹介、子供の将来のための「一人立ち」への家庭教育について話してくださいました。

岡野さんの御家庭には小さい頃から「子どもは炬燵に入らない」「布団の上げ下ろしは自分でする」というルールがあったそうです。

また、小学生の頃は、サッカーに限らず、さまざまな運動に挑戦することが大切であることも話してくださいました。

2011年の夏は「なでしこジャパン」の活躍で日本中が沸きかえりましたが、そのニュースを見ながら、私は私学会館で行われたこのような研修会の運営のために尽力された諸先輩の方々のお姿を思い起こしております。

日本私立小学校連合会結成 70 年に想う －教員の資質向上と研修会の意義－

元 目黒星美学園小学校 校長

元 日本私立小学校連合会 副会長

大 森 隆 實

今年、日本私立小学校連合会全国教員夏季研修会が行われた京都には、全国から 1000 名をこえる私学の先生方が参加され、全体会のグランドプリンスホテル京都は熱気で溢れていました。清水良一会長によれば、1000 名の参加は初めてということでした。

わたしが初めて参加した夏季研修会は、45 年前の 8 月に行われた軽井沢での第 11 回でした。この研修会で初めて社会科研究部が全国規模で実施されたと記憶しています。

研修会場は、軽井沢にある都内の私立学校の所有する林間学校でした。私の参加した社会科部会は、東洋英和の夏季施設でした。83 名の全国からの先生方が寝食をともにして熱心に話し合われたのを覚えています。初日の夜、軽井沢駅の南に隣接する晴山ホテルに 479 名が集まり開会式が行われました。私立小学校に勤務する先生方の力強さに圧倒されたのを覚えています。残念ながら現在は若者で賑わうアウトレットモールに姿を変えてしまいました。

そこでは社会科の授業に限定することなく、教育について、私立学校について沢山のことを学びました。右も左も分からない若輩に、私立学校の良さを熱く語っていただけたことが、今日まで歩んでこられたわたしの支えになっているに間違いありません。

昨今、私学の独自性があらゆるところで求められています。公私の違いが見えづらくなっているのも事実です。そのような折、京都で沢山の先生方が一堂に会し研修することは大変意義あることです。私立学校の今後を占うことの一つに、教員の資質の向上があげられます。

文科省は、いつの時代にも求められる教員の資質能力として 5 項目を挙げています。その中で、教科等に関する専門的知識が優先されているように感じら

れます。学校としての評価が上級学校への進学実績で決まるようなところがある今日、学校をあげて学力の向上、偏差値を高めることに一生懸命なのは無理のないところだと思います。

しかしながら、教師としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童生徒に対する教育的愛情、広く豊かな教養をけしてないがしろにしてはならないと思います。

私立学校は建学時に人としての理想の姿を掲げ、そこに近づくための教育を行ってきました。全人格的な人の形成を目指した結果、それぞれの学校の特徴として世間から認められるようになったのであって、よい評価を得るための、特色ではないことを知ってほしいのです。

社会科研究部会は初日、最終日を挟んで2日目はフィールドワークでした。

表千家会館に集合し、表千家の小笹晃先生から茶道のレクチャーを受けお茶をいただきました。次に、表千家不審庵の見学をしました。千利休に始まる茶道の歴史から、内弟子になるためには、といった質問まで丁寧に答えられる姿から、たくさんのことを教えられました。また、道々に仲間の先生方と話す会話からも私学らしさを伺うことができました。狭い道を歩く際、何気なく車道側に身を置き、先輩を大事にする様子など、教師の資質以前に人としてのあり方を見ることができ、研修会の意義を強く感じたものです。

偏差値を高めることに躍起になり、ティーチングマシン化している自分に気づき、そこからの脱却をはかる教育が、時代を超えて、国を超えて求められています。それらに応えられる私立学校であってほしいと願ってやみません。

いつくしみ深き 友なるイエスは

元 福岡海星女子学院附属小学校 校長

元 日本私立小学校連合会 副会長

小 沢 京 子

日本私立小学校連合会の結成 70 周年、おめでとうございます。

70 年の歴史の中の 5 年間だけでしたが、皆さまと出会わせていただけたことを心から感謝しております。お役にも立てずたくさんのご迷惑をおかけしてしまったのではないかと、申し訳なく思うこともございます。至らなかった点は、どうぞ、お許してください。

わずか 5 年の在任期間中に、九州私小連の副会長・会長の当番が当たり、日本私立小学校連合会の理事もさせていただくことになりました。それまで知らなかった世界に触れさせていただくことができ、感謝しております。同時に、先生方の私学の小学校教育に対する愛情・熱意・使命感から、もっともっと多くのことを学ばせていただきたかったとも思います。

九州地区の教員研修会で、夕食の後、各グループの出し物があるのに驚いたことを思い出します。福岡海星小は「博多にわか」を出したこともあったでしょうか。沖縄の方たちは民族衣装をつけてカステネットや三味線を使って歌い踊り・・・私は中高の研修会で、このような和気あいあいの、「家族のような」楽しい場を体験したことはありませんでした。教育をあずかる者として、このような人と人とのつながりや楽しみはとても貴重だなあと、深く感動しました。出し物の準備に時間を取られて、研修が手薄になるのではないかと危惧する向きもなかったようですが、初心者の中にはとても新鮮で、感動いっぱいでした。人相互のつながりがややもすれば薄くなりがちな時代に、こうした場・時を持続ける努力は、児童の人間関係構築力に良い影響をもたらすと思いましたが、その後どうなっているのでしょうか。「研修一本」になってしまったのでしょうか。

もう一つ忘れられないのは、私が校長を務めさせていただくようになって 2 年目のことだったのでしょうか、九州地区の教員研修会の直前に前教頭の床嶋邦彦先生が急逝されたことです。研修会のオープニングの日と、お葬儀が重なっ

てしまい、教員たちは床嶋先生をお送りしたいと強く希望しました。校長にとって、試練の時でした。しかし、「教員研修を大切に思い、この研修会を育ててこられた床嶋先生のお気持ちを考えると、お葬儀に参列するために研修会を抜けるよりも、参加する方がご遺志に添える」と考え、全員お通夜に参列し、お葬儀は代表の先生に参列してもらうことにしました。先生たちも受け入れてくれて、床嶋先生も「それで良いよ」と言ってくださったと信じています。

私は現在、小学校を離れて、非常勤講師として中学高等学校で倫理・宗教の授業を担当しています。毎回授業の終わりに、その授業の中で何を感じ、考えたか、学んだか、などを簡単に書かせ、その中から、これは他の生徒にも知らせたいと思うものを取り出し、次の授業のはじめに名前を伏せて紹介しています。すると、生徒たちは、他の人が何を感じ、考えているのかが分かると、とても喜びます。ときには「悩んでいるのは自分だけじゃない」と安心したり、同じような考えの人もいれば、違う人もいる、その間に様々な感じ方・考え方があると知ることを通して自分と周囲の友人たちを知り、さらに、表現の仕方でも学んでいます。教師のことばで指導されるよりも、友達の言葉で聞く方が生徒の心に響くものが多いようです。また、それは復習にもなり、発展にもなります。以前、福岡海星小の石田幸亟（こうすけ）先生がよくおっしゃっていた「横の学習」（児童相互の学び）や「×（エックス）型」（1時間を1つの単位として完結する〇型ではなく、〇を縦に半分に割って、背中あわせに付けた形で、授業後の生徒の学びを取り入れて次回に完結する方法）にも通じるかなと思ったります。

こうして過ぎた年月を思い返しているうちに、全校児童が朝の会で「いつくしみ深き 友なるイエスは」を合唱したときの情景が浮かんできました。平成14年度の九州地区の研修当番校を担当したときのことです。山田豊介先生の指導で、器楽クラブが伴奏し全校児童が3部合唱しました。力強い伴奏にのって、子どもたちは心をこめ、自信を持って歌い、参加された先生方も唱和してくださいました。あの聖歌が今も一人ひとりの心の中で折にふれて響いているのでしょうか。「かわらぬ愛もて 導きたもう・・・」と。

伝統と特色ある教育の創造をめざす

元 捜真小学校 校長

元 日本私立小学校連合会 副会長

佐 藤 勇

日本私立小学校連合会は、昭和 16 年に設立され本年結成 70 周年を迎えます。結成 70 周年の記念事業として、記念誌「日本私立小学校連合会～結成 70 年のあゆみ～」を発刊することになりました。この類いである「日本私立小学校連合会～結成 50 年のあゆみ～」の継承ということで平成 4 年以降の 20 年間の私立小学校のあゆみ、研修研究活動、私学振興に関する活動、日本私立小学校連合会と関係団体との連携、等について記録や記憶が定かではありませが思い出すまに拙文を重ねる次第です。

結成 50 周年を迎えた平成 3 年度の日本私立小学校連合会の役員は、会長人見楠郎、副会長橋本正礼、松本尚、土井信男、馬目さだ子、杉村尚子先生でした。日本私立小学校連合会結成以来の関東地区の理事長（連合会副会長）は、岸田与一（精華）大西浩太（大西）下平千太郎（関東六浦）松本尚（京浜女子大）。関東地区の連合会理事は、徳盛（洗足）荒井光男（洗足）矢萩照武（湘南）滝澤泰山（精華）天野昭一（捜真）の先生方が連合会のためにご尽力されました。

連合会は 1990 年 1 月に「1990 年代の教育宣言」を提唱しました。『21 世紀の開幕を目前にして、われらは新世紀を担ってたつ人材を育成し、真に平和と幸福に満ちた世界を確立するために備えてきた。われらは各学校の伝統と特色ある教育をさらに充実させ、私学間の協力体制を強化して、日本の小学校教育の新たな創造をめざすことを宣言する。（後略）』この教育宣言を元に 5 地区（東北・関東・東京・西日本・九州）の研修活動は更に活発になりました。日私小連全国教員研修大会では研究主題として「新しい世紀をめざす私学教育の課題」を掲げ、12 研究部会が一堂に会して熱心に討議し、更に新たな課題を確認して各地区に持ち帰ったのです。同時に全国より参集した教員は旧交を温め、新しい友との懇親を持ち、私学人の輪を広げたのです。このような場を提供した中で関東地区は、第 15 回の日私小連夏季研修会会場を西熱海ホテルにしました。メ

リットは全研究部会の同一会場開催、各部会は座敷に車座になって緊張感のない自由な討議、7～8名同室宿泊で各地区の先生方と親交を深めることができたことでした。西熱海会場は第45回迄続きましたが、世代交替が進み若手の先生方には評判が良くなく、地区で検討の末、会場を西熱海から新横浜に移しました。これは全国の先生方から好評を得て多数の参加者で開催され、現在も関東地区の全国研修会は新横浜で開催しております。

さて、日私小連加盟各学校にとって大切な私立学校としての初任者の育成は大きな課題でありました。日本私学教育研究所の指導の元、各地区で初任者研修会は実施してきました。講師には私学経験豊富な先生方を迎え、内容豊富で充実した研修が行われ、参加した初任の先生達も満足して自分の学校に戻ったのです。関東地区開催地は、長年葉山の関東学院大学葉山セミナーハウスでした。平成17年葉山から横浜・MM地区ナビオス横浜で開催しましたが、平成21年東京地区と合併し東日本初任者研修会として実施しています。

全国幹部研修会は地区担当が5年に一度から4年に一度と変遷していますが、開催時の一年前より検討し、研修テーマを決め、講師の選定、協議内容の精選、フィールドワークの計画等を地区委員が一致して準備してきました。

関東地区教員研修会は第一回を昭和33年成美学園小学校で実施以降、神奈川県内の小学校で続けられてきました。関東地区という広域の中で神奈川県内に私立小学校が集中していることで、他の県での開催が困難な状況が続いています。毎年関東地区全体に開催案内を通知していますが、距離的な事もある程度が参加して下さる程度です。ある県では県内で研修会を実施していますので関東地区として僅少ですが補助しています。最近では、県内私学がまとまって関東地区教員研修会に積極的に参加を頂いているところです。

おわりに、日私小連の教育宣言は2000年代、そして2010年代と変遷してまいりました。平成23年からの10年は2010年代の教育宣言を元に、伝統と特色ある教育をさらに充実させ、私学人としての自覚に立ち、お互いに協力結集し磨き合い、わが国初等教育の新たな創造をめざして頂きたいと切に希望いたします。

研修研究活動

元 森村学園初等部 部長

元 日本私立小学校連合会 理事

高 橋 邦 明

日本私立小学校連合会結成 70 周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。誠におめでとうございます。

私が森村学園初等部に在職中、神奈川県私立小学校協会（神私小）や日本私立小学校連合会（日私小連）の運営に微力ながらお手伝いさせて戴いたことでこの執筆の依頼があったのだと思います。後世に語り継ぐような立派な文は書けませんが、私立小学校に長年身を置いて経験した私学人としてのあり方等、特に研修、研究活動について書いてみたいと思います。

教員にとって一番大切なことは研修研究活動だと思います。それだけに神私小での仕事は研修会の運営が大半を占めていました。その中でも年 1 回の「関東地区私立小学校教員研修会」や、3 年おきに担当する「日私小連全国教員夏季研修会」の運営が重要な仕事でした。

関東地区の研修会は会場校が毎年代わるのですが、加盟校全部に順番で回していくわけにはまいりません。会場校を引き受けられる学校は、全体会場と各分科会の教室を用意できる学校に限られてしまいます。そのため、毎回、会場校をお願いするために苦労したことが思い出されます。

3 年に 1 度の全国教員夏季研修会会場は、平成 13 年度から新横浜のホテルに会場を変更しました。それまでは、過去 11 回会場並びに宿舎として西熱海のホテルを使用していました。部屋が和室であったことや、分科会会場と宿泊室、あるいは、研修会会場の大広間を食事の場所として共用するなど不便な点も感じ始めました。そこで、温泉大浴場などの捨てがたい魅力はあったのですが、思い切って会場を変更したわけです。変更したホテルは大規模ですが、ホテル内の宴会場等の部屋だけでは分科会会場が足りず、大きな宴会場をついたてで間仕切りして 2 つの分科会が使用したり、近くの加盟校を分科会会場にしたりしてなんとか乗り切りました。しかし、1 つの宴会場を 2 会場にするのは音の関

係で不都合が多く、次の平成 16 年度の研修会ではホテル外の会場を増やして改善しました。全国から約 800 名の先生方をお迎えして研修会を行うことは、まず会場を確保することが大変であることを痛切に感じました。

運営が大変であっても、私立小学校では各地区でも多くの有意義な研修会が実施され、大きな成果を上げていることは喜びに堪えません。

さて、この時期の教育を取り巻く環境は、いじめ、保健室登校、学級崩壊、学校 5 日制、ゆとり教育、生きる力等々の言葉が飛び交い激動の時代であったと思います。

私立学校の良さは、建学の精神の下に教育が行われていること、すなわち、それぞれの学校が確固たる教育目標を持ち、目標実現のためにたゆまぬ努力をしていることにあります。

学級崩壊や学力低下が大きく取り上げられ、公立離れの現象の中で、私立小学校の志願者が増えたのも私立小学校の教育が信頼されたからです。それは、私立小学校の教職員が研究研修にたゆまぬ努力を重ねてきたからに他ならないと思っています。

ほぼ 10 年毎の学習指導要領の改訂に伴い、教育内容も変化していきますが、多くの私学は、教育改訂の内容を先取りして研究、実践してきました。

総合的な学習の時間が創設され、又、学校週 5 日制になり、教科の時数が 3 割削減された際も、それぞれの私学は独自のカリキュラムを持ち、学力を低下させることなく、知・徳・体の調和のとれた人格形成教育活動を展開してきました。ですから「学力低下」批判がおきた時に私学の価値が見直されたのだと思います。これは、それぞれの私学の教育の成果が具体的に反映された表れです。

世間の私立小学校教育への期待に応えるためには、そこに携わる全ての教職員が「教育は私学から」の気概を持ち、さらに研修、研究に力を注ぎ、その成果を児童の成長に反映させていくことが、欠かせないことでしょう。

各私立小学校が充実した教育活動を展開し、日本私立小学校連合会がこれからもますます発展されんことを願ってやみません。

感謝をこめて

元 長崎精道小学校 校長

元 日本私立小学校連合会 副会長

中 島 紀 子

日本私立小学校連合会の会長様、理事の先生方、そして全国の私立小学校の校長先生及び諸先生方、日本私立小学校連合会結成 70 周年を心よりお祝い申し上げます。

私が勤務しておりました長崎精道小学校は、昭和 53 年に開校し、その翌年、日本私立小学校連合会に加盟させていただきました。当時の野村純三会長様と川田紀美子副会長（九州地区会長）様はじめ歴代の会長様や理事の先生方、事務局の方々、そして九州地区をはじめ全国の私立小学校の先生方には大変お世話になり、貴重なご教示やご支援をいただきました。いつも感謝の心で思い出しております。

日小私連に加盟させていただき、まず感動したことは、先生方が、ご自分の学校のためだけではなく「全ての、そしてそれぞれの私立小学校」の発展のために献身的にご尽力なさっているということでした。また、先輩の校長先生方が「建学の精神に忠実である」ことの大切さを強調されていることにも感銘を受けました。これこそが私学共通の特徴ではないかと思います。

私立学校には、それぞれの創立者が理想として掲げた人間像や社会理念、その実現のための教育目標、つまり揺らぐことのない、しっかりとした「建学の精神」が生き生きと根付いています。と同時に、私学には「自由」がありますので、それぞれの時代の教職員が、建学の精神にある目標を達成するため、現実社会の動向の中で将来を見据え、今、講じるべき手段や教育方法を、大胆に、柔軟に適応させていくことができます。常に変化する社会の中で、「各自固有な生きた人間を育てる」という大事業を推進していくためには、人間像と社会像に対するこの揺るぎのなさ、現実（大切な各個人のその時の状況も含め）と将来に対しての柔軟性、そしてそれを生きたものとして自由に実践していく献身的な教職員が必須であると思うのです。

そして実際に、日本私立小学校連合会を通して一致しているそれぞれの私立小学校が、各自の理念に従ってあるべきはずの教育に柔軟に対応し、今日まで日々邁進してきたことによって、単に私立小学校の発展だけではなく、日本の小学校教育全体に影響を及ぼし、ひいては今日の日本の学校教育全体をも牽引してきたのだと思います。

ところで、この度の東日本大震災と原発事故の苦しみの中から、立ち上がろう、故郷を復興させようとする被災者の方々に、人間のたくましさや素晴らしさを見、心を打たれた人は多いのではないのでしょうか。また日本中の多くの人が、各自の専門職やボランティア、義援金など、自分ができることによって寛大に献身的に支援することによって、「仕えること」は自分が役に立つことであり、実は「仕えること」によって本当の喜びを得ることができのだという、人間として非常に大切なことを思い出したのではないかと思います。現代社会で埋没しつつあるかのように見えていた人間の尊厳が、本来の輝きをとりもどしたかのように見え、同時に「人間を育てる」ことの偉大さと責任を改めて感じました。そして、確固たる人間像をもつ私学教育の喜びと使命の大きさを痛感しました。

これから私学教育を担っていかれる先生方には、私学教員としての誇りと責任感を持ち、各学校の「建学の精神」に基づいて、人間の尊厳が尊ばれる社会の形成に貢献できる人材を育成していかれることを期待しています。

また、各私立小学校が日本私立小学校連合会のもとに一致し、お互いに助け合い、刺激し合い、さらに発展していかれることを願っています。特に、私学を継続していくためには、十分な助成金の獲得が必須ですが、そのためには、各都道府県での私学の協力を強めることもますます必要となってくることかと思えます。

今までご支援いただきました日本私立小学校連合会の会長様や理事の先生方、事務の皆様方に心から感謝しつつ、貴会の益々のご活躍と各学校のご発展を心よりお祈り申し上げております。

私立学校独自の特色ある教育を

元 東京女学館小学校 校長

元 日本私立小学校連合会 常任理事

伴 憲三郎

国立の東京学芸大学附属世田谷小学校に約 30 年勤務し、副校長に就任後東京都の小学校の校長を 2 校歴任し、ご縁があって私立の東京女学館小学校の校長に就任しました。就任するまでは私立の学校とは全く無縁で、就任して初めて私立学校の実情を把握し、積極的に学校を理解し、学校運営を考えて行く必要があると感じました。就任した東京女学館は明治に学校が開校し 100 年以上の歴史があり、「日本女性の持つ潜在的な可能性を開放し、世界の人々と対等に交際できる人材を育成したい」との願いのもと設立された学校で、この建学の理念が学校の教育目標となり、今もこの理念の下、児童生徒の教育が行われています。私立の学校は、それぞれの学校が、それぞれの学校の建学の理念の下、教育目標がたてられ、それぞれの学校で特色のある教育が行われていると思います。

国立の学校は教育の研究実践校であり、将来を展望し先導的な教育課題の下、それぞれの学校が課題を持ち、研究実践をしていて、どの様な課題の下研究を行い、発表していくかが国立の学校の特色であるといえます。

また、公立の学校では地域に根ざした学校づくりが重要で、学習指導要領に準拠した教育課程の編成が行われ、教育が行われています。公立学校の場合管理職である校長や教員の移動が多く、従ってなかなか特色のある教育を実践していくことが困難な状況にあります。最近公立の学校では児童生徒の減少に伴い、学校の統合が行われ、一部の地域では小中一貫校が設立され新たな教育が行われており、注目すべき教育のあり方と思います。

そのような中で、私立の学校は教員の異動も少なく、長期にわたり学校に勤務し、学校を真に理解した教師が児童生徒の教育を行っているといえます。保護者も学校がどの様な教育目標を持ち、どの様な教育理念のもと、特色のある教育が行われているかをしっかりと理解して、児童生徒を受験させ入学して保護者となっており、学校の支えになっていると考えられます。

従って、学校の行う教育実践については、より保護者の理解と協力が得られるよう努力して、保護者と一体となって教育にあたることが大切です。

そのような中で、学校がどのような特色を持ち、児童生徒の資質学力の向上を図っていくかということを考えた時、学習指導要領を念頭におきながら、歴史と伝統のある学校の、教育目標の達成に必要な教育内容を吟味し、教育課程の編成の中に位置づけていく必要があると考えます。どのような児童生徒を育成するかを考え学校独自の教育課程の編成を行うことが大切と考えます。

平成10年12月8日に第11回私立学校の教育・運営に関する研修会があり、「学校指導要領の見直しと私立学校の特色づくり」のテーマのシンポジウムがあり、パネリストの一人として小学校の代表で出席し、戦後の学習指導要領の変遷を回顧しながら、私立学校が独自の特色ある教育課程の編成を積極的に行うことの大切さを強調しました。

私が東京女学館小学校の校長に就任した平成元年の頃は、まだパソコンは学校に導入されていない状況でしたが、将来を展望してパソコン教室を造り、積極的に機器を導入し、機器に親しみ、活用する授業を実践しました。また、異文化理解の一貫として外国人教師を招いての英語学習もスタートしました。今はどこの学校でも教育課程の中に組み入れられ実践されていますが、当時としては組み入れるための時間の調整が大変でした。しかし、学校としてはこの独自の取り組みに対し、保護者の理解と支持があり良かったです。

私立の学校では、先導的な教育実践が必要で、特色のある教育活動としていろいろな実践が考えられると思います。公立学校の一部で、小中一貫の教育が行われていますが、私が考え実践できなかった教育に、小中高一貫の教育があり、12年間の教育を前期、中期、後期に分割し、前期では基礎教育を徹底して行い、中期では能力の開発を行い、一人一人の将来への展望を発展し、後期では一人一人の将来への展望を实らせるというもので、私立学校だからできる教育実践の一つといえます。創意工夫の学校作りは大切なことです。

揺るぎなき私学であれ

元 帝塚山小学校 校長

元 日本私立小学校連合会 副会長

堀 俊 一

日本私立小学校連合会が結成 70 周年を迎えるという、この記念すべき年に当たり、私学草創期の先人たちのご苦勞と遺徳を偲び、心からの敬意を捧げたいと思います。

今、私学は生き残りをかけて躍起になっています。最近の人気校は、企業的発想を導入したり、サービス業的な対応をしています。学校がそこまで考えなくても良いと思われていた分野に目を向け、受験者や親の立場になって考え、それを最優先する時代になりつつあります。このことは、決して間違っていないと思いますが、人気取り優先で、学校の理念とかけはなれていないのかと、疑問を抱くことにも遭遇することがあります。

私が、東京未来大学学長多胡輝先生と西日本小学校連合会会長の立場で対談したことがありました。テーマは、「私立小学校教育を考える」でした。そのときの内容の一部を記載します。

『昔の日本がもっていた良い所を見直そうじゃないかといった動きがでてきました。子供達のあまりの変貌ぶりに愕然として、「日本人のあるべき姿をさぐり日本の将来を考えよう」という風潮を感じます。この国の将来にはどんな人材が必要で、どんな人間を育てないといけないのか。私立小学校には創立者の確固たる教育理念があります。創立者の意志を受け継ぎ、それを伝統として明確な教育で人間として社会人としての心得を教え込んでおられます。一つの価値観を貫いた教育を行っておられる私立小学校には、教育の再生に向けてがんばっていただきたい。……』

『私立小学校の先生は、自分の勤務する学校の建学の精神に心から賛同しています。愛校心がとても強いのです。ですから、教育に対する志が高く、「子どものため、学校のため」に自分の時間を割くことをいといません。本校では、「美しい言葉、美しい形を基本に、よりよい生活習慣を身に付けること」「自分が大

好きという自尊感情を育てること」「命の大切さを認識すること」を教育の原点に、競争で育つ学力でなく、共に育つ豊かな学力を重視しています。また、デジタル的なものとアナログ的なもののバランス感覚を子どもに身に付けてもらうよう、高度なコンピューターソフトで作成したデジタル教材でテンポよく教える一方、手間ひまかけたアナログの世界もしっかりと体験させたいと思います。そして、社会で求められる相手を思いやるコミュニケーション能力の養成にも力を入れています。……』（朝日新聞掲載）

私学の役割として、英語を小学校教育に公立校より早く導入したように、日本の教育の道筋を先駆けてつけていく使命があります。小学校の教育現場は、10年ごとの学習指導要領改訂の度に混乱しているのが現状です。昭和52年以降の変遷を見ても、社会の変化に大きく影響しました。「落ちこぼれ」が問題となれば、基礎基本の重視へと、「受験戦争の過熱化、いじめや不登校」が問題となれば、学習内容の削減、完全学校五日制、総合的な学習の時間、「ゆとり」の中での生きる力の育成へと、「PISA型学力の低下」が問題になれば、平成20年3月28日改訂へと……。そのたびに教育目標が変更・追加されていき、現場は混乱しました。

しかし、私立小学校は、社会の変化に惑わされないで、21世紀を切り拓く、社会有為の人材を育成するために、揺るぎなき建学の理念を軸に教育に貢献しています。

教育の根幹は、松尾芭蕉の「不易流行」の言葉通り、変わるものと変わらざるものの価値をしっかりと見極め、ものの本質を見抜く力を育てることにあります。社会の変化に対応する教育を極めながらも、常に精神の崇高さや美しさ、誠実さという人間として決して変わりえぬ倫理観を育成することに尽きます。

私は、今まで私学の先輩諸氏に教えを請い多くの示唆をいただきました。私学人の中には、師と仰げる人材が身近に存在し、学校間の垣根を越えて学び合い、分かち合える環境が整っています。当たり前には実施され、繰り返されている、初任者研修、地区教員研修、全国教員夏季研修会等の意義を自覚し、私学人としての誇りを持ち、更なる共に育つ研修の場の充実・発展を願っています。

北の海を越えた幹部研修会

函嶺白百合学園小学校 校長

元 日本私立小学校連合会 副会長

馬 目 さだ子

日本私立小学校連合会結成 70 周年の記念式典、誠におめでとうございます。

東北地区には、盛岡白百合学園・仙台白百合学園と、昭和 41 年から平成 15 年まで、30 年間という長きに亘り、お世話になった者でございます。

責任者として基礎的な事柄や会計なども全く未経験で、何の取り得もない者が、東北地区会長などを平成 2 年から 8 年間も担当させていただきました。理事の方々には多方面にわたりご協力いただき、又、全国の会長人見先生をはじめ、事務局の方々や他地区のみな様方にも、公私共に大変お世話になりました。ありがとうございました。心から感謝申し上げます。

平成 9 年度第 42 回幹部研修会は、札幌ガーデンパレスで開催しました。

みんなで四苦八苦しながら、しかも和気あいあいと話し合いをしたことなど北の海を渡ったあの幹部研修会が印象深く心に残っておりましたので、今後の参考になることがあればと考え、お知らせすることにいたしました。

先ず、前年度に東北地区理事会を開き、具体的な構想を練って検討しました。

場所については、前から他地区の方々から北海道という希望が多数ありましたので、北海道「札幌ガーデンパレス」に決定いたしました。

講師は是非とも地域の方を考え、地元函館旭ヶ岡の家園長フィリップグローブ神父様と北海道家庭学校理事長の谷昌恒氏の 2 名。そして、フリージャーナリスト松井やより氏と成城学園初等学校教諭の小林昭彦先生の計 4 名を推薦し、理事の方々に 1 人 1 名ずつ連絡をとっていただく事になりました。

場所と講師が何とか決まり、3 日間の大まかなスケジュールも出来上がり、いよいよ準備委員 2 名が下見に札幌へと飛びました。前から心配していた件、地続きではないので交通手段は飛行機か船、しかも期日は 1 月 22 日（木）から 24 日（土）。真冬の寒冷地。もし大雪で交通機関がストップしたらと最悪の状態を考え心配でしたが、無事に主会場・懇親会場・フィールドワークの行程など

を詳細に調べて参りました。(下見 2 回実施)

研修会当日、会長人見先生の含蓄に富んだ内容の濃い、長い御挨拶から順調に始まりました。続いて「21 世紀の日本はくらしやすい社会になれるか」のテーマで、函館旭ヶ岡の家園長フィリップグロード神父様による流暢な日本語での講演。理想的なターミナルケアやホスピスのあり方などをお話しになり、「学校で人間尊重主義をしっかりと教えるなら、日本の 21 世紀は暮らしやすい時代になると思う」と結ばれました。

夜の懇親会は歌舞伎座の栈敷のような所に案内され、店長さんのユーモアたっぷりの進行振りに、大いに盛り上がったようです。

第 2 日目は、成城学園初等学校教諭小林昭彦先生から「共生時代に『イキイキ』『ワクワク』する教育をめざして」のテーマで、子供大好きの実践報告、北海道家庭学校理事長谷昌恒氏の「愛すること 信じること 待つこと」というテーマで教護院で逆境に育った恵まれない子供たちの教えについての講演がありました。

午後のフィールドワークでは、ビール博物館・札幌ファクトリー（マイセン美術館など）を見学し、サッポロビールをご馳走になり、見聞を広めました。

最後の講演者は、フリージャーナリスト松井やより氏。「女性、子どもの人権とアジア～共に生きる 21 世紀へ～」と題し、アジアの女性の大切な人権について熱く語られました。

研修のまとめ、そして閉会式。来年度の幹部研修会の会場はパシフィックホテル沖縄の予定と発表があると、参加者の顔が一瞬輝きました。

来年度の九州地区にバトンを渡し、閉会宣言。無事終了。ほっと一息。

連合会の生みの苦しみを味わった大勢の方々、協力者のみな様に改めて深い感謝の念を表すと共に、私学を愛してやまない研究心旺盛な先生方によって今後益々この会が発展し続けられますように、お祈り申し上げます。

最後になりましたが、東北地方太平洋沿岸で国内の観測史上最大のマグニチュード 9 という巨大地震と大津波により、宮城、福島、茨城、岩手など広範囲に渡って壊滅的被害を受け、特に福島は原発事故も重なり、悲惨なすさまじい実態が明らかになりました。亡くなられた方々の永遠の安息と、苦しみ悲しむ人々に寄り添い希望を持って苦境を乗り越えられますようお祈りの支援を続けて参りたいと思います。

IV. 日本の私立小学校（加盟校紹介）

～建学の精神と特色等～

〔北海道・東北地区〕 9 校

札幌三育小学校

- ①セブンスデー・アドベンチスト教団
- ②昭和 26 年（1951 年）4 月 26 日
- ③札幌市北区拓北 4 条 1 丁目 14 - 1
- ④聖書の示す愛を土台とし、神と隣人に対して十全な奉仕をするため、人間の備える身体、知性、霊性の全ての面を最大限に発達させ、円満な人間形成を実現すること、これが三育教育の目的であり使命である。

函館三育小学校

- ①セブンスデー・アドベンチスト教団
- ②昭和 55 年（1980 年）10 月 3 日
- ③北海道函館市桔梗 5 - 26 - 1
- ④聖書の示す愛を土台とし、神と隣人に対して十全な奉仕をするため、人間の備える身体、知性、霊性の全ての面を最大限に発達させ、円満な人間形成を実現すること、これが三育教育の目的であり使命である。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

盛岡白百合学園小学校

- ①シャルトル聖パウロ修道女会
- ②昭和 31 年（1956 年） 4 月
- ③岩手県盛岡市山岸 4 - 29 - 16
- ④キリストの教えに基づいて、神の前に誠実に生き、愛の心をもって社会に奉仕できる人間の育成を目的とする。愛徳・勤勉・従順の校訓を日々実践し、宗教性・国際性に視野を向けた人間教育を行っている。

聖ウルスラ学院英智小・中学校

- ①聖アンジェラ・メリチ
- ②昭和 25 年（1950 年） 10 月 21 日
- ③宮城県仙台市若林区一本杉町 1 - 2
- ④◎ミッション…キリスト教的人間観に基づく、豊かな心と知性と理性の調和のある人格形成教育
○ビジョン…確かな学力の向上と人間的な成長を実現する教育
・スクールコンセプト…力のつく元気な学校

仙台白百合学園小学校

- ①シャルトル聖パウロ修道女会
- ②昭和 36 年（1961 年） 4 月 8 日
- ③宮城県仙台市紫山 1 - 2 - 1
- ④聖書の教えを大切に、子どもたちが心と知識をみがき、どんなときにも正しく、愛ある心で人々に奉仕できる人となるように、穏やかな秩序感を具備した情操豊かな女性を育てる教育に努めています。

聖ドミニコ学院小学校

- ①メール・アニエス・デ・ザンジュ
- ②昭和 28 年（1953 年）
- ③宮城県仙台市青葉区角五郎 2-2-14
- ④「真理を求め、自由を生きる」
共に学び、共に在ることが喜びとなる、生き生きとした学校を目指します。自分の事だけではなく、他人、広くは世界を意識しながら「互いに思いやり愛し合う子供」を育てます。

会津若松ザベリオ学園小学校

- ①無原罪聖母宣教女会
- ②昭和 24 年（1949 年） 4 月
- ③福島県会津若松市西栄町 1 番 18 号
- ④子ども一人ひとりをかけがえのない存在として、体験を重ねる創造性豊かな教育をすすめ、感動・感謝・協働する子どもを育てます。英語教育にも力を注ぎ、グローバル社会に対応できる資質を伸ばします。

桜の聖母学院小学校

- ①コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会
- ②昭和 21 年（1946 年） 9 月 1 日
- ③福島市花園町 4 番 8 号
- ④「イエス・キリストの愛に学ぶ」、「卓越した学問の追及を目指す」、「神・他者・自分・自然と対話する心を育む」、「義と平和の実現のために働く人に育てる」というビジョンを掲げ、教育に励んでいます。

郡山ザベリオ学園小学校

- ①デリア・テトロ
- ②昭和 33 年（1958 年） 4 月 1 日
- ③福島県郡山市大槻町字古屋敷 102 番地
- ④「一人ひとりの子どもたちがかけがえのない存在として神様に愛されていることを、教育を通して世界中の子どもたちに知らせたい」に基づき、愛の精神と確かな学力をもつ国際人を育成します。

暁星小学校

- ①アルフォンス・ヘンリック
- ②明治 21 年（1888 年）11 月 1 日
- ③東京都千代田区富士見 1－1－13
- ④キリスト教の理念に基づく教育により、人格の完成を目指すと共に社会の福祉に貢献する人間を育成する。また、基礎学力や社会性などの育成を重視し、将来よきリーダーとして活躍するための鍛える教育を進める。

雙葉小学校

- ①メール・セン・テレーズ
- ②明治 43 年（1910 年）
- ③東京都千代田区六番町 14－1
- ④カトリックの精神に基づいた女子教育を行っています。フランスの修道会「幼きイエス会」を母体とし、謙虚に祈り、他者を思いやり、与えられた能力を十分に伸ばしていけるような人間形成を目指しています。

白百合学園小学校

- ①シャルトル聖パウロ修道女会
- ②明治 43 年（1910 年）
- ③東京都千代田区九段北 2－4－1
- ④キリスト教精神に根ざした価値観を養い、神の前に誠実に生きる大切さを教えている。愛の心をもって人々に喜んで奉仕する児童の育成を目指し「従順・勤勉・愛徳」を校訓とし日々の学校生活の基本としている。

聖心女子学院初等科

- ①聖マグダレナ・ソフィア・バラ
- ②明治 43 年（1910 年）4 月 11 日
- ③東京都港区白金 4－11－1
- ④学業と生活全般を通して、しっかりと知性、堅実な実行力、謙遜な心を育て、これが神への深い信仰に根を下ろして、隣人愛に開花することを教育の目的とした。キリスト教の価値観に基づく教育が特色である。

東洋英和女学院小学部

- ①マーサ・J・カートメル
- ②明治 17 年（1884 年）11 月 6 日
- ③東京都港区六本木 5－6－14
- ④カナダ・メソジスト教会により「敬神奉仕」を建学の精神として創設された学校です。いつも歓声があふれる小学部において、子どもたちは大きな愛に包まれながら、かけがえない学びの時を過ごしています。

愛育養護学校 幼稚部小学部 (特別支援学校)

- ①社会福祉法人恩賜財団母子愛育会
- ②昭和 30 年（1955 年）6 月 14 日
- ③東京都港区南麻布 5－6－8
- ④昭和 13 年、母子愛育会は母子福祉の増進を目的とし、研究所の主要研究に知的発達に遅滞等の見られる幼児の保育研究を据え、特別保育室を開設した。学齢を迎えた児童の人格を尊重して養護学校の創立に至る。

学習院初等科

- ①華族会館
- ②明治 10 年（1877 年）10 月 17 日
- ③東京都新宿区若葉 1－23－1
- ④本校の教育は「児童生徒の身分を考えて、国家社会の指導的立場にあるという自覚を持たせ、それに対する責任感を養う」という教育から始まりました。今日では、社会に奉仕する人間の育成を目指しています。

日本女子大学附属豊明小学校

- ①成瀬仁蔵
- ②明治 39 年（1906 年）4 月 20 日
- ③東京都文京区目白台 1－16－7
- ④成瀬仁蔵による「信念徹底」「自発創生」「共同奉仕」の三綱領を児童の発達段階に応じて、体得、実践させることをもって教育の根本とする。具体的教育方法としては、実物教育、自学自動を重視する。

小野学園小学校

①小野安之助

②昭和 7 年（1932 年）10 月 4 日

③東京都品川区西大井一丁目 6 - 13

④建学の精神は「清く」「正しく」「美しく」です。現在は幼稚園、小学校、女子中学・高等学校から構成される総合学園として良き伝統と精神を継承しながらも、時代に沿った新しい感覚で教育を行っています。

トキワ松学園小学校

①三角錫子

②大正 5 年（1916 年）7 月 3 日

③東京都目黒区碑文谷 4 - 17 - 16

④創立者、三角錫子の「鋼鉄に一輪のすみれの花を添えて」の建学の精神に基づき、小学校では「健康、感謝、親切、努力」の四つの教育目標を合言葉に、円満な人格の完成を目指して教育に当たっている。

目黒星美学園小学校

①聖ヨハネ・ボスコ
聖マリア・ドメニカ・マザレロ

②昭和 29 年（1954 年）3 月 21 日

③東京都目黒区碑文谷 2 - 17 - 6

④一人ひとりをかけがえのない存在として大切にされる神の愛に基づき、創立者が実践した予防教育法により「いつも子ども共に」の精神のうちに全人間教育を行うため創立されたカトリックミッションスクール。

清明学園初等学校

①濱野重郎

②昭和 5 年（1930 年）4 月 5 日

③東京都大田区南雪谷 3 - 12 - 26

④「子どもと共に生き 子どもを生かし 子どもを通して生きる」を合言葉に、子どもの個性を尊重し、常に児童中心の教育活動を実践している。小・中の 9 か年一貫教育で、発達にあった特色ある教育を行っている。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

文教大学附属小学校

①小野光洋

②昭和 26 年（1951 年） 4 月 1 日

③東京都大田区東雪谷 2 - 3 - 12

④「人間愛」を建学の精神とし、子ども達の無限の可能性と豊かな人間性を信頼しそれを引き出すべく個に応じたきめ細やかな指導を行っています。全教職員が全児童を知っている 1 学年 1 クラスの小さな学校です。

聖ドミニコ学園小学校

①聖ドミニコ女子修道会

②昭和 29 年（1954 年） 6 月 11 日

③東京都世田谷区岡本 1 - 10 - 1

④世界に広がる聖ドミニコ学園は「真理」をモットーに、「対話」を軸として一人ひとりに寄り添う教育を行う。創立時より英語とフランス語を 1 年生から正課とし、異文化に心を開く国際理解教育を展開している。

成城学園初等学校

①澤柳政太郎

②大正 6 年（1917 年） 4 月 4 日

③東京都世田谷区祖師谷 3 - 52 - 38

④創設趣意にある『個性尊重の教育・自然と親しむ教育・心情の教育・科学的研究を基とする教育』は、今日に至るまで脈々と受け継がれています。創立以来一貫して『子どもを主体に考えた学校づくり』を目指しています。

昭和女子大学附属昭和小学校

①人見圓吉

②昭和 28 年（1953 年） 4 月 1 日

③東京都世田谷区太子堂 1 - 7

④学園目標「世の光となろう」のもと、社会との関わりの中で自己実現を図るための基礎を培います。各教科を有機的に繋いだ総合学習、多くの宿泊を通して行われる異学年交流など体験重視の心の教育が特色です。

東京都市大学付属小学校

①五島慶太

②昭和 31 年（1956 年）4 月 1 日

③東京都世田谷区成城 1 - 12 - 1

④建学の精神「すこやかに かしこく
りりしく凛として 世界にはばたく
気高きこどもたち」を目標に、高い
学力と豊かな心を教育の二本柱とし
て中学受験に対応しつつ豊富な体験
学習で良質の教育をめざしている。

和光小学校

①弘重寿輔

②昭和 8 年（1933 年）11 月 10 日

③東京都世田谷区桜 2 - 18 - 18

④1 人の 1 人の個性が尊重され、人間
にふさわしく育てる。本物の体験と
手作りの教育の中で、子どもたちに
学ぶ喜びを味わわせ、自ら学ぶ力・
深く学ぶ力・学ぶことでつながる力
を発揮していく教育を目指す。

国本小学校

①有木春来

②昭和 17 年（1942 年）10 月 22 日

③東京都世田谷区喜多見 1 - 28 - 1

④感謝のできる子、素直な子、思いや
りのある子を教育目標としている。
ークラス 25 名の少人数教育を実践。
心を育て基礎学力を身につけ、探究
心・自立・協調性を養い、人の役に
立つ人間の育成を心掛けている。

田園調布雙葉小学校

①エリザベット・デーズ

②昭和 16 年（1941 年）4 月 1 日

③東京都世田谷区玉川田園調布 1 - 20 - 9

④キリスト教の教育理念に基づき、「人
間が人間となることを助けること」
を念頭に、恵まれた自然の中、人と
の関わりを通して、固有の一貫教育
で時間をかけ、独自性・相互性・自
由性の育成を目指している。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

慶應義塾幼稚舎

①福澤諭吉

②明治 7 年（1874 年） 1 月

③東京都渋谷区恵比寿 2 - 35 - 1

④福澤諭吉の言葉「独立自尊」「獸身を成して後人心を養う」を理念としている。長い目で児童を見る 6 ヶ年担任持ち上がり制と、複数の目でいろいろな面から見る教科別専科制の両輪によって成り立っている。

東京女学館小学校

①伊藤博文

②明治 21 年（1888 年） 9 月 11 日

③東京都渋谷区広尾 3 - 7 - 16

④「高い品性を備え、人と社会に貢献する女性の育成」。日本の伝統文化を学び、国際社会で活躍できる女性リーダーの資質に必要な語学力を養うために「コミュニケーションのための英語教育」を、1 年生から展開。

青山学院初等部

①D・E・スクリーンメーカー

②明治 7 年（1874 年） 11 月

③東京都渋谷区渋谷 4 - 4 - 25

④青山学院の教育は、キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き、心理を謙虚に追求し、愛と奉仕の精神を持って、すべての人と社会とに対する責任を進んで果たす人間形成を目的とする。

宝仙学園小学校

①富田教純

②昭和 28 年（1953 年） 11 月 8 日

③東京都中野区中央 2 - 33 - 26

④仏教精神を基調にした人間教育によって、日本の伝統的な心を大切にした品格と知性を兼ね備えた人を造る。また、本校は児童が国・私立中学校を目指す進学校である。「高い学力と豊かな情操」を育てる。

立教女学院小学校

①ジョン・マキム

②昭和 6 年（1931 年）4 月 1 日

③東京都杉並区久我山 4 - 29 - 60

④自由と自律を大切にする校風の中で「汝の若き日に汝の造り主を覚えよ」の精神をもってキリスト教的情操を養い、神の輝きの器となれるよう、個性を尊重し育むことに力を注ぎ、教職員も研鑽に励んでおります。

光塩女子学院初等科

①マルガリタ・マリア・ロペス・デ・マトウラ

②昭和 22 年（1947 年）4 月 1 日

③東京都杉並区高円寺南 2 - 33 - 28

④聖書の中の「光と塩」を建学の精神とし、ロウソクが自らは燃えてその光が他を照らすように、塩が自らは溶けて味をつけるように、惜しみなく己を他人に開くことのできる女性を教育目標にしている。

新渡戸文化小学校

①森本厚吉

②昭和 23 年（1948 年）4 月 1 日

③東京都中野区本町 6 - 38 - 1

④「真理はあなたたちを自由にする」を理念とし、キリスト教主義の人格教育を建学の精神とする。少人数でアットホームな学校ならではの、たてわり活動を中心とした数々の教育活動を実践している。

川村小学校

①川村文子

②大正 13 年（1924 年）4 月 12 日

③東京都豊島区目白二丁目 22 番 3 号

④「感謝の心」「女子の自覚」「社会への奉仕」を建学の精神とし創立以来 87 年継承しています。小学校では、心と体と頭を鍛え、優しく我慢強い子どもになることを目標にし、特に「心の教育」を重視しております。

立教小学校

①チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教

②昭和 23 年（1948 年）

③東京都豊島区西池袋 3 - 36 - 26

④キリスト教信仰に基づく人間教育を行い、神様に喜ばれる子どもを育成しています。立教学院一貫連携教育の中で「テーマを持って真理を探究する力を育てる。」「共に生きる力を育てる。」その目標の基礎を担っています。

星美学園小学校

①聖ヨハネ・ボスコ

②昭和 21 年（1946 年）9 月

③東京都北区赤羽台 4 - 2 - 14

④本校は、キリスト教的な人間観・世界観により、創立者聖ヨハネ・ボスコと聖マリア・マザレロが実践した理性・宗教・慈愛に基づく「予防教育法による全人間教育」を行うために創設された学校です。

聖学院小学校

①石川 清

②昭和 35 年（1960 年）4 月 1 日

③東京都北区中里 3 - 13 - 1

④1905 年創立の女子聖学院を母体として開校したプロテスタントの男女共学のミッションスクール。建学の精神「神を仰ぎ、人に仕う」を、具体的に表した「よく学ぶ よく遊ぶ よく祈る」を教育目標としている。

淑徳小学校

①長谷川良信

②昭和 24 年（1949 年）4 月 1 日

③東京都板橋区前野町 5 - 3 - 7

④大乘仏教精神に基づく「共に生きて、共に生かしあう」という「共生の心」による情操豊かな人間性の基礎を育成することを目標とする。多くの真理・知識を学び身につけさせると同時に、心豊かな成長をめざす。

東京三育小学校

①セブンスデー・アドベンチスト教団

②昭和 24 年（1949 年） 4 月 5 日

③東京都練馬区関町南 2 - 8 - 4

④「聖書の示す愛を土台とし、神と隣人に対して十全な奉仕をするため、人間の備える身体、知性、霊性の全ての面を最大限に発達させ、円満な人間形成を実現すること、これが三育教育の目的であり使命である。」

成蹊小学校

①中村春二

②大正 4 年（1915 年） 4 月 1 日

③東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1

④史記の「桃李不言下自成蹊」を校名の由来とし、個性尊重の人格教育を建学理念としている。創立者が主張した少人数教育は、1 学級 28 人 4 学級体制としてこれに対応する施設とともに平成 20 年に実現した。

聖徳学園小学校

①和田幽玄

②昭和 26 年（1951 年） 4 月

③東京都武蔵野市境南町 2 - 11 - 8

④十七条憲法の和の精神を基調に、「教える教育から育てる教育」へ。知識よりも考えることに重点をおき、主体的に学ぶ態度と個性を伸ばし、創造的知能の開発と育成に力を入れ、子どもの可能性を育てる教育を目指している。

武蔵野東小学校

①北原勝平 北原キヨ

②昭和 52 年（1977 年） 4 月 16 日

③東京都武蔵野市緑町 2 - 1 - 10

④建学の精神は「教育の原点を直視し、視野の広い、創造性豊かな、たくましい信頼される子どもたちを育てる。」教育の特色は、健常児と自閉症児が分け隔てなく学ぶ体制『混合教育』である。

明星学園小学校

- ①赤井米吉を中心とする創立同人 4 人
- ②大正 13 年（1924 年）5 月 15 日
- ③東京都三鷹市井の頭 5－7－7
- ④子どもたちの感性に基づく知識づくりをめざして創立。「個性尊重」「自主自立」「自由平等」を教育の理念とする。自ら考え、自ら行動する主体的な人間づくりをめざして探求的な学びを一貫して追求している。

むさしの学園小学校

- ①佐藤藤太郎
- ②大正 13 年（1924 年）4 月 10 日
- ③東京都府中市多磨町 1－19－1
- ④大自然の懷で自然な人間関係を結ぶイエスに倣い相手を赦す心を大切に進んで取り組み日々の生活を楽しむその年齢でしかできないことを優先達成感・充実感をふんだんに味わう個々の進度に合わせる個別対応教育

明星小学校

- ①児玉九十
- ②昭和 25 年（1950 年）4 月 1 日
- ③東京都府中市栄町 1－1
- ④明星学苑の「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」をもとに、小学校においては「正直なよい子の育成」を教育目標とし、凝念教育、心の教育、道徳・躰、体験教育、五正道等を実践しています。

早稲田大学系属早稲田実業学校初等部

- ①大隈重信
- ②明治 34 年（1901 年）4 月 20 日
（初等部は 2002 年開校）
- ③東京都国分寺市本町 1－2－1
- ④大隈重信の教育理念を実現するため早稲田大までの一貫教育の中で、6 年間の初等教育を担い「去華就実」を校是とし「三敬主義」を校訓とする。個性を尊重して身体を鍛え、豊かな心をもった人間性豊かな児童を育成する。

啓明学園初等学校

①三井高維

②昭和 15 年（1940 年）4 月 8 日

③東京都昭島市拝島町 5 - 11 - 15

④将来、世界に雄飛し、国際的に奉仕できる信仰を持った人材を養成する。特色：キリストの教えに基づく生き方を学ぶ。国際理解教育が盛んである。本物に触れる事を大切にしている。帰国子女教育。英語教育。

菅生学園初等学校

①島田 久

②平成 19 年（2007 年）4 月 1 日

③東京都あきる野市菅生 146

④『自然が教科書』が建学の精神。「歩き考え学ぶ」が教育の理念。西多摩の里山を中心とした豊かな自然環境の中で共に学びながら感性を磨き、さらに環境を生かした授業内容を展開している。

桐朋小学校

①財団法人山水育英会

②昭和 29 年（1954 年）12 月 1 日

③東京都調布市若葉町 1 - 41 - 1

④子どもたち一人ひとりの人格を尊重し、自主性を養い個性を伸長するヒューマニズムに立つ教育を実践する。子どもたちを充実した環境で育て人間としての無限の可能性を豊かに開花させる教育を行う。

晃華学園小学校

①汚れなきマリア修道会（設立母体）
ラウラ・広中・ハウナニ（初代校長）

②昭和 31 年（1956 年）11 月 1 日

③東京都調布市佐須町 5 - 28 - 1

④カトリック精神に基づき、神と人に対して真実に生き、真理を追究し、愛の心で自己と社会に責任を果たす児童を育成する。また、1 年から週 3 時間の英語の授業を課し、将来国際人として活躍できる児童を育てる。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

玉川学園小学部

①小原國芳

②昭和 4 年（1929 年）4 月 8 日

③東京都町田市玉川学園 6－1－1

④「全人教育」を教育理念とし「きれいな心・よい頭・強い体」を育てることを目指しています。子どもたちが夢をもつこと、世界に役立ち、神と人から愛される人間になるような教育をすることを大切にします。

和光鶴川小学校

①広重寿輔

②学園 昭和 8 年（1933）11 月 10 日
鶴川小学校
平成 4 年（1992）4 月 1 日

③東京都町田市真光寺 1282－2

④学校法人和光学園の 7 番目の学校として自然豊かな多摩丘陵の中に開校しました。学ぶ楽しさと子どものわかる筋道を大切にした自主テキストに基づく授業作りの中で、生きて働く知性と行動力を育てています。

サレジオ小学校

①ヴィンセンチオ・チマッティ

②昭和 22 年（1947 年）12 月 8 日

③東京都小平市上水南町 4－7－1

④本校はカトリック・ミッション校です。聖ヨハネ・ボスコの「予防的教育法」に基づく教育をします。少人数の環境の中で基礎学力を身に着け、共に生きることを丁寧に学び心の教育を行います。

東京創価小学校

①池田大作

②昭和 42 年（1967 年）11 月 18 日

③東京都小平市上水新町 2 丁目 20－1

④モットーとして「闊達・友情・根性」を掲げ、児童の無限の可能性を信じ、未来に貢献しゆく人材を育成する教育に取り組んでいます。また、豊かな人間性と創造性を育むため、読書教育にも力を入れています。

国立学園小学校

①堤 康次郎

②大正 15 年（1926 年）4 月 19 日

③東京都国立市中 2 - 6

④「個性を伸ばし、自由と創造を尊
び、文化の建設に役立つ人間を育成
する」ことを理念に、創立しました。
以来一貫して「豊かな人間性を培う」
学び舎として教育活動に専心、今日
に至ります。

国立音楽大学附属小学校

①有馬大五郎

②昭和 28 年（1953 年）11 月 11 日

③東京都国立市西 1 - 15 - 12

④自由、自主、自律を尊重する教育活
動を通して、自分の考えで学び、自
分の判断で行動できる子どもの育
成。全学年少人数制教育。音楽の授
業にリトミックを取り入れる。全学
年英語の教科あり。理科、造形、音
楽、英語、体育は専科制。

桐朋学園小学校

①山下亀三郎

②昭和 33 年（1958 年）10 月 30 日

③東京都国立市中 3 - 1 - 10

④1 年生から 6 年生までの独自の力
リキュラムに則った生活科を中心に
して、豊かな環境の中で、児童一人
ひとりを大切に、個性を尊重しな
がら豊かな人間形成をめざす人間教
育を特色とする。

帝京大学小学校

①冲永佳史

②平成 17 年（2005 年）4 月 1 日

③東京都多摩市和田 1208 - 5

④教育理念の「自分流」とは「自分で
問題意識を持ち、考え、判断し、行
動しそれによってもたらされた結果
に対して責任を持つ人材」の育成を
めざし、教育目標として「強く・優
しく・美しく」を設定した。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

東星学園小学校

①ヨゼフ・フロジャク

②昭和 11 年（1936 年）4 月

③東京都清瀬市梅園 3 - 14 - 47

④子どもが自らを大切な存在であると気づくために必要なことは、周囲の大人から大切にされる経験です。東星学園の教職員は、一人ひとりの児童を神様から造られた最高傑作として大切にしています。

自由学園初等部

①羽仁もと子、吉一

②大正 10 年（1921 年）4 月 15 日

③東京都東久留米市学園町 1 - 8 - 15

④自由学園羽仁もと子・吉一がキリスト教精神に基づき創立。「思想しつつ 生活しつつ 祈りつつ」をモットーに『真の自由人』の育成を目指す。初等部は、子供らしい生活をしてながら感性を磨き人間の基礎を築くことを目的とする。

〔関東地区〕 46 校

横浜英和小学校

- ①宣教師ハリエット G. ブリテン
- ②明治 13 年（1880 年）10 月 28 日
- ③神奈川県横浜市南区蒔田町 124 番地
- ④「心を清め 人に仕えよ」を校訓としキリスト教教育を行っている。一人一人を大切にしてい個に合う指導をし、学習の基礎基本をしっかり身につけ、人を愛し、進んで人のために働ける子どもの育成を目指している。

関東学院小学校

- ①W. アクスリング
- ②昭和 28 年（1953 年）3 月 14 日
- ③神奈川県横浜市南区三春台四番地
- ④校訓「人になれ 奉仕せよ」キリスト教を土台とした教育。また、サービス・グループの活動を中心とした奉仕教育。基礎基本・思考力・想像力が身につくよう指導に力を入れている。

横浜雙葉小学校

- ①マザー・マチルド（幼きイエス会）
- ②大正 3 年（1914 年）4 月 1 日
- ③神奈川県横浜市中区山手町 226
- ④「徳においては純真に、義務においては堅実に」の校訓のもと、子どもたちが、神に生かされていることに気づき、自分に与えられた恵みや力を周りの人と分かち合いながら伸びていけるよう教育しています。

精華小学校

- ①佐藤善治郎
- ②大正 11 年（1922 年）4 月 1 日
- ③神奈川県横浜市神奈川区沢渡 18
- ④体育・情操教育・作業を奨励し、自由個別的教育を基本とする。個性を尊重し、自ら律し自発的に規律・習慣を育て上げる教育に重きを置く。人格形成を図る上で、「校訓」の教えを児童の生活信条・指針とする。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

捜真小学校

①千葉 勇

②昭和 32 年（1957 年）4 月 8 日

③神奈川県横浜市神奈川区中丸 8 番地

④本校の建学の精神は、「キリスト教に基づき、真理の探究をなしつつ、人間形成の教育をすること」です。そして、自己の能力を最善に伸ばし、自分を愛するように人を愛し、感謝をもって奉仕できる人を育成します。

関東学院六浦小学校

①坂田 祐

②昭和 24 年（1949 年）4 月 1 日

③神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1

④関東学院は、「人になれ 奉仕せよ」との校訓のもと、キリスト教に基づく教育活動を展開しています。本校では、児童を神から託された存在と捉え、一人ひとりを愛し育む教育を目指します。

聖ヨゼフ学園小学校

①アトムメントのフランシスコ会

②昭和 28 年（1953 年）4 月 8 日

③神奈川県横浜市鶴見区東寺尾北台 11-1

④カトリックの精神に基づき「信・望・愛」を校訓とし普遍的な価値判断のできる人を育てる。愛の心を背景に知徳体とバランスがとれ、個々の賜物に気づき生かそうとする社会に貢献できる人を育てる。

桐蔭学園小学部

①柴田周吉

②昭和 41 年（1966 年）12 月 15 日

③神奈川県横浜市青葉区鉄町 1614

④桐蔭学園は知育・体育・徳育のバランスのとれた、次代を担う真のエリートの育成を教育目標にしています。小学部では基礎力と自主的な学習姿勢を身につけ、中学・中等へ連携させていく教育を行っています。

森村学園初等部

- ①森村市左衛門
- ②明治 43 年（1910 年）4 月 25 日
- ③神奈川県横浜市緑区長津田町 2695
- ④「花を咲かせるより生きた人間を育てる」との決意のもとに設立。「正直・親切・勤勉」を校訓とし、豊かな自然環境の中、一人ひとりの個性を尊重し、学びの基礎を築くと共に、思考力や感受性を育んでいます。

横浜三育小学校

- ①セブンスデー・アドベンチスト教団
- ②昭和 32 年（1957 年）4 月 5 日
- ③神奈川県横浜市上川井町 1985
- ④「聖書の示す愛を土台とし、神と隣人に対して十全な奉仕をするため、人間の備える身体、知性、霊性の全ての面を最大限に発達させ、円満な人間形成を実現すること、これが三育教育の目的であり使命である。」

洗足学園小学校

- ①前田若尾
- ②大正 13 年（1924 年）6 月 2 日
- ③神奈川県川崎市高津区久本 2 丁目 3-1
- ④謙虚にして慈愛に満ちた心を育てることを根本におく。人と社会に奉仕貢献できる人材の育成を目指し、深い知性と高い倫理観、健康な身体を育てるための教育をおこなう。そのための独自の取り組みも充実している。

カリタス小学校

- ①S r . リタ・デシャエンヌ
- ②昭和 38 年（1963 年）4 月 1 日
- ③神奈川県川崎市多摩区中野島 4-6-1
- ④神を信じ、普遍的愛をもって人に尽くす人間の育成を目指します。人と生きものを慈しむ心を育て、総合教育活動を通して問題解決能力を培います。外国語は男子は英語、女子は仏語を 1 年生から学んでいます。

桐光学園小学校

- ①小塚光治
- ②平成 8 年（1996 年）4 月 1 日
- ③神奈川県川崎市麻生区栗木 3-13-1
- ④教師と子ども、子どもと子どもの心がふれ合い、そこで生まれる喜び、怒り、感激によってお互いの心がとけ合う。教師は子どもの今を受け入れることを大切に、それを教育の出発点と考える。

湘南学園小学校

- ①安倍政次郎
- ②昭和 8 年（1933 年）11 月 15 日
- ③神奈川県藤沢市鵠沼松が丘 4 丁目 1 番 32 号
- ④「個性豊かにして身体健全 気品高く 社会の進歩に貢献できる 明朗有為な実力のある人間の育成」
小学校の重点課題
- ・子どもたち一人ひとりに「豊かな学力」を保障する。
 - ・充実した生活指導を通じて、良識ある市民を育成する。

湘南白百合学園小学校

- ①シャルトル聖パウロ修道女会
- ②昭和 12 年（1937 年）
- ③神奈川県藤沢市片瀬海岸 2-2-30
- ④キリスト教精神に根ざした価値観を養い、神と人の前に誠実に歩み、愛の心をもって社会に奉仕できる女性の育成を目的とする。これを具体化した校訓「従順・勤勉・愛徳」を、日々の教育活動に生かしている。

鎌倉女子大学初等部

- ①松本生太
- ②昭和 26 年（1951 年）3 月 15 日
- ③神奈川県鎌倉市岩瀬 1420
- ④建学の精神は『感謝と奉仕に生きる人づくり』。その道しるべとして「人・物・時を大切に」と、「ぞうきんと辞書を持って学ぶ」を位置づけ、教職員自ら率先垂範、血の通ったきめの細かい教育を展開しています。

清泉小学校

- ① 聖ラファエラ・マリア
- ② 昭和 22 年（1947 年）4 月 1 日
- ③ 神奈川県鎌倉市雪ノ下 3－11－45
- ④ 「神のみ前に清く正しく愛深く」をモットーに日々の宗教教育を基盤とし丁寧な基礎学習、教科や教科書に捉われず体験的に学ぶ総合学習、自然の中で心と身体を育む自然教室。これらを通して愛に生きる人間の育成。

聖マリア小学校

- ① ジョン・カリネン神父
- ② 昭和 26 年（1951 年）5 月 24 日
- ③ 神奈川県逗子市逗子 6－8－47
- ④ 戦後の混沌とした時代に、確固たる教育理念のある学校を求める逗子在住の父母の要望に応じて創設された。一学年ークラス、複数担任制を実施し、キリスト教の精神を教育理念に据えきめ細やかな指導を行っている。

平和学園小学校

- ① 賀川豊彦・村島帰之
- ② 昭和 21 年（1946 年）4 月 27 日
- ③ 神奈川県茅ヶ崎市富士見町 5－2
- ④ キリスト教信仰にもとづき、自由で平和であたたかい愛の学園をきずき、神を信じ、隣人を愛する人、真の平和をつくるまことの人を世に送り出す。

横須賀学院小学校

- ① 日本基督教団所属の牧師、キリスト者
- ② 昭和 25 年（1950 年）6 月 9 日
- ③ 神奈川県横須賀市稲岡町 82 番地
- ④ 「敬神・愛人」・「心に愛を育み、愛を実践する子どもの育成」キリスト教に教育理念をおく本校は積極的に“待つ”姿勢を大切にしています。私達は決して急ぎません。近道を求めません。遠回りを厭いません。“待つ”姿勢を極める日常を私達の教育的使命としています。

相模女子大学小学部

①西 澤之助

②昭和 26 年（1951 年）4 月 1 日

③神奈川県相模原市南区文京 2－1－1

④「高潔善美」

一固き思いを以って

やさしき行いをせよ

教育の特色・少人数学級編成

・たてわり活動

・放課後クラブ

・つなぐ手の時間

聖セシリア小学校

①伊東静江

②昭和 7 年（1932 年）11 月 24 日

③神奈川県大和市南林間 3－10－1

④「信じ希望し愛深く」を校訓とし、イエス・キリストによる「愛」の教えに基づく教育を実践しています。知を磨き、心を育て、総合的な人間力を育みます。子どもたちが明るく素直であることが本校の校風です。

七沢希望の丘初等学校

①内田文江

②平成 21 年（2009 年）1 月 25 日

③神奈川県厚木市七沢 433－1

④生きる喜びを抱き、自ら学びを拓く
七沢希望の丘初等学校は、豊かな自然や歴史のある七沢の恵まれた地域環境と教育環境の中で、子供たち一人ひとりが「生きる喜び」を実感できる教育活動を実践します。

聖ステパノ学園小学校

①澤田美喜

②昭和 28 年（1953 年）4 月 10 日

③神奈川県中郡大磯町大磯 868

④相模湾沿岸のほぼ中央、大磯町の小高い丘の森の中にある小さな木造の学校で、一人ひとりの個性を確り受け止め、誰もが明るく自信を持ち、優しい心を育むことが出来るように教育的な支援に力を入れています。

函嶺白百合学園小学校

①シャルトル聖パウロ修道女会

②昭和 24 年（1949 年）

③神奈川県足柄下郡箱根町強羅 1320

④『キリストの愛の教えに基づく全人教育を通して、社会に貢献できる子女の育成』をめざしています。箱根の大自然に囲まれて人と人とのふれあい、家庭的な雰囲気大切に、健やかな心身と豊かな情操を育みます。

恵明学園小学校

①田治林太郎

②昭和 26 年（1951 年）5 月 3 日

③神奈川県足柄下郡箱根町小涌谷 439-2

④児童養護施設である、社会福祉法人『箱根恵明学園』に併設された学校で、施設の児童のみが通学する。家庭に事情があり、心や学力に大きなハンディを抱えた児童が多く、個々に即したきめ細かな指導を展開する。

聖坂養護学校小学部

①伊藤 伝

②昭和 17 年（1942 年）7 月 20 日

③神奈川県横浜市中区山手町 140 番地

④東京水上小学校を 20 年勤めた伊藤伝は、62 歳で日本水上小学校を始める。1967 年港の近代化に伴い日本水上小学校を閉じ聖坂養護学校を開校する。一貫して公教育の谷間にある子どもの教育を行ってきた。

シュタイナー学園小学校

①

②平成 16 年（2004 年）11 月 1 日

③神奈川県相模原市緑区名倉 2805-1

④ルドルフ・シュタイナーの人間観に基づく子どもの発達段階に沿った創造性、芸術性に満ちた教育を実践。知情意の調和と周りの世界との暖かい繋がりを持ち、学ぶ喜びを持ちつつ世界に働きかける人を育てる。

静岡サレジオ小学校

- ①レチチア・ベリアッチ
- ②昭和 26 年（1951 年）4 月 1 日
- ③静岡市清水区中之郷三丁目 2－1
- ④創立者ドン・ボスコは、キリストの教えた人生観や人間観に基づき、子供の心に愛情、知性、正しい良心を有む予防教育法という独自の教育方法を打ち出し一人ひとり調和のある人格を培う事を目指す

東海大学付属小学校

- ①松前重義
- ②昭和 42 年（1967 年）4 月 1 日
- ③静岡市清水区三保 2068
- ④若き日に 汝の思想を培え
若き日に 汝の体躯を養え
若き日に 汝の智能を磨け
若き日に 汝の希望を星につなげ
「調和のとれた文明社会を建設する」
という理想を高く掲げ、歩み続けま
す。

加藤学園暁秀小学校

- ①加藤正秀
- ②昭和 47 年（1972 年）4 月 1 日
- ③静岡県沼津市大岡自由ヶ丘 1979
- ④1972 年わが国初の「オープンプラン・スクール」として開校。1992 年には、これもわが国初の日英バイリンガル教育を目指す「英語イマージョンプログラム」を新設し、独自の教育に取り組んでいる。

常葉学園大学教育学部附属橘小学校

- ①木宮泰彦
- ②昭和 53 年（1978 年）4 月 1 日
- ③静岡市葵区瀬名 1－22－1
- ④「より高きを目指して、学び続ける人間」。「三方よし」（自分よし 相手よし みんなよし）を生活モットーに、質の高い集団活動を通して自立力・共存力を育てます。特色はオーケストラ学習と 6 年間の一貫した英語教育。

作新学院小学部

①船田小常

②昭和 29 年（1954 年）4 月 1 日

③栃木県宇都宮市一の沢町 1-1-41

④建学の精神「作新民」は、「日々に民を改め新に作せ」に由来し、変遷する時代の要請に適する人材を育成することの重要性を説く。心の豊かな人になれるよう「知・徳・体」のバランスのとれた教育に力を注ぐ。

浦和ルーテル学院小学校

①ウィリアム・J・ダンカー宣教師

②昭和 28 年（1953 年）3 月 6 日

③さいたま市浦和区駒場1-22-18

④「神と人とを愛する人間、神と人々に愛される人間」を建学の精神とし、思いやりと感謝の心の教育を目指す。小中高 12 年の一貫教育を通して全教師がすべての児童生徒を知り、個性に応じたきめ細かな少人数教育を実現している。

さとえ学園小学校

①佐藤栄太郎

②平成 15 年（2004 年）4 月 1 日

③さいたま市北区本郷町 1813

④「人間是宝」（人間これ宝）人は資本、資産なりの精神から、子どもたち一人ひとりの内在する可能性を開発する教育を目指しています。日本初の複合型教育と称する早期英才教育にも力を入れています。

西武学園文理小学校

①佐藤英樹

②平成 16 年（2004 年）4 月 1 日

③埼玉県狭山市下奥富 600

④心を育てる、知性を育てる、国際性を育てる、を教育の柱に、思考力、表現力、の育成、国際教育に力を入れる。1 年から英語、音楽、図工、体育の授業を英語で実施。5 年でイギリス、6 年でアメリカ研修を実施。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

日出学園小学校

①青木要吉

②昭和 9 年（1934 年） 4 月 6 日

③千葉県市川市菅野 3 丁目 23 - 1

④「なおく・あかるく・むつまじく」の校訓に基づき、基礎学力と創造力を伸ばす指導また宿泊学習・異学年、異年齢交流などの体験を通じて「知・徳・体」のバランスのとれた人間教育を実施しています。

国府台女子学院・小学部

①平田華蔵

②大正 15 年（1926 年） 3 月 6 日

③千葉県市川市菅野 3 - 24 - 1

④本学院の教育は、仏教精神を基盤とし、「敬虔」「勤労」「高雅」を教育の三大目標に据えた心の教育である。建学以来浄土真宗の御教えにならい、高い教養と深い情操を併せ持つ女性の育成を目指している。

光風台三育小学校

①セブンスデー・アドベンチスト教団

②昭和 53 年（1978 年） 4 月

③千葉県市原市光風台 2 丁目 535 番

④「聖書の示す愛を土台とし、神と隣人に対して十全な奉仕をするため、人間の備える身体、知性、霊性の全ての面を最大限に発達させ、円満な人間形成を実現すること、これが三育教育の目的であり使命である。」

千葉日本大学第一小学校

①加納 弘

②昭和 61 年（1986 年） 4 月 1 日

③千葉県船橋市習志野台 8 - 34 - 2

④建学の精神である校訓は、真・健・和であります。そして、本学園の共通目標である「絆を重んじ、良き生活習慣をもった次世代人の育成」の理念のもと、小・中・高一貫した児童、生徒の育成を目指しています。

聖徳大学附属小学校

①川並弘昭

②昭和 61 年（1986 年）4 月 11 日

③千葉県松戸市秋山 600

④「和」の精神に基づく人間教育を建学の理念とする本校は、豊かな学習環境のもと、思いやりの心を育む「礼法」の授業、基礎学力とその活用力を重視した教科学習、学年を超えた「明和班」活動、伝統文化を重んじた行事等、「心を磨く」教育を進めています。

成田高等学校付属小学校

①那須政隆

②昭和 48 年（1973 年）3 月 15 日

③千葉県成田市田町 10 番地

④成田高等学校は成田山の宗教的使命の達成と地方文化の向上のために創設された。高等学校、付属中学校、付属小学校間の教育の一貫性を重視しつつ、文武両道に励むことを通して、社会に貢献する人材を育成する。

暁星国際小学校

①田川 茂

②平成 7 年（1995 年）4 月 1 日

③千葉県木更津市矢那 1083

④我々の教育の原点、それは「神に近づくこと」にほかならない。本校の建学の精神は、国際人としての自覚と自ら困難に立ち向かうたくましさである。一貫教育の中で、人を魅了する人間を育成する。

久慈川三育小学校

①セブンスデー・アドベンチスト教団

②昭和 24 年（1949 年）4 月 1 日

③茨城県日立市留町 1097 - 2

④聖書の示す愛を土台とし、神と隣人に対して十全な奉仕をするため、人間の備える身体、知性、霊性の全ての面を最大限に発達させ、円満な人間形成を実現すること、これが三育教育の目的であり使命である。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

リリーベール小学校

- ①大久保博之
- ②平成 16 年（2004 年）4 月 1 日
- ③茨城県水戸市藤が原 3－1117－1288
- ④自立、創造、指導力を培い、高い志と勇気をもって、社会に貢献する、毅然として魁となる人を育て行くという方針と理念のもと、ユニークできめ細やかな教育を行っており、情報、演劇などにも力を入れている。

ぐんま国際アカデミー初等部

- ①清水聖義
- ②平成 17 年（2005 年）4 月 1 日
- ③群馬県太田市西本町 69－1
- ④太田市の特区構想の下、特区第 1 号認定。一般教科の 70%を英語ネイティブ教師と共に英語で学ぶイマージョン教育。壁のないオープン教室での初中高 12 年間の一貫教育によりネイティブに近い英語力習得。

須磨浦小学校

①廣瀬宰平・河上謹一・川崎芳太郎・
田中太七郎・鳴瀧幸恭・芝川又衛門・
廣瀬満正

②明治 35 年（1902 年）10 月 5 日

③兵庫県神戸市須磨区千守町 2 丁目 1－13

④ たくましい身体
思いやりと誇り
伸びやかな知性を育てる

一人ひとりの能力を引き出し、豊かな感性を持ち、自ら学ぶ意欲を持った国際性豊かな子どもを育てる。

甲南学園甲南小学校

①平生鈆三郎

②明治 45 年（1912 年）9 月 10 日

③兵庫県神戸市東灘区住吉本町1－12－1

④「人格の修養と健康の増進を第一義とし、個性に応じて天賦の才能を発揮させる」という建学の精神のもと、「徳・体・知」のバランスを重視し、幅広い教養を身につけた、世界に通用する人間づくりを目指す。

愛徳学園小学校

①愛徳カルメル修道会

②昭和 29 年（1954 年）2 月 26 日

③兵庫県神戸市垂水区歌敷山 3－6－49

④キリスト教的な愛の精神を土台とし、聖女ホアキナの教育理念「Todo Por Amor（すべてを愛によって）」に従い、神と隣人への愛に生き、明るく素直で、勤労を尊ぶ心身ともに健康な児童（女子）の育成を図る。

神戸海星女子学院小学校

①マリー・ムスチェ・ド・カンシー

②昭和 26 年（1951 年）3 月 1 日

③兵庫県神戸市灘区青谷町 2 丁目 7 番 1 号

④「真理と愛に生きる」を目指して建学の基をキリスト教的人間観・世界観においており、「宗教教育」「福祉教育」「国際教育」「縦割り教育」を通して、全人教育の実現を目指します。

雲雀丘学園小学校

①鳥井信次郎

②昭和 25 年（1950 年）10 月 1 日

③兵庫県宝塚市雲雀丘 4 - 2 - 1

④建学の精神は「孝道」（親孝行）。豊かな人間づくりを目標に、縦割り異年齢集団活動、環境教育としての「花育」に取り組む。1 年生から英会話やパソコンの授業、日本語の美しさを学ぶ国語教育を実施。

小林聖心女子学院小学校

①ヘルマナ・マイヤー

②大正 12 年（1923 年）4 月

③兵庫県宝塚市塔の町 3 - 113

④創立者は、真の礼拝の精神に生きる人を育てたいと望みました。社会に貢献する賢明な女性の育成をめざし、キリスト教的価値観に基づく全人教育を柱として、魂を育て、知性を磨き、実行力を養います。

関西学院初等部

①W. R. ランバス

②明治 22 年（1889 年）9 月 28 日

③兵庫県宝塚市武庫川町 6 - 27

④キリスト教主義による知得兼備の人材を育成することを目指し、創立者 W. R. ランバスの理念と精神を表現した“Mastery for Service”（「社会と人のために自らを鍛える」）をスクールモットーとした教育活動を展開している。

仁川学院小学校

①コンベンツアル聖フランシスコ会

②昭和 31 年（1956 年）4 月 12 日

③兵庫県西宮市甲東園 2 - 13 - 9

④建学の精神 「和と善」
“和”とは、神の愛で歓喜と感謝に満たされてすべての人となごむ心。
“善”とは、神から与えられた人間の潜在能力。“善”を学力や体力として最大限開花させ、“和”で社会に奉仕する人間を育てる。

甲子園学院小学校

①久米長八

②昭和 26 年（1951 年）3 月 1 日

③兵庫県西宮市天道町 10 番 15 号

④校訓「黽勉努力」「和衷協同」「至誠一貫」を基本理念として「学校は勉強するところである」をモットーに、思考と体験に支えられた知力、思いやりのある徳力、鍛えることによる体力の育成を目指しています。

百合学院小学校

①田口芳五郎

②昭和 30 年（1955 年）4 月

③兵庫県尼崎市若王寺 2 - 18 - 2

④宗教的情操教育を通して、人生の目的や意義を十分理解し、校訓「純潔・愛徳」を身につけ、深い教養に満ちた女性の育成を目指す。キリスト教教育、女子教育、国際理解教育をすすめている。

大阪信愛女学院小学校

①大山ヤヨ

②昭和 27 年（1952 年）4 月

③大阪市城東区古市 2 - 7 - 30

④カトリック精神を基盤とする教育理念の中で一人ひとりを大切にし、その可能性を最大限に伸ばしながら「マリアの心」を生きる明朗で心豊かな女性の育成。家庭的な温かさの中で真剣に向き合い鍛えます。

追手門学院小学校

①高島鞆之助

②明治 21 年（1888 年）

③大阪市中央区大手前 1 - 3 - 20

④大阪偕行社附属小学校として開校した本校は「独立自彊・社会有為」を設立の理念とし「躰」「学力」「国際教育」に力を入れる教育を始めました。現在でもその理念を継承し、将来日本のリーダーとなる人材を育てています。

帝塚山学院小学校

①山田市治郎・田附政次郎・八木與三郎
・山田二郎兵衛・山本藤助

②大正 5 年（1916 年）12 月 21 日

③大阪市住吉区帝塚山中 3－10－51

④「力の教育」を建学の精神とする。
「力の教育」とは、「意志の力、情の力、知の力、躯幹の力」を身につけた、力の漲る人を育成する全人教育のことです。また、教育理念として「自学主義」を掲げています。

城南短大附属小学校

①坂上武一

②昭和 25 年（1950 年）2 月 6 日

③大阪市東住吉区湯里 6－4－26

④建学の精神は、「自主自律（強く正しい）」「清和気品（清くやさしい）」です。「実践力のある魅力ある子」を育てます。教えるべきことはしっかりと教え、しつけるべきことはできるまできちんと指導します。

城星学園小学校

①聖ヨハネ・ボスコ

②昭和 28 年（1953 年）3 月

③大阪府中央区玉造 2－23－26

④カトリック精神に基づき、ヨハネ・ボスコの教育理念である道理と信仰と愛に根ざした教育法によって、児童の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする「良心的な人間、よき社会人」を育成する。

四條畷学園小学校

①牧田宗太郎

②昭和 23 年（1948 年）4 月

③大阪府大東市学園町 6 番 45 号

④「報恩感謝」を建学の精神とし、温もりと活力のある総合学園。恵まれた環境と子どもの興味と関心を基にした多様な教育メニューにより、ゆるぎない学力とたくましく生きる力を持つ子どもを育成します。

箕面自由学園小学校

①岸本兼太郎

②大正 15 年（1926 年）4 月 1 日

③大阪府豊中市宮山町 4 - 21 - 1

④自然環境を教育の基盤として体験と実践と自由創造の精神を培うとともに、個性応能の全人教育的視野に立ち、知育・徳育・体育を兼ね併せつつ「教養高い社会人の資質を育成する」ことを精神としています。

大阪聖母学院小学校

①メール・マリー・クロチルド・リチュニエ

②昭和 7 年（1932 年）4 月

③大阪府寝屋川市美井町 18 - 10

④カトリックの人間観・世界観にもとづく教育を通して、真理を探究し、愛と奉仕と正義に生き、真に平和な世界を築くことに積極的に貢献する人間を育成する。

聖母被昇天学院小学校

①聖マリ・ウージェニー

②昭和 29 年（1954 年）4 月 30 日

③大阪府箕面市如意谷 1 - 13 - 23

④「誠実・隣人愛・喜び」をモットーに掲げ、愛と正義に根ざした社会へと変革することに貢献できる女性の育成を目指す。より高い学力の育成と国際的な雰囲気の中で語学力・国際感覚を養うことを特色とする。

関西大学初等部

①学校法人関西大学

②平成 22 年（2010 年）4 月 1 日（開校）

③大阪府高槻市白梅町 7 - 1

④関西大学の教育理念「学の実化（じつげ）」に基づき、学理と実際の調和を基本とする独自の教育を展開。一貫教育を通じて「5つの力（高い品格・確かな学力・国際理解力・健やかな体・情感豊かな心）」を育てる。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

賢明学院小学校

① マリー・リヴィエ

② 昭和 35 年（1960 年）4 月 1 日

③ 大阪府堺市堺区霞ヶ丘町四丁 3 番 27 号

④ 「ひとりの魂は、この宇宙より重い存在です」という創立者の心を受け継いで、すべての子どもたちに生きるよろこびを与えることを目指してつくられた学校です。祈り、学び、奉仕の使命を果たします。

はつしば学園小学校

① 柳 延胤

② 平成 15 年（2003 年）年 4 月

③ 大阪府堺市東区西野 194 - 1

④ 「誠実剛毅」を基に、教育理念とし、「夢と高い志、挑戦、そして未来創造」を掲げています。基礎学力の定着・しつけ教育の重視・国際性の育成・気力、体力の練磨に重点を置き、教育活動を進めさせていただいています。

PL 学園小学校

① 御木徳近

② 昭和 39 年（1964 年）4 月

③ 大阪府富田林市大字喜志 2055

④ 「人生は芸術である」をはじめとする PL の教えを原点とし、最も自分を生かし、周囲と調和できる自己表現の在り方を追求しています。

四天王寺学園小学校

① 学校法人四天王寺学園

② 平成 21 年（2009 年）3 月 30 日

③ 大阪府藤井寺市春日丘 3 丁目 1 番 78 号

④ 聖徳太子の敬田院設立の精神を礎に、「和の精神」の具現化に努めます。もって尊い日本の歴史・伝統・文化を継承しながら、平和や繁栄に貢献する「たくましく 教養豊かな 日本の心」を育成します。

関西創価小学校

①池田大作

②昭和 57 年（1982 年）4 月 1 日

③大阪府枚方市東中振 2 丁目 10 番 2 号

④創価教育の理念にもとづき、健康にして人間性豊かな英才の育成を目指しています。人・自然・文化との関わり合いを大切にし、一人一人の可能性を開き、創造性・国際性を育む人間教育の充実を目指しています。

白頭学院 建国小学校

①曹圭訓

②昭和 24 年（1949 年）

③大阪市住吉区遠里小野 2 - 3 - 13

④本校は、私たち韓国人による韓国人のための学校です。幼稚園から高校までの教育を通して、一人ひとりの人格を大切にしながら、21 世紀に、世界で活躍する豊かな「国際人」の育成をめざしています。

金剛学園小学校

①崔仁俊

②昭和 21 年（1946 年）5 月 10 日

③大阪市住之江区南港北 2 - 6 - 10

④韓国政府と日本の文部科学省の認可によるカリキュラムを実施。国際人としての資質と自負心を培う教育を行うとともに、豊かな情緒と思いやりの心をはぐくみ、互いに尊重しあえる人格の形成に力を注いでいる。

帝塚山小学校

①山本藤助

②昭和 27 年（1952 年）4 月 11 日

③奈良市学園南 3 - 1 - 3

④子どもは学園の宝という建学の精神に則り、じっくり心と頭と体で考え、生き生きと意欲的に最後まで挑戦し続ける、品性と感性豊かな考える力のある子どもの育成を目標に、子ども主役の学校づくりを目指します。

奈良育英小学校

①藤井長治

②昭和 30 年（1955 年）12 月 27 日

③奈良市法蓮町 1000 番地

④学園の創始者藤井高蔵先生の遺言による「規模の大よりも実質のよろしきに重きを置く」の精神より、本校の特色は量より質、形より内容にを基本とし、ささえ合う子どもを理想として励んでいます。

奈良学園小学校

①学校法人奈良学園

②平成 20 年（2008 年）4 月 1 日

③奈良市中登美ヶ丘 3 丁目 15 - 1

④建学の精神「自ら生きて・生きる」を礎に、強く自立し、社会に貢献する人材育成をめざし、3 歳から 18 歳までの 15 年間を、発達段階に合わせた〔3 + 4 - 4 - 4〕制一貫教育システムにより実践を進めている。

近畿大学附属小学校

①世耕弘一

②昭和 29 年（1954 年）3 月 1 日

③奈良市あやめ池北一丁目 33 番 3 号

④「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人になろう」の近畿大学の教育理念のもと、「国宝的人物の育成」を附属小学校の建学の精神に掲げ、「生きる力」として智・徳・体のバランスのとれた力を育成する。

天理小学校

①中山正善

②大正 14 年（1925 年）4 月 1 日

③奈良県天理市杣之内町 80

④本学は「信条教育」の徹底を以て、世界の「陽気ぐらし」に貢献する人材の育成を図る」ことを建学の精神としている。初等普通教育を施すとともに、天理教教義に基づく信条教育を行い、立派なよふばくを育成することにある。

智辯学園奈良カレッジ小学部

- ①藤田照清
- ②平成 16 年（2004 年）4 月 1 日
- ③奈良県香芝市田尻 265
- ④「愛のある教育」が学園教育の原点です。「誠実・明朗」に育てて欲しいという親の願いを叶えることを一大目標に、子どもの持てる能力の最大開発と、宗教的情操に基づく感性の涵養に徹します。

ノートルダム学院小学校

- ①マザーテレジア・ゲルハルディンガー
- ②昭和 29 年（1954 年）4 月 1 日
- ③京都市左京区下鴨南野々神町 1－2
- ④イエス・キリストの福音に基づいてめざした教育の精神に沿って、神に創造され、愛されている児童生徒学生一人ひとりのもつ可能性が完全に開花され、平和な地球社会の発展に貢献できる人間の育成をはかる。

京都聖母学院小学校

- ①メール・マリー・クロチルド・リチュニエ
- ②大正 12 年（1923 年）6 月 3 日
（京都開校 1949 年）
- ③京都市伏見区深草田谷町 1
- ④カトリックの人間観・世界観にもとづく教育を通して、真理を探究し、愛と奉仕と正義に生き、真に平和な世界を築くことに積極的に貢献する人間を育成する。

京都女子大学附属小学校

- ①甲斐和里子・大谷籌子・九条武子
（京都女子学園創設者）
- ②昭和 32 年（1957 年）4 月 8 日
- ③京都市東山区今熊野北日吉町 6 番地 3
- ④親鸞聖人の体せられた仏教精神を建学の精神とし「心の教育」を実践しています。また、「国語力は人間力」を合言葉に、すべての教科の基礎となり、人間関係を豊かにする国語力の育成に重点を置いています。

光華小学校

- ①東本願寺・大谷智子お裏方
- ②昭和 14 年（1939 年）9 月 15 日
（学園創立）
小学校は昭和 43（1968）年 4 月開設
- ③京都市右京区西京極野田町 39
- ④校訓「真実心」、めざす児童像「元気で明るく、勉強も頑張る子ども」とかけ、親鸞聖人の御教えを礎に、知徳体の調和のとれた人間育成に努めています。

京都文教短期大学付属小学校

- ①獅谷佛定上人
- ②明治 37 年（1904 年）5 月 25 日
- ③京都市左京区岡崎円勝寺町 5
- ④「佛法僧の三宝」を敬い、「明るく・正しく・仲良く」を信条として日々の実践に努めています。そのことは、「やさしい人になって欲しい」という、慈悲心のある人格の形成をめざしています。

同志社大学附属同志社小学校

- ①学校法人同志社
- ②平成 18 年（2006 年）4 月 1 日
- ③京都市左京区岩倉大鷲町 89 - 1
- ④新島襄の同志社設立の目的に則り、良心を手腕に地の塩・世の光として活躍できる人物を育てることを建学の精神としている。そのための教育理念として「キリスト教主義」、「自由主義」、「国際主義」を掲げている。

一燈園小学校

- ①西田天香
- ②昭和 8 年（1933 年）8 月 31 日
- ③京都市山科区四ノ宮柳山町 29
- ④「行余学文」（行じて余暇あれば文を学ぶ）の校是のもとに、生徒の人間性を高めることに重点を置いている。その柱は「自己を深める＝祈り」「社会に役立つ＝汗」「基礎学力の徹底と充実＝学習」である。

智辯学園和歌山小学校

①藤田照清

②平成 14 年（2002 年）4 月 10 日

③和歌山市冬野 2066 － 1

④実績ある中高一貫 6 年制を母体に、小中高を見通した系統的・継続的な 12 年一貫教育を通して逞しい実践力を養い、各人の能力・適性の最大伸長を図ると共に宗教的情操教育に基づく豊かな人間性の育成を目指す。

椋山女学園大学附属小学校

①椋山正式

②昭和 27 年（1952 年）4 月 5 日

③愛知県名古屋市千種区山添町 2 － 2

④椋山女学園建学の教育理念「人間になろう」と小学校校訓「強く 明るく 美しく」の具現を、共生と未来志向というグローバル時代の視点のもと、「椋小ルネサンス」として創立時の先進性を呼び起こす教育を推進しています。

南山大学附属小学校

①ヨゼフ・ライネルス

②平成 20 年（2008 年）3 月 22 日

③愛知県名古屋市昭和区五軒家町 17－1

④キリスト教精神を基盤とし、広い視野や問題発見・解決力を備えた本質的な知性と、他者の気持ちに寄り添う共感能力、理解するコミュニケーション能力や相手を思いやる深い心を備えた人格の形成をめざす。

暁小学校

①宗村佐信

②昭和 23 年（1948 年）4 月 15 日

③三重県四日市市蒔田 3 － 3 － 37

④暁学園は学園綱領「人間たれ」掲げ、人を愛し、学問を愛し、美を愛する心豊かな人づくりを目指しています。幼稚園から大学院までを擁する三重県下唯一の総合学園の一翼を担う小学校として、教育連携を強め学びの連続性を追究しています。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

近江兄弟社小学校

- ①W.M.ヴォーリス・一柳満喜子
- ②昭和 22 年（1947 年）4 月
- ③滋賀県近江八幡市市井町 177
- ④イエス・キリストを模範とする人間教育を基本に「よく見る目、よく聞く耳、よく考える頭、よく働く手足」の視点で取り組み、宗教教育、国際人教育、基礎学力の充実、体験学習の推進の 4 つを柱にしている。

北陸学院小学校

- ①ヘッセルとフランシナ・E・ポーター
- ②明治 19 年（1886 年）10 月
- ③石川県金沢市三小牛町イ 11
- ④「主を畏れることは知恵のはじめ」（詩編 111 編 10 節）（学院標語）を柱にした豊かな人格教育。
 - ①キリスト教による心の教育
毎日の礼拝を重んじ、聖書の学習・宗教行事・日常生活の指導を通してキリスト教教育の浸透をはかる。
 - ②豊かな人間性の育成
一人一人の個性を大切にし、豊かな人間性を培い、目標に向かってやりぬく子どもを育てる。
 - ③基礎学力の充実
児童一人ひとりの理解に努め、児童の個性に応じたきめ細かな指導を行う。

ノートルダム清心女子大学附属小学校

- ①聖ジュリー・ピリアート
- ②昭和 42 年（1967 年）4 月 1 日
- ③岡山市北区伊福町 2 - 16 - 9
- ④「心を清くし、愛の人であれ」という精神に基づき、大学の附属校として、また岡場で最初の私立小学校として開校。2003 年度から英語で算数・理科を学ぶ国際コースを開設。帰国子女の編入者も増えている。

朝日塾小学校

- ①鳥海十児
- ②平成 5 年（1993 年）4 月 1 日
- ③岡山市北区吉宗 856 番地
- ④個性を伸ばすハイレベルの教育を建学の精神に、知育だけでなく、情操・健康教育にも力を注ぎ、全人格的な教育を展開。国際化・情報化を教育課題として取り入れ、社会に貢献できる地球人を育成します。

安田学園安田小学校

①安田リヨウ

②昭和 30 年（1955 年）11 月 29 日

③広島市中区白島北町 1 - 41

④建学の精神「柔しく剛く」の教えのもと、思いやりや礼儀正しい態度、物事をやり抜いていく強い意志とそれを支える知識・技術を大切に、目標に向かって粘り強く実践し、夢や志を実現していく子どもを育てる。

広島三育学院小学校

①セブンスデー・アドベンチスト教団

②昭和 31 年（1956 年）4 月 9 日

③広島市中区竹屋町 4 - 8

④「聖書の示す愛を土台とし、神と隣人に対して十全な奉仕をするため、人間の備える身体、知性、霊性の全ての面を最大限に発達させ、円満な人間形成を実現すること、これが三育教育の目的であり使命である。」

なぎさ公園小学校

①鶴 衛

②平成 15 年（2003 年）4 月 1 日

③広島市佐伯区海老山南 2 - 2 - 30

④「教育は愛なり」

創立 55 年を迎える鶴学園 7 番目の学校として開校。「愛＝想い」を込めた教育活動を主眼に、「五感をひらく体験」と「ほんもの体験」を学びの基軸に据え、児童一人ひとりの可能性を引出し、豊かな知性と人間性を育みます。

福山暁の星小学校

①マリー・テレーズ・ド・スピラン

②昭和 39 年（1964 年）4 月 6 日

③広島県福山市西深津町 3 - 4 - 1

④本校の教育理念は、キリスト教の価値観に基づいている。神より与えられた自分自身の価値を知り、我ら皆きょうだいであるとの認識の下、友達や人を大切にし、愛と奉仕の精神を養う。真の国際性の基礎を培う。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

英数学館小学校

①加計 勉

②平成 6 年（1994 年）4 月 10 日

③広島県福山市引野町 980 - 1

④自らの天分を最大限に伸ばし、日本古来の醇風美俗を重んじ小中高一貫教育によって英知を養い新しい時代の人間として国際社会に貢献する人材を育成する知・徳・体の調和をはかり、豊かな品性と健康な身体を養う。

広島三育学院大和小学校

①セブンスデー・アドベンチスト教団

②昭和 52 年（1977 年）5 月 10 日

③広島県三原市大和町下徳良 296 - 2

④「聖書の示す愛を土台とし、神と隣人に対して十全な奉仕をするため、人間の備える身体、知性、霊性の全ての面を最大限に発達させ、円満な人間形成を実現すること、これが三育教育の目的であり使命である。」

生光学園小学校

①美馬 昇

②昭和 22 年（1947 年）2 月 11 日

③徳島市応神町中原 38

④“己を滅して他に生きる、他が生かされる道は、我が生きる道なり” 光は外に求めるものでなく自己の中にあり、自らの心の中に光を見出したとき、他から光が与えられる。
・国際人を育てるイマージョン教育
・幼、小、中、高等学校の一貫した知力、感力、人間力の育成

徳島文理小学校

①村崎凡人

②昭和 58 年（1983 年）12 月 26 日

③徳島市山城町東浜傍示 68 - 10

④「自立協同」
・英語教育（開校以来週 2 時間）
・親子読書会（1～3 年）低中高の図書室での読書活動
・一味会（音楽発表、4 年英語劇）
・全校茶会・5、6 年遷都旅行

高知小学校

①川島源司

②昭和 32 年（1957 年）4 月 1 日

③高知市北端町 100

④「まごころをつらぬく子」をめざし
ひとりひとりを見つめた徹底した教
育を実施する。しつけ教育、品性の
陶冶を根底におき、一般的な学力を
高めると同時に算数・理科を基礎と
した科学教育、英語教育を重視する。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

福岡雙葉小学校

- ①ニコラ・バレ神父
- ②昭和 29 年（1954 年）4 月 8 日
- ③福岡市中央区御所ヶ谷 7 番 1 号
- ④ 1662 年ニコラ・バレ神父によって設立された、カトリックの幼きイエス会を母体としている。キリスト教精神による人間形成をめざし、世界的な視野のもと、グローバルシティズンを育てる女子教育を行っている。

福岡海星女子学院附属小学校

- ①マリアの宣教師フランシスコ修道会（キリスト教・カトリック）
- ②昭和 43 年（1968 年）4 月 1 日
- ③福岡市南区老司 5 丁目 29 番 2 号
- ④○教育目標
「愛をもって真理にむかう」あなた方は、地の塩、世の光である
○3つの教育理念
カトリック精神を基盤とする人間教育
豊かな個性を育む少数人数教育
国際性を培う国際教育・英語教育

明治学園小学校

- ①安川敬一郎
コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会に経営移管（昭和 24 年）
- ②明治 43 年（1910 年）9 月 5 日
- ③福岡県北九州市戸畑区仙町 5 - 1
- ④カトリックの一貫教育で「人々のために生きる人」を育てる。すべての教育活動は、子どもたちが自分に与えられた使命に気づき、自己実現をはかり、未来を切り拓いていく力を育てることを目指している。

鎮西敬愛学園敬愛小学校

- ①藤井玄瀛・岡橋角之助
- ②大正 14 年（1925 年）3 月 20 日
- ③福岡県北九州市門司区大里新町 11 番 7 号
- ④浄土真宗本願寺派の宗門校である。宗教精神とくに親鸞聖人のみ教えを根底に「心の教育」をめざし、敬愛の心を育て、あらゆる分野の教育活動を通じて、能力の発見と開発に努めている。

別府大学 明星小学校

- ①シスター・ソラリ・カルメラ、
西村駿一
- ②平成 10 年（1998 年）10 月 22 日
- ③大分県別府市野口原 3088 番地
- ④昭和 22 年にカトリックの教えを教育理念に開校。平成 10 年に学校法人別府大学に移管。「誠実な心、たゆまぬ努力」を校訓に知・徳・体の調和のとれた人間教育と創立以来、英語教育に力を入れている。

聖マリア学院小学校

- ①トマス・ピー・パーセル
- ②昭和 31 年（1956 年）4 月 1 日
- ③長崎市若草町 6－5
- ④原爆で廃墟と化した長崎で、カトリック精神に基づき、子供が人間として生きる礎を築くように導く男女共学校。週 2 時間の英語・国際交流、茶道など情操教育も重視し、優しく品性豊かな子どもを育てている。

長崎南山小学校

- ①ヒルバート・J・ウィゼン
- ②昭和 34 年（1959 年）4 月 1 日
- ③長崎市音無町 9 番 34 号
- ④学校に家庭的で活気に満ちた雰囲気を保ち、思いやりと犠牲心に富んだ円満な人格の陶冶に努める。「怠惰は悪である」を本分に、勤労を尊び、環境の整備と時代の要請に応える知恵と体力の増進を図る。

長崎精道小学校

- ①聖ホセマリア・エスクリバー
- ②昭和 53 年（1978 年）2 月 15 日
- ③長崎市三原 2 丁目 23－33
- ④カトリックの理念に基づき全人格的な教育を促し、本当の「しあわせ」を自他ともに享受できる女性の育成を目指します。学力養成や徳育の独自のカリキュラムによる小中一貫制、個人指導制が特徴です。

精道三川台小学校

- ①聖ホセマリア・エスクリバー
- ②昭和 56 年（1981 年）9 月 1 日
- ③長崎市三川町 1234 － 1
- ④「カトリックの教育理念に従って、全人格的な成長を促し、本当の幸せを知り、味わい、そして、周りの人々にその幸せを与えることのできる人間を育成する」・小中高 12 カ年一貫教育を実践する男子校内の小学校。

鹿児島三育小学校

- ①セブンスデー・アドベンチスト教団
- ②昭和 28 年（1953 年）4 月 13 日
- ③鹿児島市平之町 14 － 21
- ④聖書の示す愛を土台とし、神と隣人に対して十全な奉仕をするため、人間の備える身体、知性、霊性の全ての面を最大限に発達させ、円満な人間形成を実現すること、これが三育教育の目的であり使命である。

海星小学校

- ①ペトロ・ボン・エッセン師
（カプチン会司祭）
- ②昭和 39 年（1964 年）4 月 11 日
- ③沖縄県石垣市字大川 67 番地
- ④「天の父が完全であるようにあなた方も完全な者となりなさい」との聖書の言葉に基づき、豊かな知性・健康な体・正しい道徳的信念を育成し円満な人格を形成すべく日本最南端の地で教育活動に取り組んでいる。

沖縄カトリック小学校

- ①聖ドミニコ宣教修道女会
- ②昭和 63 年（1988 年）2 月 12 日
- ③沖縄県宜野湾市真栄原 3 丁目 16 番 1 号
- ④「人は、父なる神によって造られた兄弟姉妹である。」というカトリック的世界観に基づいて、神を敬愛し、隣人を愛する、優れた道徳心と高い知性を備えた自主自立の「人づくり」を目指します。

沖縄三育小学校

①セブンスデー・アドベンチスト教団

②昭和 28 年（1953 年）2 月 23 日

③沖縄県中頭郡北中城字荻道271番地の1

④聖書の示す愛を土台とし、神と隣人
に対して十全な奉仕をするため、人
間の備える身体、知性、霊性の全て
の面を最大限に発達させ、円満な人
間形成を実現すること、これが三育
教育の目的であり使命である。

①創立者 ②創立日 ③所在地 ④建学の精神・特色

V. 20 年のあゆみ（平成 4 年度～ 23 年度）

1. 年代別教育宣言

(1) 1970 年代の教育宣言

日本も世界も、激動してゆく 70 年代を迎えた。この年代は、画期的な人間尊重・教育革新の時代にせねばならない。

われわれは各学校の伝統と特色ある教育を生かしつつ、私学の本領を発揮し、協力体制を強化して、日本の私立小学校教育を純正に推進することを宣言する。

われらの決意

私立小学校に生きるわれらは、自校の建学の精神と児童愛に徹するとともに、その使命とする理想の教育を目ざし、かつ日本の小学校教育の発展充実のために、すすんで開拓者の労苦を分かちあおう。

われらの教育

私立小学校に生きるわれらは、国民の要請と信頼にこたえて、国家・社会を愛し、世界の平和と繁栄を求め、未来を切り開いていく国民の基礎的資質を育成しよう。

われらは、豊かな人間性と創造的な児童文化の開発をはかり、児童の個性を尊重し、能力の可能性を見つめながら、心身の鍛錬された美しさと価値を発揮する教育に努めよう。

われらの協力

私立小学校に生きるわれらは、私学人としての自覚に立って協力し教育実践についての研修を高め、常に自己を磨くのみでなく、広く国公立小学校との提携をも活発にして、日本の小学校教育の充実発展のための役割を果たそう。

昭和 45 年 8 月

日本私立小学校連合会

(2) 1980年代の教育宣言

21世紀の開幕を目前にして、今こそすぐれた人材を育成し、真に平和と幸福に満ちた世界の確立にそなえるべき80年代を迎えた。われわれは各学校の伝統と特色ある教育を生かしつつ、私学の本領を発揮し協力体制を強化して、日本の小学校教育を純正に推進することを宣言する。

われらの決意

私立小学校に生きるわれらは、自校の建学の精神と児童愛に徹するとともに、その使命とする理想の教育を目ざし、かつ日本の小学校教育の発展充実のためにすすんで開拓者となり、もろもろの労苦をわかしあおう。

われらの教育

私立小学校に生きるわれらは、国民の要請と信頼にこたえて、国家、社会を愛し、世界の平和と繁栄を求め、未来を切り開いていく国民の基礎的資質を育成しよう。

われらは、私学教育を力強く推進していくことによって、創造的な児童文化の開発をはかり、児童の個性を尊重し、児童の可能性をのばす方法を探求実践し、心身の鍛練された豊かな価値ある人間性を育成する教育に努めよう。

われらの協力

私立小学校に生きるわれらは、私学人としての自覚に立って協力し、教育実践についての研修を高め、常に自己を磨くのみでなく、すすんで国公立小学校との提携をも活発にして、日本の小学校教育の充実発展のために役割を果たそう。

1980年1月

日本私立小学校連合会

(3) 1990年代の教育宣言

21世紀の開幕を目前として、われらは新世紀を担ってたつ人材を育成し、真に平和と幸福に満ちた世界を確立するために備えてきた。われらは各学校の伝統と特色ある教育をさらに充実させ、私学間の協力体制を強化して、日本の小学校教育の新たな創造をめざすことを宣言する。

われらの決意

私立小学校に生きるわれらは、自校の建学の精神と児童愛に徹するとともに、その使命とする理想の教育をめざし、かつ日本の小学校教育の発展充実のために進んで開拓者となり、もろもろの労苦をわかちあおう。

われらの教育

私立小学校に生きるわれらは、国民の要請と信頼にこたえて、国家、社会を愛し、世界の平和と繁栄を求め、未来を切り開いていく国民の基礎的資質を育成しよう。

われらは、私学教育を力強く推進していくことによって、創造的な児童文化の開発をはかり、児童の個性を尊重し、児童の可能性をのばす方法を探求実践し、心身の鍛練された豊かな価値ある人間性を育成する教育に努めよう。

われらの協力

私立小学校に生きるわれらは、私学人としての自覚に立って協力し、教育実践についての研修を高め、常に自己を磨くのみでなく、さらに国公立小学校とも提携をして、日本の小学校教育の充実発展のための役割を果たそう。

1990年1月

日本私立小学校連合会

(4) 2000年代の教育宣言

われわれは、20世紀の日本の著しい社会的変化と科学技術の高度化が進展してきた時代の中で、建学の精神を堅守するとともに、小学校教育の先駆的な実践を世に問うてきた。

21世紀の開幕の当たり、われわれは国際化、情報化等の進む社会を見つめつつ、個人の自由と人権を尊び、真の世界平和と自然環境保全を願う人間を育成する。そのために、各学校における伝統を大切にしながら特色ある教育をさらに充実させ、私学間の協力体制を強化して、日本の新たな小学校教育の創造を目指すことを宣言する。

われわれの決意

私立小学校に生きるわれわれは、自校の建学の精神に徹して、その使命とする理想の教育を目指し、かつ日本の小学校教育の充実発展のために進んで担い手となり、もろもろの労苦を分かち合おう。

われわれの教育

私立小学校に生きるわれわれは、国民の要請と信頼に応えて、国家、社会を愛し、世界の平和と繁栄を求め、未来を切り開いていく国民の基礎的資質を育成しよう。

われわれは、私学教育を力強く推進していくことによって、創造的な児童文化の開発を図り、児童の個性を尊重し、その可能性を伸長する方法を実践探求し、心身の鍛練された豊かな人間性を育成する教育に努めよう。

われわれの協力

私立小学校に生きるわれわれは、私学人としての自覚に立って相互に協力し結束を強め、教育実践についての研究研修を重ねて、常に自己を磨き高め合おう。また、国公立小学校とも提携協力して、日本の小学校教育の充実発展のための役割を果たそう。

2001年1月

日本私立小学校連合会

(5) 2000 年代の教育宣言について

日本私立小学校連合会

会長 長谷川 良 昭

かつて、わが国が敗戦によって領土の三分の二を失い、海外の資産も没収され、経済界は混乱し、物質が欠乏していたとき、私学関係者の代表的立場にある方々が新憲法と教育基本法に基づいて、日本再建のための私学の使命と私学の教育に携わる者の職分、職責を真剣に討議、探求し倫理綱領を定めた。そして全体の合意を得て、普及・徹底を図り、誠意をもって実践することを、昭和 23 年 10 月 27 日の日本私学団体総連合会の総会で決議したことが記録として残っている。

その 20 余年後に、本連合会の全国幹部研修会が湯河原「万葉荘」で開催されたとき、「私学の協力体制をいかに確立するか」という問題について仁川学院の浜野茂先生が「日本私立小学校連合会教育綱領試案」を提案した。試案は、激動期を迎えた 1970 年代に日本の私立小学校が大同団結を図るため、一つの方向づけとして私立小学校の存在を明確にし、統一した綱領をもつ必要性を強調したもので七項目あった。この提案はこの研修会で満場一致の賛同が表明され、内容の検討を特別委員会（教育宣言草案作製委員会・人見委員長他 7 名）に付託された。

委員会は数回にわたって熱のこもった討議を重ね、「宣言の主体は、日小連加盟校の教師が教育の方向づけとして相互に確認し合う内容のものとして、日小連の名をもって自らに対し、また間接的に対外効果を考慮し、8 月 20 日西熱海ホテルで開催される研修会において宣言する」という基本構想で草案をまとめた。そして研修会の開会式で浜野会長が教育宣言制定の趣旨、人見常任理事が経過報告と読み上げを行って、満場拍手をもって採択された。これが本連合会の「1970 年代の教育宣言」である。

この年代を国際連合では「教育年」として、世界の各国も教育革新に力を入れていた。わが国でも中央教育審議会が教育制度の刷新を試みていた。その時を同じくして、本連合会がこの動きに呼応したというか、あるいは先駆けて私

学教育を天下に宣言したことにより、当時、私学教育の独自性の強調度如何によって、義務教育のもつ公共性と交錯し過ぎないかという面と、ともすれば貴重な私学教育の本質に関する誤解が生じやすかった面とが調整され、うっかりするとレールを外れがちな「私学教育の独自性」が何れの学校でも誤りなく運用されるようになり、全国の私立小学校に対する偏見が雲散霧消し、評価を高めたといわれている。

その後 10 年経って、1980 年代を迎えた。この年代の教育宣言について約半年ほどかけて検討し、三項目の中味は多分これから続く各年代にも通用するであろうと想定し、基本的に中味はそのままとした。ただ前文の最初の 21 世紀の開幕を目前にして……という文は、1980 年代もやがて 21 世紀を迎えるという能動的な意味もあったが、現在私立小学校に在学している児童たちによって 21 世紀の幕が開かれ、そして開拓していく当事者であるという意識をもたせ、それにふさわしい人材を育成しようという意味とそれは当然自分たち個人の平和と幸福につながるものであるが、さらに国家的な平和と幸福につながり、そして世界的なものになるまでつなげることが今後の教育に欠かせない大きな柱だてであろうと認識してその部分の改訂を行ったといわれている。

それから世界は戦後 40 年にわたって分断隔絶していたベルリンの壁が撤去され、民主化の波が高まり東西冷戦の構図が変わる激しい流れが起こり、政治的、経済的な力を強めた西ヨーロッパ諸国の EC 統合の動きも現実となった。世界は先行きの見えない、不透明、不確実な時代として 1990 年代を迎えた。

本連合会は、個々の努力で構築してきた私立学校をより充実し、その教育成果をより大きく振幅させる一つの方法として同志の士が相寄り相集まって自らの蒙を啓き、進路を確立して日本の小学校教育の新たな創造をめざす積極的な役割を果たそうと誓いを新たにしていたのが 1990 年代の教育宣言であった。これは平成 2 年の全国幹部研修会で採択された。他に 1990 年代には大きな動きがあった。それは科学技術の急速な進歩が著しく政治、経済、社会を変容させる力となっていたことである。

この科学技術の高度化により一層の情報化とグローバル化を進展させて、新たに IT 革命が加わることでさらに加速された一大変革の年代、2000 年代に

入った。

いつもわれわれ私立小学校仲間が合言葉として念頭に置いていた「新しい時代・21世紀」が遂にやってきた。これまで部分的改訂をしてきた教育宣言をこの機会に全面的に改めるかどうか、という意見が常任理事会で交わされた。このことを討議する特別委員会が設置された。委員会は一年ほどかけて討議を行い、「われら」を「われわれ」と改め、私立小学校全体ということを強調した。次に中味の三項目は、1970年代の先輩たちの私学教育に対する自負と熱い思いを伝え残そうという意見を尊重して、また対象である児童が人間形成の基礎をつくる大切な時期の教育の基本的な理念であるから前文との関連で修正するのにとどめた。そこで前文では、20世紀に果たしてきた私立小学校の先駆的な実践と実績を踏まえ、今、21世紀の初頭に人類が総力をあげて解決していかなければならない地球環境、エネルギー、食糧問題などを一括りして自然環境保全として、世界中の人々が緊密に結び合った運命共同体の一員としての人間を育成することを加えて常任理事会に報告し、承認されて、広島为全国幹部研修会に武田副会長が提案・説明、賛同を得たのが2000年代の教育宣言である。

さて、わが国はこれまで一貫して成長、発展を続けてきた経済が停滞し、社会の様々な分野にシステムの見直しと改革、特に教育に寄せる関心は極めて大きくなった。

このような状況の中で、本連合会は確固とした展望をもって出発しなければならないと思う。これまで私学の先輩たちがつくってきた教育の成果を踏まえ、新しい時代に適合し、先駆的な改革を積極的かつ果敢に進めていくことを期待したい。

(日私小連『会報』平成13年(2001年)3月15日発行より) 転載

(6) 日私小連「2010年代の教育宣言」作成主旨

「2010年代の教育宣言」作成（改訂）委員会

委員長 清水 良 一

「2010年代の教育宣言」は、諸先輩の私学教育に対する自負と熱い思いをもって起草されたこれまでの「教育宣言」の理念を、感謝をもって受け継ぐものであります。このため、本「教育宣言」の作成主旨をお伝えするにあたりまして、いささか長くなりますが、これまでに作成された4つの「教育宣言」の作成経緯や内容についても触れさせていただきます。

参照及び引用：『會報』日本私立小学校連合会 76号、長谷川良昭元日本私立小学校連合会会長「2000年代の教育宣言について」『会報』239号

1. 1970年代、1980年代、1990年代、2000年代の教育宣言について

(1) 1970年代の教育宣言

戦後、日本私学団体総連合会は、日本再建のための私学の使命と私学教育に携わる者の職分・職責について討議して、「倫理綱領」を定め、普及・徹底を図り誠意をもって実践していくことを昭和23年の総会において決議しました。

その20余年後、昭和45年1月、湯河原における日私小連幹部研修会において西日本地区より浜野茂副会長が、激動期を迎えた1970年代に日本の私立小学校が団結を図るため、その存在を明確にすると共に統一した綱領を持つ必要性を強調し、「私学の協力体制—教育綱領—」について提案されました。提案は満場一致で賛同が表明され、内容の検討は「教育宣言草案作製委員会」（人見委員長他7名）に付託されました。

委員会は草案を「宣言の主体は、日小連加盟校の教師が、教育の方向づけとして相互に確認し合う内容のものとして、日小連の名をもって自らに対し、また間接的には対外効果を考慮し、8月西熱海における全国研修会において宣言するものとする」という基本構想をもってまとめ、8月20日の開会式で「1970年代の日小連教育宣言」として満場の拍手をもって採択されました。

こうして採択された、日本私立小学校連合会の最初の「教育宣言」は、「前文」と「われらの決意、われらの教育、われらの協力」という「3 項目の中味」をもって構成され、70 年代を画期的な人間尊重・教育革新の時代にすべく、各学校の伝統と特色ある教育を生かしつつ、私学の本領を発揮し、協力体制を強化していくことを宣言しました。「自校の建学の精神と児童愛に徹する」、「理想の教育を目ざし」、「すすんで開拓者の労苦を分かちあおう」、「未来を切り開いていく国民の基礎的資質を育成」、「豊かな人間性と創造的な児童文化の開発」、「個性を尊重」、「私学人としての自覚に立って協力し教育実践についての研修を高め」、「常に自己を磨く」、等のキーワードが盛り込まれています。

この年代は、国際連合が「教育年」と位置付け、各国でも教育革新に力を入れていったところですが、わが国でも中央教育審議会が教育制度の刷新を試みていきました。

この時にあって、本連合会が「私学教育を天下に宣言したことにより、当時、私学教育の独自性の協調度如何によって、義務教育のもつ公共性と交錯し過ぎないか」という面と、ともすれば貴重な私学教育の本質に関する誤解が生じやすかった面とが調整され、うっかりするとレールを外れがちな『私学教育の独自性』が何れの学校でも誤りなく運用されるようになり、全国の私立小学校に対する偏見が雲散霧消し、評価を高めた」と言われています。

(2) 1980 年代の教育宣言

その後 10 年経ち、1980 年代を迎えました。「1970 年代の教育宣言」の「3 項目の中味は多分これから続く各年代にも通用するであろうと想定し、基本的に中味はそのまま」としました。

向後を見通すにおいては、21 世紀を 20 年後に迎えるにあたり、「前文」は「21 世紀の開幕を目前にして、今こそすぐれた人材を育成し、真に平和と幸福に満ちた世界の確立にそなえるべき 80 年代を迎えた」としました。21 世紀当初の担い手となり当事者となるのは、在学している児童であるので、そうなれる人材を育て上げたいという意気込みを鮮明に打ち出しました。

(3) 1990 年代の教育宣言

その後、ベルリンの壁の撤去にはじまる民主化の動き、E C 統合の動きなど世界は先行きの見えないといわれる不透明、不確実の 1990 年代を迎えました。

「前文」においては、この 10 年間の歩みを振り返り、「21 世紀の開幕を目前にして、われらは新世紀を担ってたつ人材を育成し、真に平和と幸福に満ちた世界を確立するために備えてきた」とし、21 世紀当初の担い手育成に向けた教育活動が総体として行われてきたことを記します。

そして、「本連合会は、個々の努力で構築してきた私立学校をより充実し、その教育成果をより大きく振幅させる 1 つの方法として同志の士が相寄り相集まって自らの蒙を啓き、進路を確立して日本の小学校教育の新たな創造をめざす積極的な役割を果たそうと誓いを新たにしたのが 1990 年代の教育宣言」でありました。

(4) 2000 年代の教育宣言

1990 年代は、科学技術の急速な進歩が政治、経済、社会を大きく変容させる力となっていきました。そして、科学技術の高度化により、情報化とグローバル化を一層進展させ、I T 革命が新たに加わることでさらに加速された一大変革の年代、2000 年代となりました。

「2000 年代の教育宣言」では、「20 世紀に果たしてきた私立小学校の先駆的实践と実績を踏まえ」、真の平和と運命共同体の一員として人類が総力をあげ解決していかなければならない地球環境、エネルギー、食料問題などの自然環境保全を願う人間を育成したい、としました。

理事会では、21 世紀を迎えたこの機会に、これまで部分的改訂をしてきた「教育宣言」を全面的に改めるかどうかという意見がかわされました。その検討を委ねるために設置された特別委員会では討議の結果、『われら』を『われわれ』と改め、私立小学校全体ということを強調しました。「中味の 3 項目」については、「1970 年代の先輩たちの私学教育に対する自負と熱い思いを伝え残そう」という意見を尊重して、またその対象である児童が人間形成の基礎をつくる大切な時期の教育の基本的な理念であるから前文との関連で修正するにとどめた」とのことです。

2. 「2010年代の教育宣言」について

(1) 作成経緯、基本姿勢、形式

本「教育宣言」は、次の段取りをもって作成（改訂）されました。平成 21 年 10 月の理事会において、「①従来の 10 年ごとの見直しに基づき、『2010 年代の教育宣言』を作成する ②作成（改訂）委員会を設置し、平成 22 年 1 月の日私小連正副会長会議において中間報告をする ③平成 22 年 6 月の日私小連総会において協議決定する ④平成 22 年 8 月の全国教員夏季研修会開会式において周知する」という段取りが確認され、総務・研修・広報担当理事から清水良一副会長を委員長とする理事 5 名をもって作成（改訂）委員会が組織されました。

委員会では、作成の基本姿勢は次の諸点にあるとしました。すなわち、①諸先輩が築かれ、連綿として受け継いでこられたこれまでの「教育宣言」の理念を私たちも全面的に受け継ぐこと ②日私小連加盟校の教職員が教育の方向性として互いに確認し合える内容であること ③日私小連の名をもって自らに対し、また間接的には対外効果も含め社会に発信できる宣言であること—などを基底において作成にあたりました。また、これまでの「教育宣言」において「小学校教育」としておられたところを「初等教育」としました。これは、その専門性や幅の広さやその先に続く「中等教育」をも視野に入れた捉えかたをより鮮明にしています。また、これまで「われわれ」としてきた言い方を「私たち」と平易にし、話し手を含めて、聞き手・受け取り手の全てをも巻き込むことばにしました。

「教育宣言」の形式については、従来の「前文」と、「中味の 3 項目」という形式を踏襲する方向でございました。ただし、「中味の 3 項目」におけるこれまでの「決意、教育、協力」というその順番については、「教育、決意、協力」の順にしたらどうかという議論の余地を残しておりました。

その後の日私小連正副会長会議における中間報告におきましては、「これまでの教育宣言において、基本的に『3 項目の内容』は『前文』に皆盛りられているといえる。時代状況の中で必要性があってその形式をとってこられたが、今回は、『前文』においてすべて『盛り尽す』という宣言形式にしたらどうか」という示唆をいただきました。

委員会で検討の結果、いただいた示唆通り、「前文においてすべて盛り尽す」とし、「3項目」を付帯しない形式とする「教育宣言」案を作成することにしました。そして、「基本姿勢」に基づいて作成した「2010年代の教育宣言」案は、理事会での審議を経て、6月11日の日本私立小学校連合会総会において「2010年代の教育宣言」として協議決定されました。続いて8月17日、新横浜プリンスホテルを会場とした第54回全国教員夏季研修会開会式において、平野吉三会長に主旨をご説明いただき、970名余の参加者と加盟校全てに向けて高らかに宣言していただきました（「教育宣言」は当研修会の要項にも印刷されました）。

(2) 内容

「教育宣言」の本文は「前段」「中段」「後段」の3段落から成り、先に記したように「1970年代の教育宣言」に始まる諸「教育宣言」の理念を引き継ぐものであります。

「前段」では、「2000年代の教育宣言」が「著しい社会的変化と科学技術の高度化が進展してきた時代」における「国際化、情報化等の進む社会」と位置付けた時代状況の中で、私たち私立小学校は、如何なる姿勢をもって歩んできたかを以下のような深い思いをもって記します。世の中がいくら変わろうとも、先行きが見えなかりょうとも、私たち私立小学校は、いささかも揺らぐことなく、ぶれることなく、変えてはならないものは「堅守」し、各校がその使命とする根幹的存在理由とする理想の極みに向かい、先駆的な教育活動を展開し続けてきた。それは、私たち私立小学校が誇りとするところである、と。

この様に確固たる歩みを続けてきた私たちが、今や、一連托生の地球市民として迎えたのは、地球規模で激動し、激しく変動するであろう2010年代であることを「前段」冒頭において自らにも告げます。加えて、これまでの時空を超えた、全地球的な視野の広さと思慮を持ち合わせることがさらに必要になってきたことが深層に暗示されると共に、社会状況はたとえ揺れ動き変わろうとも、内核においてはぶれず動じない矜持が私たち私立小学校には存し続けることが謳われています。

「中段」においては、「前段」を受け、私立小学校は教育を担う上では、どこ

に立ち位置をとり、いかなる教育哲学をもって教育の任に当たりたいかを宣言します。それは、「知識基盤社会」と「心」ということばに象徴されています。すなわち、私たちは、義務教育の重要な初等教育段階を担うにあたっては、これからの社会を「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す社会である」と定義する「知識基盤社会」（「我が国の高等教育の将来像」『中央教育審議会答申』平成 17 年）をステージとすることになります。併せて、知・情・意などのそれぞれの働きをもって、立場や生き方の違いを超えて、思いや考えを如何に通わせ合い、人間たる所以の関係や結びつきをもてるかが問われる「心」の時代に私たちは在ることを確認します。

この様な立ち位置において、私たち私立小学校は、いわば心身の鍛錬された開拓者の心意気をもって、大地に根を張り、いかなる道をも地球規模で切り拓いていける「基礎的資質」と「心豊かな人間性」、併せて地球市民としての造りと構えをもって考え、「共感する力」を身につけた児童を育て上げようとしています。それを可能ならしめるのは、自由や個性等を尊きものとし、児童愛をもって子どもたちの可能性を引き出すという、まさに「教育」の本義たる方法をもって実践・探究し続ける教職員の存在を欠くことはできません。私たち、私立の小学校はこれらの課題をこれからも粘り強くやり遂げます、と宣言しています。

「後段」においては、これまで宣言した私立小学校の 2010 年代の教育を成し遂げるために、どのような教育活動をして行こうとするのかを、①各校それぞれが、伝統と特色ある教育をさらに充実させること ②私学人としての自覚に立つこと ③お互いに胸襟を開き、協力結束し磨き合うこと ④わが国初等教育の新たな創造を目指すこと一であるとして、端的に力強く宣言します。

最後になりますが、この「教育宣言」が加盟校各位のご理解とご協力をいただき、私立小学校連合会の目的とする、「強力な提携によって、その自主性と公共性を発揮し、私立小学校の充実向上を図ること」（会則第 3 条）に寄与することを願わさせていただきます。

（日私小連『会報』平成 22 年 10 月 15 日発行より）転載

2. 日私小連の主な活動

年	月日	主 な 活 動 事 項
平成四 (一九九二) 年	1.23	日私小連結成 50 周年記念式典並びに祝賀会開催
	2.21	育児休業法について協議
	3.30	日本ユニセフ協会評議員の会員加入について協議
	6.18	全私学振興大会開催（自由民主党会館 8 F ホール） 来賓 218 名、私学側 750 名出席
	8. 1	文部省主催初任者洋上研修、日私小連加盟校より 3 名派遣（10 泊 11 日）
	8.21	平成 5 年度からの日私小連会費値上げ案を協議
	9. 7	NHK へ放送受信料免除措置の継続についての要望書を提出
	9.10	私立学校の情報教育施設、校舎の建て替えの改造に関する調査結果の報告
	12.10	全私学振興大会開催（自由民主党会館 8 F ホール） 来賓 184 名、私学側 700 名出席
平成五 (一九九三) 年	2.23	第 6 回海外教育事情研修に事務局職員の参加を協議 学校週 5 日制について協議
	5.15	私立義務教育の再構築について協議
	6.15	父母の会全国組織の結成にともなう関係団体との交渉、経過報告を了承
	8.19	連立与党内閣と各政党の教育政策、公約を分析し、今後の私学振興について協議
	9.10	私立学校における学校週 5 日制の実施状況について文部省へ報告
	12. 1	日私中高連・日私小連・全国私学父母の会合同全国大会開催（赤坂プリンス）
	12	平成 6 年度私立高等学校等経常費助成費補助等に関する要望活動
平成六 (一九九四) 年	1.20	兵庫県南部地震による加盟校の被災状況の報告と本連合会の対応について協議
	1.28	平成 6 年度税制改正と政府予算編成動向の報告と対策を協議
	2.16	兵庫県南部地震及び三陸はるか沖地震の被災状況と義援金の金額と配分方法を協議 私立学校教職員共済組合と日本私学振興財団の統合問題を報告、協議
	2.22	第 7 回海外教育事情研修の旅の計画（案）を協議
	2.22	石垣島公立小学校問題を報告、対応を協議
	3.23	旅費規定の改定について協議
	9.20	私立学校教員の雇用保険加入状況等実態調査結果の報告 私立小学校における外国語教育の状況調査依頼（文部省）について協議
	10.14	平成 7 年度政府予算対策と税制改正要望について協議

年	月 日	主 な 活 動 事 項
	11.24 12.12	平成 6 年度全国幹部研修会参加状況の報告と開催地役員 OB の参加を了承 学校教育法施行規則の一部改正について報告（月 2 回学校週 5 日制の実施） 私学振興全国大会を開催し政府与党に対して、平成 7 年度私立高等学校等 経常費助成費補助金等に関する要望活動を実施
平成七 （一九九五） 年	2.23 3.28 7.14 9.22 10.23 12.14	研究部会 OB の全国教員夏季研修会への参加について協議 全国私立中学校長会・第 4 回義務教育検討委員会と今後の対応について協議 私立義務教育問題等に関するアンケート実施について協議 私学振興の基盤に関する検討委員会（仮称）の構成と検討に当たっての基 本方針と具体的方策について報告 平成 8 年度私立学校関係政府予算概算要求額と税制要望について協議 中教審第一小委員会の要請に応じて、学校週 5 日制について人見会長が意 見書を提出し意見を述べる 私学振興全国大会を開催し政府与党に対して、平成 8 年度私立高等学校等 経常費助成費補助金等に関する要望活動を実施 私立学校振興助成法制定 20 周年記念感謝の集い（赤坂プリンス） 日私中高連・日私小連・全国私立小・中・高父母の会連絡協議会主催、 957 名参加
平成八 （一九九六） 年	2.22 3.15 3.27 6. 1 6.24 6.27 10.21 12. 5 12.10	全国私立中学校長会・日本私立小学校連合会、平成 7 年度緊急総会の開催 と今後の対応について協議 行政改革の一環として特殊法人の見直し、整理統合の政府方針に基づき、 私学振興基盤整備と私立学校教職員共済組合と日本私学振興財団との統合 問題を全私学連合として検討してきた結果をまとめて答申 第 8 回海外教育事情研修の旅について協議 阪神淡路大震災、三陸はるか沖地震の対応を協議 行政改革の基本方向について協議 中教審の要請に応じて、「21 世紀を展望した我が国の教育の在り方につい て」のまとめに対する日私小連としての意見書を有馬朗人会長宛に提出 全私中学校長会理事会・義務教育検討委員会の合同会議の報告と今後の対 応について協議 日比谷公会堂において私学振興全国大会を共催し、平成 9 年度私立高等学 校等経常費助成費補助金等に関する要望活動を実施 平成 9 年度政府予算、税制改正要望の状況報告と予算編成期間中の対策運 動について協議

年	月日	主 な 活 動 事 項
平成九 (一九九七) 年	1.10	地方分権推進委員会第一次勧告(案)に対する意見について協議
	1.20	教育課程審議会からの要請に応じて「今後の教育課程の在り方について」日私小連としての意見書を三浦朱門会長宛に提出
	2. 2	「学校法人の認可等」についての要望書を地方分権委員会・諸井委員長宛に日私小連会長と中高連会長の連名で提出
	4.15	私学振興の基盤整備に関する諸問題について協議
	6.22	政府与党・文部会、文教制度調査会の教育改革推進会議教育行政改革ワーキングチームの設置報告とその対応について協議
	7.11	地方分権推進委員会第2次勧告案の報告とその対応について協議
	10.20	平成10年度政府予算対策活動と税制改正要望について協議
	12. 9	私学振興全国大会を中高連と全国父母の会連絡協議会と共催で日比谷公会堂において開催
平成十 (一九九八) 年	12.11	中教審の要請に応じて「今後の地方教育行政の在り方」についての意見書を中高連と連名で提出
	1.20	教育課程審議会の要請に応じて「教育課程の基準の改善の基本方向について」の意見書を提出
	3.25	私学研修福祉会、私学教職員研修基金に対する拠出について協議 私立学校の教職員等の雇用保険の適用について協議
	5.12	中教審「新しい時代を拓く心を育てるために～次世代を育てる心を失う危険～」への意見提出について協議
	6.19	財団法人私学研修福祉会「研修事業の自己財源の確保について協力依頼」の対応について協議
	7. 6	教育課程審議会「教育課程の基準の改善について」の対応を協議 義務教育諸学校等におけるNHK放送受信料免除措置について対応を協議
	9.24	私立小・中・高等学校におけるインターネット接続に係わる通信料金等についての対応を協議
	10.29	私立学校における非常勤教員に係わる労働保険の適用について協議
	12.10	私学振興全国大会を中高連と全国父母の会連絡協議会と共催で日比谷公会堂において開催
	12.15	平成11年度政府関係私学予算対策について協議 日私小連視聴覚部会からのホームページ開設願いについて協議

年	月日	主 な 活 動 事 項
平成十一 (一九九九) 年	2.23	日本私立学校振興・共済事業団第二湯島会館（仮称）建設促進の要望について協議
	3.16	財団法人私学研修福祉会研修事業への資金協力について協議
	5.29	第六代 長谷川良昭会長選任
	6.18	財団法人私学研修福祉会「研修事業財源の確保」について協議
	7. 1	生涯学習審議会「学習の成果を幅広く生かす」の対応を協議 コンピュータ西暦 2000 年問題の対応について協議
	9.10	私立小学校問題検討委員会について協議
	10.12	平成 12 年度税制改正要望と政府予算対策について協議
	11.22	中教審の要請に応じて「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（中間報告）に対して意見書を提出
	12.10	私学振興全国大会を中高連と全国父母の会連絡協議会と共催で日比谷公会堂において開催 自民党、文教制度調査会の要請に応じて、東京都文京区で発生した幼児殺害事件を受けて幼児の受験戦争の実態について、長谷川会長が本会としての意見陳述
平成十二 (二〇〇〇) 年	2.28	2000 年代日私小連教育宣言について協議
	3.12	教育課程審議会の要請に応じて「児童生徒の学習の評価の在り方等について」意見書を提出
	6.20	自民党文教部会・私学振興プロジェクトチーム「21 世紀のわが国を託する私学の振興方策等について」中間報告を了承
	9.20	一日教育改革国民会議（公聴会）の対応について協議 公的年金一元化懇談会について対応を協議
	10.19	教育改革国民会議（中間報告）～教育を変える 17 の提案～についての報告を協議
	11. 1	教育課程審議会の要請に応じて「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」（中間まとめ）意見書を提出
	11.17	中央教育審議会「21 世紀の特殊教育の在り方について」（中間報告）の書面ヒアリングの対応を協議
	12. 4	平成 13 年度政府関係私学予算対策について協議
	12. 8	私学振興全国大会を中高連と全国父母の会連絡協議会と共催で日比谷公会堂において開催

年	月日	主 な 活 動 事 項
平成十三 (二〇〇一) 年	1.11	私学助成専門部会・法令等検討委員会の対応について協議
	2.19	21 世紀教育新生プランについて協議
	3.12	「教育振興基本計画」策定への提言について協議
	7. 9	東北地区から提言された、幹部研修会担当の辞退問題について協議
		私立学校教員の雇用保険問題について協議
	9.18	特殊法人等の廃止又は民営化に関する各府省の報告を協議
	9.19	文部科学省の要請に応じて「小・中学校の設置基準の策定に係る」意見書を提出
	11.20	平成 14 年度税制改正と政府関係私学予算対策について協議
平成十四 (二〇〇二) 年	12. 5	私学振興全国大会を中高連と全国父母の会連絡協議会と共催で日比谷公会堂において開催
	1.24	中央教育審議会の要請に応じて「今後の教員免許制度の在り方について」(中間報告) 意見書を提出
	2.19	「私学教育振興基本問題検討委員会」設置について協議
	3. 1	文部科学省の要請に応じて「子ども読書活動推進基本計画」に関する意見書を提出
	3. 5	中央教育審議会会長へ「教育振興基本計画の策定」並びに「新しい時代にふさわしい教育基本法の在り方」に関する今後の審議に当たっての要請書を全私学連合として提出
	3.15	小学校設置基準と中学校設置基準の制定等についてのパブリックコメントの対応について協議
	5.18	第 8 代 平野吉三会長選任
	11.25	教育基本法と教育振興基本計画の在り方について(中間報告) 協議
	12. 3	私学振興全国大会を中高連と全国父母の会連絡協議会と共催で日比谷公会堂において開催
	12.16	平成 15 年度政府予算対策について(予算対策本部設営) 及び明日の私学を考える会との懇談会の開催について協議
	1.24	構造改革特区の第二次提案について(株式会社参入) 協議
	2.27	私立学校 10 年経験者研修会について協議

年	月日	主 な 活 動 事 項
平成十五 (二〇〇三) 年	2	文部科学大臣等へ株式会社教育分野への参入問題について、日私小連・中高連・全日私幼連の三者連名で意見書を提出
	3.14	中教審の最終答申案（教育基本法と教育振興基本計画の在り方について）協議
	5.13	総合規制改革会議アクション・プランについて協議
	8.19	初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について（中間まとめ）協議
	9.12	学校法人制度改善検討委員会の要請に応じ「学校法人制度の改善方策について（中間報告）」意見書を提出
	11.20	平成 16 年度政府予算対策について（予算対策本部設営）及び私学振興全国大会開催について協議
	11.25	私学振興全国大会を中高連と全国父母の会連絡協議会と共催で日比谷公会堂において開催
平成十六 (二〇〇四) 年	1.22	中教審の要請に応じて「今後の学校の管理運営の在り方について」意見書を提出
	1.29	私立学校法改正の概要について協議
	3.15	児童虐待防止対策協議会への入会について協議 中教審における学習指導要領の不断の見直しの一層の推進について協議
	4.23	全私学新聞「全国私立小学校ガイドテーブル」について協議
	9.14	中教審の教育制度分科会地方行政部会における意見書提出について協議
	9.22	日比谷公会堂において「私立高等学校等に対する国庫補助制度の堅持を求める緊急全国大会」を日私小連・中高連・全日私幼連合同で開催 全都道府県の私学関係者及び父母 約 2,300 名参加
	11. 5	日本武道館において「私立高等学校等に対する国庫補助制度の堅持を求める緊急全国大会」～子どもたちの学びと未来のために～を日私小連・中高連・全日私幼連合同で開催 本年度は「三位一体の改革」が進められる中で、私立学校に対する国庫補助制度の廃止が検討されているために、緊急に私学振興全国大会を 2 回実施した。 全都道府県の私学関係者及び父母 約 10,000 名参加
	11.25	政府・与党の三位一体の改革に関する基本的枠組みについて協議

年	月日	主 な 活 動 事 項
平成十七 (二〇〇五) 年	2.16	文部科学省生涯学習政策局のスクールミーティングの実施について協議
	3.14	構造改革特別区域法の一部を改正する法律案の概要について協議
	6. 3	中教審の要請に応じて、「今後の教員養成・免許制度の在り方について」協議
	9.27	不登校生徒を対象とした学校に係わる教育課程の特例について協議
	10.17	中教審義務教育特別部会の関係団体ヒアリングについて協議
	10.31	平成 18 年度私学関係政府予算対策と私学振興全国大会について協議 私学振興全国大会を中高連と全国父母の会連絡協議会と共催で日比谷公会堂において開催
	12. 5	文部科学大臣へ「年金制度の一元化について」全私学連合として意見書を提出
	12.13	「日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会」誕生 私学助成運動や青少年健全育成など、私立学校振興には全国の私学の保護者の組織は必要不可欠であり、各都道府県私立小学校・中学校・高等学校の保護者会の全国組織として結成する。
	12.15	政府与党の三位一体の改革について協議
平成十八 (二〇〇六) 年	1.10	中教審の要請に応じて「今後の教員養成・免許制度の在り方について」（中間報告）意見書を提出
	2.17	日本私立小学校中学校高等学校保護者会連合会設立総会について協議
	4. 5	「義務教育諸学校における学校評価ガイドライン」の策定について協議
	4. 7	文科省の「全国的な学力調査の具体的な実施方法等に関する中間まとめ」に対する意見書提出
	4.17	国民生活審議会個人情報保護部会の要請に応じて「子どもの名簿の取り扱い等に関する」意見書提出
	6.22	子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画の改定に係わる書面ヒアリングについて協議
	9.19	「教員免許状更新制の導入に関する検討会議」の設置について協議
	11.27	私学振興全国大会を日私小連・中高連・日私学保連と共催で日比谷公会堂において開催
	12.15	平成 19 年度私立学校政府予算対策運動について協議
	12.22	新「教育基本法」公布・施行

年	月日	主 な 活 動 事 項
平成十九 (二〇〇七) 年	1.11	平成 19 年度全国学力・学習状況調査における予備調査について協議
	4.16	教育再生三法の概要について協議
		①学校教育法 義務教育の目標の新設、各学校種の目的・目標の見直し、副校長等の新たな職設置等
		②教育職員免許法及び教育公務員特例法 教員免許更新制の導入、指導が不適切な教員の人事管理の厳格化等
		③地方教育行政の組織及び運営に関する法律 教育委員会の責任体制の明確化や体制の充実、地方分権の推進、国の責任の果たし方、私立学校に関する教育行政等
	10.15	平成 20 年度私学関係政府予算及び税制改正に関する要望について協議
	10.26	文科省の要請に応じて「教員免許更新制の運用についての検討経過（案）」に関する意見書提出
	11.19	中教審教育振興計画特別部会における意見陳述について協議
	11.29	中教審教育課程部会の要請に応じて「これまでの審議のまとめについて」本会を代表して平野会長と園田副会長が意見陳述
	12.11	私学振興全国大会を日私小連・中高連・日私学保連と共催で日比谷公会堂において開催
	12.17	平成 20 年度政府予算編成の動向と今後の対応について協議
平成二十 (二〇〇八) 年	1.10	私立学校教員に対応した教員免許更新講習会の在り方について、日本私学教育研究所と協議
	2.18	教員免許更新講習会企画運営委員会発足について協議
	5.30	『学習指導要領』の改訂に伴う移行措置に関する意見書について協議
	6.16	地球温暖化対策の一層の協力依頼について協議
	7. 1	「教育振興基本計画」閣議決定
	8.27	「教員免許状更新講習の受講免除者の認定申請」に関する意見陳述 私立学校における校長・副校長・教頭・主幹教諭・指導教諭の取り扱いについて、文科省担当者との話し合いを実施。
	10.21	平成 21 年度私立学校関係政府予算と税制改正に関する要望について協議
	11.21	日私小連結 70 周年記念事業について協議
	12. 4	私学振興全国大会を日私小連・中高連・日私学保連と共催で日比谷公会堂において開催
	12.12	平成 21 年度政府予算対策運動について協議

年	月日	主 な 活 動 事 項
平成二十一年（二〇〇九）年	1.15	全私学新聞企画の「全国私立小学校入学ガイドテーブル」について協議
	3.13	地区研修会に対する研修・研究費（補助金）増額について協議 九州と東北地区は日私小連からの補助金を15万円増額し、30万円にすることに決定
	7. 3	中教審の要請に応じて「児童生徒の学習評価の在り方に関する」意見及び要望書提出
	9.16	民主党新政権誕生
	9.18	今後における私学振興の在り方について協議～新政権発足に伴う～ 新政府与党関係者に対する対策活動として、全私学連合は「PR 冊子」を作成し、私立学校が果たしている役割についての理解と協力を求める活動を進めていくこととなった。
	9.25	中教審の要請に応じて「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方」に関する意見及び要望書提出
	10.13	川端達夫文部科学大臣等、表敬訪問と懇談 全私学連合の各団体の会長と事務局長は、文部科学大臣他政務三役を表敬訪問し、私立学校が果たしている役割等について懇談し、理解と協力を求めた。 面会者：川端達夫文部科学大臣、中川正春・鈴木 寛副大臣、後藤 斎・高井美穂大臣政務官
	10.23	「2010 年代教育宣言」作成（改訂）委員会を発足させ協議を開始
	11.10	私立学校関係政府予算と税制改正等における懇談会 全私学連合は、私学会館において文部政務三役と懇談会を開催し、平成22年度私学関係政府予算と税制改正等についての要望を行った。 文部科学省関係出席者：高井大臣政務官・河村私学部長・村田私学行政課長・小山私学助成課長
	11.24	日私小連「結成 70 周年事業」実行委員会を発足させ企画運営について準備を開始
	12. 1	私学振興全国大会を日私小連・中高連・日私学保連と共催で日比谷公会堂において開催
	3	文科省・教員免許企画室の要請で「教員の資質向上について」意見書提出
	3.12	文科省の要請で「全国学力・学習状況の在り方等」に関する提案等について協議

年	月日	主 な 活 動 事 項
平成二十二年(二〇一〇)年	6.11	「2010年代の教育宣言」承認(日私小連総会) 平成22年度から東北地区の名称を「北海道・東北地区」に名称変更することを承認 学校評価ガイドライン(平成22年度改訂)に対する意見提出について協議
	7.16	日私小連の事務局を私学会館別館5Fから6Fへ移転することを決定
	7.29	平成23年度私立学校関係政府予算に関する要望と懇談 全私学連合は、高井美穂大臣政務官を訪問し予算要望を行った
	10.14	第二次菅内閣発足に伴い、文部科学大臣等表敬訪問と懇談 全私学連合の各団体の会長と事務局長は、文部科学大臣他政務三役を表敬訪問し、平成23年度私立学校関係政府予算に関する要望を行った。 面会者：高木義明文部科学大臣、笹木竜三・鈴木 寛副大臣、笠 浩文・林 久美子大臣政務官
	10.27	文科省からの要請で「障害者の権利に関する条約の理念を踏まえた特別支援教育の在り方に関するヒアリング」に清水副会長が出席し日私小連としての意見陳述
	12. 7	私学振興全国大会を日私小連・中高連・日私学保連と共催で日比谷公会堂において開催
	12.13	事務局移転 日本私立小学校連合会と日本私立中学高等学校連合会は、昭和58年1月10日に取り交わした「念書」を無効とすることに合意し、平成22年12月に本会が使用権を有する私学会館別館6Fへ移転した。
	3.11	東日本大震災発生 三陸沖を震源とするマグニチュード9.0の観測史上最大級の地震と津波が発生し、東北から関東地方にかけて未曾有の大災害と東京電力福島第一原発事故による災害をもたらした。 本連合会は、全私学連合や文部科学省とも連携を取りながら情報収集に努め、3月18日の常任理事会において、被災地を除く加盟校に対して義援
	3.14	金の協力をお願いし、被災校を支援していくことを決定した。
	3.18	北海道・東北地区の加盟校へ電話による安否確認
	3.24	東日本大震災における被害状況と対応策について協議 政府与党・自民党災害対策関係者へ、全私学連合として私立学校の被災校に対する復興・支援について要望書を提出

年	月日	主 な 活 動 事 項
平成二十三年(二〇一一)年	3.25	加盟校へ被災学校に対する義援金の協力依頼 東日本大震災における被災校に対して「災害状況報告書」提出依頼
	3.29	全私学連合の緊急拡大会長会議を開催し、被災地に対する今後の対応策を協議
	3.31	全私学連合の臼井代表は、西岡参議院議長を訪問し私立学校の被災校に対する復興・支援について要望書を提出
	4. 6	政府与党に対して「東日本大震災における私立学校の復旧・復興に係る要望書」を提出（全私学連合）
	4.12	政府与党 私学振興推進議員連盟へ「東日本大震災による私立小学校の被害状況の概要と要望書を提出（全私学連合）
	4.22	東日本大震災における加盟校の被害状況と復旧・復興支援について協議
	5.17	東日本大震災における加盟校の被害状況と義援金の配分について協議
	5.25	文部科学省・原子力損害賠償対策室へ、福島県の私立小学校の原子力損害の現状について報告
	6.10	日私小連総会において義援金と日私小連からの災害見舞金は、激甚災害指定地域にある被災校に対して物的被害状況に応じて配分することに決定 第九代 清水良一会長選任
	7.15	平成 24 年度私学関係政府予算要望項目について協議
	9.13	中川正春文部科学大臣へ日私小連結成 70 周年記念式典の後援名義使用承認申請 中川正春文部科学大臣へ私立小学校教育振興功労者に対する文部科学大臣の表彰状交付について依頼
	9.21	野田内閣発足に伴い、文部科学大臣表敬訪問と懇談 全私学連合の各団体の会長と事務局長は、文部科学大臣他政務三役を表敬訪問し、平成 23 年度私立学校関係政府予算に関する要望を行った。 面会者：中川正春文部科学大臣、奥村展三・森 ゆうこ副大臣、神本美恵子・城井崇大臣政務官
	10.28	日私小連結成 70 周年記念、私立小学校永年勤続表彰（会長表彰）候補者の推薦要項について協議 日私小連ホームページ開設について協議
	11.24	民主党私学振興推進議員連盟へ、「平成 24 年度私学関係予算・税制改正」等について要望（衆議院第一議員会館 B 1 大会議室にて）

年	月日	主 な 活 動 事 項
平成二十四（二〇二二）年	11.24	自民党の予算・税制等に関する政策懇談会において、「平成 24 年度私学関係予算・税制改正」等について要望（自由民主党本部にて）
	12. 2	私学振興全国大会を日私小連・中高連・日私学保連と共催で日比谷公会堂において開催。中川文部科学大臣他、民主党と自民党の国会議員 15 名ご臨席
	12.16	第 56 回全国幹部研修会の運営に関して 日私小連結成 70 周年記念事業について 学校劇研究部会からの全国教員夏季研修会における設置願いについて協議、正副会長会議において継続審議
	1.12	日私小連結成 70 周年記念式典・祝賀会の運営に関して
	1.19	日私小連結成 70 周年記念式典・祝賀会（日本私立小学校連合会主催、文部科学省後援）、アルカディア市ヶ谷：私学会館にて 約 300 名出席 ・私立小学校教育振興功労者文部科学大臣賞 12 名受賞 ・私立小学校永年勤続者表彰（会長賞） 211 名受賞
	1.20	「学校劇研究部会」の全国教員夏季研修会における「試行」実施 日私小連正副会長会議において、東初協の学校劇研究部会から申請されていた全国教員夏季研修会における設置について協議した結果、平成 24 年度の東京地区開催において試行実施することになる。
	1.23	野田改造内閣発足に伴い、文部科学大臣表敬訪問と懇談 全私学連合の各団体の会長と事務局長は、平野大臣を表敬訪問し私学振興について懇談した。
	2.15	幼保一体化と「総合こども園（仮称）」への株式会社の参入について、民主党・私学振興推進議員連盟と平野文部科学大臣へヒアリングと陳情、全私学連合の各団体の会長と事務局長
	2.17	平成 24 年度全国教員夏季研修会の運営について
	3.16	平成 23 年度決算報告・平成 24 年度予算案について協議、了承 日私小連加盟について協議、承認 ・関東地区 昭和学院小学校（千葉県市川市） ・西日本地区 帝京大学可児小学校（岐阜県可児市）

3. 研修会のあゆみ

(1) 全国教員夏季研修会

回	日時／会場／参加者／主題	研究部会数／部会開催回数／他
第37回	・H.4.8.19～21 ・大阪ガーデンパレス、他 ・参加 900名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・研究部会（13部会） - 国語（22回）、社会（27回）、算数（28回）、理科（32回）、音楽（20回）、図工（16回）、保健体育（23回）、学級経営（29回）、視聴覚（28回）、学校図書館（25回）、外国語（4回）、家庭科（2回）、生活科（1回）
第38回	・H.5.8.19～21 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館）、他 ・参加 969名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・研究部会（13部会） - 国語（23回）、社会（28回）、算数（29回）、理科（33回）、音楽（21回）、図工（17回）、保健体育（24回）、学級経営（30回）、視聴覚（29回）、学校図書館（26回）、外国語（5回）、家庭科（3回）、生活科（2回）
第39回	・H.6.8.18～20 ・西熱海ホテル ・参加 690名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・研究部会（13部会） - 国語（24回）、社会（29回）、算数（30回）、理科（34回）、音楽（22回）、図工（18回）、保健体育（25回）、学級経営（31回）、視聴覚（30回）、学校図書館（27回）、外国語（6回）、家庭科（4回）、生活科（3回）
平成7年度は神戸開催を予定していたが、阪神・淡路大震災のため中止となり次年度に延期された。		
第40回	・H.8.8.19～21 ・ホテルオークラ神戸、他 ・参加 874名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・研究部会（13部会） - 国語（25回）、社会（30回）、算数（31回）、理科（35回）、音楽（23回）、図工（19回）、保健体育（26回）、学級経営（32回）、視聴覚（31回）、学校図書館（28回）、外国語（7回）、家庭科（5回）、生活科（4回）
第41回	・H.9.8.19～21 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館）、他 ・参加 918名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・研究部会（13部会） - 国語（26回）、社会（31回）、算数（32回）、理科（36回）、音楽（24回）、図工（20回）、保健体育（27回）、学級経営（33回）、視聴覚（32回）、学校図書館（29回）、外国語（8回）、家庭科（6回）、生活科（5回）
第42回	・H.10.8.18～20 ・西熱海ホテル ・参加 594名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・研究部会（13部会） - 国語（27回）、社会（32回）、算数（33回）、理科（37回）、音楽（25回）、図工（21回）、保健体育（28回）、学級経営（34回）、視聴覚（33回）、学校図書館（30回）、外国語（9回）、家庭科（7回）、生活科（6回）

第43回	・H11.8.19～21 ・大阪ガーデンパレス、他 ・参加 824名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・研究部会（13部会） 国語（28回）、社会（33回）、算数（34回）、理科（38回）、音楽（26回）、図工（22回）、保健体育（29回）、学級経営（35回）、視聴覚（34回）、学校図書館（31回）、外国語（10回）、家庭科（8回）、生活科（7回）
第44回	・H12.8.17～19 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館）、他 ・参加 933名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・研究部会（13部会） 国語（29回）、社会（34回）、算数（35回）、理科（39回）、音楽（27回）、図工（23回）、保健体育（30回）、学級経営（36回）、視聴覚（35回）、学校図書館（32回）、外国語（11回）、家庭科（9回）、生活科（8回）
第45回	・H13.8.20～22 ・新横浜プリンスホテル、他 ・参加 782名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・研究部会（13部会） 国語（30回）、社会（35回）、算数（36回）、理科（40回）、音楽（28回）、図工（24回）、保健体育（31回）、学級経営（37回）、視聴覚（36回）、学校図書館（33回）、外国語（12回）、家庭科（10回）、生活科（9回）
第46回	・H14.8.19～21 ・都ホテル大阪、他 ・参加 754名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・研究部会（13部会） 国語（31回）、社会（36回）、算数（37回）、理科（41回）、音楽（29回）、図工（25回）、保健体育（32回）、学級経営（38回）、視聴覚（37回）、学校図書館（34回）、外国語（13回）、家庭科（11回）、生活科（10回）
第47回	・H15.8.19～21 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館）、他 ・参加 912名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・研究部会（13部会） 国語（32回）、社会（37回）、算数（38回）、理科（42回）、音楽（30回）、図工（26回）、保健体育（33回）、学級経営（39回）、視聴覚（38回）、学校図書館（35回）、外国語（14回）、家庭科（12回）、生活科（11回）
第48回	・H16.8.18～20 ・新横浜プリンスホテル、他 ・参加 790名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・研究部会（13部会） 国語（33回）、社会（38回）、算数（39回）、理科（43回）、音楽（31回）、図工（27回）、保健体育（34回）、学級経営（40回）、視聴覚（39回）、学校図書館（36回）、外国語（15回）、家庭科（13回）、生活科（12回）
第49回	・H17.8.22～24 ・都ホテル大阪、他 ・参加 749名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・研究部会（13部会） 国語（34回）、社会（39回）、算数（40回）、理科（44回）、音楽（32回）、図工（28回）、保健体育（35回）、学級経営（41回）、視聴覚（40回）、学校図書館（37回）、外国語（16回）、家庭科（14回）、生活科（13回）

第50回	・H.18.8.22～24 ・明治学院大学白金校舎、他 ・参加 956名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・研究部会（13部会） 国語（35回）、社会（40回）、算数（41回）、理科（45回）、音楽（33回）、図工（29回）、保健体育（36回）、学級経営（42回）、視聴覚（41回）、学校図書館（38回）、外国語（17回）、家庭科（15回）、生活科（14回）
第51回	・H.19.8.21～23 ・新横浜プリンスホテル、他 ・参加 944名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・研究部会（13部会） 国語（36回）、社会（41回）、算数（42回）、理科（46回）、音楽（34回）、図工（30回）、保健体育（37回）、学級経営（43回）、視聴覚（42回）、学校図書館（39回）、外国語（18回）、家庭科（16回）、生活科（15回）
第52回	・H.20.8.20～22 ・神戸ポートピアホテル、他 ・参加 943名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・研究部会（13部会） 国語（37回）、社会（42回）、算数（43回）、理科（47回）、音楽（35回）、図工（31回）、保健体育（38回）、学級経営（44回）、視聴覚（43回）、学校図書館（40回）、外国語（19回）、家庭科（17回）、生活科（16回）
第53回	・H.21.8.18～20 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館）、他 ・参加 994名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・研究部会（13部会） 国語（38回）、社会（43回）、算数（44回）、理科（48回）、音楽（36回）、図工（32回）、保健体育（39回）、学級経営（45回）、視聴覚（44回）、学校図書館（41回）、外国語（20回）、家庭科（18回）、生活科（17回）
第54回	・H.22.8.17～19 ・新横浜プリンスホテル、他 ・参加 971名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・研究部会（13部会） 国語（39回）、社会（44回）、算数（45回）、理科（49回）、音楽（37回）、図工（33回）、保健体育（40回）、学級経営（46回）、視聴覚（45回）、学校図書館（42回）、外国語（21回）、家庭科（19回）、生活科（18回）

(2) 全国教頭研修会

回	日時／会場／参加者／主題	講演／研究発表／分科会 他
第17回	・H4.8.18～19 ・宝塚グランドホテル ・参加 62名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」 －学校5日制をめぐる問題－	・講演「学校週五日制について」 銭谷 真美（文部省初等中等教育局小学校課長） 「五日制の教育原理と課題」 政本 博（聖母教育文化センター顧問） ・発表、報告「五日制に関して」 脇田聰一郎（大阪聖母学院・教頭） 松野 潔（青山学院・教頭） 田久保威人（甲南・教頭） 山内 幸（清泉・教務部長）
第18回	・H5.8.18～19 ・新宿ワシントンホテル ・参加 65名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・講演「21世紀の子供達の夢を育むスポーツ指導のあり方」 王 貞治（元プロ野球選手） ・報告「宿泊を伴う学校行事のアンケート調査」 澤村 興平（暁星・教頭） ・フィールドワーク 「元赤坂迎賓館」
第19回	・H6.8.17～18 ・新横浜プリンスホテル ・参加 65名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・講演「生き生きした教師づくり」 河津 雄介（聖霊女子短期大学教授） ・講演とまとめ
平成7年度は神戸開催を予定していたが、阪神・淡路大震災のため中止となり次年度に延期された。		
第20回	・H8.8.18～19 ・ホテルオークラ神戸 ・参加 67名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・講演「震災の街から」 多賀 一郎（甲南・教諭） 「時代が私学に押しつけてくるもの」 松中 修身（学校法人聖母女学院理事） ・フィールドワーク 「震災後の神戸長田を訪ねて」 神田 裕（カトリック大阪大司教区 鷹取教会救援基地 主任司祭）
第21回	・H9.8.18～19 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館） ・参加 62名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「同じ道を歩く」 中村 東蔵（歌舞伎役者） 「内から見たイギリスの指導者教育」 －『個』を大切にする人材づくり－ 小山 堯志（国際ビジネスコンサルタント）
第22回	・H10.8.17～18 ・鎌倉パークホテル ・参加 59名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「小学校の目から見た1930年前後の英国とその教育」 金野 滋（元日本ラグビーフットボール協会会長） 「近代社会の特質と新しい教育の視点」 石川 光男（国際基督教大学教授・理学博士）

第 23 回	・H11.8.18～19 ・京都市 平安会館 ・参加 57名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・講演「茶の心」 千 宗之（社団法人茶道裏千家淡交会 理事長） ・実践報告『『通学合宿の試み』のレポートと話し 合い」 脇田聰一郎（大阪聖母学院） ・施設見学「京都市立御所南小学校」
第 24 回	・H12.8.19～20 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館） ・参加 59名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・講演「食育のすすめ」 服部 幸應（服部栄養専門学校校長） 「総合的な学習にどう取り組むか」 柴田 義松（東京大学名誉教授） ・話し合い「総合的な学習に関する話し合い」 ・報告「各校における総合的な学習の取り組み方」
第 25 回	・H13.8.22～23 ・新横浜プリンスホテル ・参加 62名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・講演「教育改革の動向と私立学校の使命」 梶田 叡一（京都ノートルダム女子大学学長） 「総合学習の意義と『学力』」 川端 秀朗（カリタス・教頭） ・話し合い「総合的な学習に関する話し合い」 ・報告「各校における総合的な学習の取り組み方」
第 26 回	・H14.8.21～22 ・都ホテル大阪 ・参加 43名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・講演「民間から学校現場へ」 榎本 健志（奈良県立櫻井商業高等学校校長） 「新学習指導要領への対応」 荒井 義一（甲南・校長）
第 27 回	・H15.8.21～22 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館） ・参加 63名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・講演「海外の教育から学ぶこと」 野口 桂子（国際教育ジャーナリスト） ・実践報告
第 28 回	・H16.8.20～21 ・新横浜プリンスホテル ・参加 69名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・講演「心の教育－親の役割、学校の役割－」 渡辺 和子（ノートルダム清心学園理事長） 「子どもの現状と私たちの課題」 汐見 稔幸（東京大学大学院教授）
第 29 回	・H17.8.24～25 ・都ホテル大阪 ・参加 59名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・講演「子どもの（いのち）が光り輝くように」 ～YMCAのマネジメントを通して～ 水野 雄二（財団法人神戸YMCA総主事） 「学校は子どもをかしこくする場」 園部 勝章（奈良教育大学非常勤講師）
第 30 回	・H18.8.24～25 ・ラディソン都ホテル東京 ・参加 55名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・実践報告・情報交換 市川 智（武蔵野東・教頭） 郡司 英幸（聖徳学園・教頭） ・講演「個人情報保護と人権問題」 牧野 二郎（弁護士）

第 31 回	・H.19.8.23～24 ・新横浜プリンスホテル ・参加 64名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・講演「教頭としてサブリーダーとして」 ー私学の実態とミッションの中からー 寺崎 昌男（立教学院本部調査役、東京 大学・桜美林大学名誉教授） ・グループ討議と全体会（第1日の講演を受けて）
第 32 回	・H.20.8.19～20 ・宇治市 旅館「花やしき浮舟園」 ・参加 59名 ・主題 「ものづくり ひとづくり その原点にあるもの」	・講演「自立型人間の育成とこれからの教育」 原田 隆史（大阪・京都・東京教師塾塾頭、原田総合 教育研究所所長、天理大学非常勤講師） ・演習「パラダイムの転換！自校の強みに気づき 教育の差別化をはかる！」 ・ワークショップ 「子どもの人と関わる力を育む遊び」 岩城 敏之（キッズいわき ばふ 代表） ・フィールドワーク 「平等院 神居文彰住職のお話」 「三星園上林三入本店」「鳳凰堂」
第 33 回	・H.21.8.17～18 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館） ・参加 63名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」 ー教頭の役割・教師の学びー	・講演「小学校における心の基礎づくり」 ー教頭職の役割を中心にー 菅野 純（早稲田大学人間科学学術院 心理相談室長） 「笑顔のもとに笑顔が集まる」 林家たい平（落語家・日本テレビ系「笑点」 大喜利メンバー） ・フィールドワーク「浅草寺」参拝と見学
第 34 回	・H.22.8.19～20 ・横浜国際ホテル ・参加 72名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」 ー教頭の役割・教師の学びー	・講演「サーバント・リーダースhip」 池田 守男（東洋英和女学院理事長） 「軽度発達障害児童の指導」 杉山登志郎（あいち小児保健医療総合セ ンター心療科部長） ・フィールドワーク 「横浜開港の歴史と街づくり」見学

(3) 全国幹部研修会

回	日時／会場／参加者／主題	内 容
第37回	・H.5.1.21～23 ・郡山市 ホテルハマツ ・参加 84名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・講演「学校週五日制について」 銭谷 眞美（文部省初等中等教育局小学校課長） 「会津を語る」 佐藤ひろの（郷土芸能） 「個性を生かした学習指導」 加藤 幸次（上智大学教授） 「現代の日本の子ども」 一人道の立場・キリストの立場ー イシドロ・リバス（聖イグナチオ教会司牧） ・エニアグラム「自分探しの旅」 ーよりよいかかわりを築くためにー 鈴木 秀子（聖心女子大学教授） ・全体会「研修のまとめ」座長 人見 楠郎 会長
第38回	・H.6.1.20～22 ・北九州市 九州厚生年金会館ホテル ・参加 87名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」 ー私学が志す心の教育の糧としてー	・講演「公害克服から国連表彰へ」 重田 勲次（北九州市環境局環境保全部環境管理長） 「安らかな人生の終焉のために」 ーホスピスの現場からー 下稲葉康之（福岡亀山栄光病院副院長） 「小倉と鶴外」 小林 安司（市立北九州大学名誉教授） 「父の思い出ー平和への願いー」 筒井 茅乃（故永井隆博士ご令嬢） ・全体会「研修のまとめ」座長 人見 楠郎 会長 ・フィールドワーク 「小倉～下関」にかけての史跡名所
第39回	・H.7.1.19～21 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館） ・参加 72名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」 * 阪神淡路大震災のため、西日本の先生が多数欠席された	・講演「日本語の魅力」 金田一春彦（国語学者・文学博士・玉川大学客員教授） 「高度情報社会の現状と展望」 小村 元（富士通株式会社システムインテグレーション本部 第三システム事業部 新映像社会システム推進室企画課長） 「心におしゃれ」 石井ふく子（演出家・作家） ・全体会「研修会のまとめ」座長 人見 楠郎 会長 ・フィールドワーク「歌舞伎座、世界都市博覧会場」
第40回	・H.8.1.18～20 ・ルビノ京都堀川 ・参加 88名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・講演「茶の心（平常心は道）」 千 宗室（茶道裏千家家元） 「わが社の人事管理・人材育成（組織と仕事と人と心）」 市橋 一昭（株式会社ワコール取締役・人事部人事部長） ・実践報告 「ある地方私立小学校の実践より」 山本 康弘（近江兄弟社・校長） 「学校作りの周辺問題（沖縄カトリック小学校の設立に当たって）」 門田 恒雄（カトリック沖縄学園名誉校長） ・全体会「研修会のまとめ」座長 人見 楠郎 会長 ・フィールドワーク 「京都市立洛央小学校、御所南小学校、清水寺成就院庭園、清水焼工房（清水六兵衛窯）、河合寛次郎作品展示館」

第41回	・H.9.1.16～18 ・ザホテルヨコハマ ・参加 88名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・講演「子どもの心の居場所づくり」 ーいじめ問題を含めてー 坂本 昇一（聖徳大学教授・千葉大学名誉教授） 「みすゞの宇宙」 ーみんなちがってみんないー 矢崎 節夫（児童文学者） ・実践報告 「カリタス小学校の総合教育」 森本謙四郎（カリタス・校長） 小野 一（カリタス・主事） 「私立障害児教育学校の現状と本校の実践について」 柴田 昌一（聖坂養護学校・校長） ・全体会「研修会のまとめ」座長 人見 楠郎 会長 ・フィールドワーク 「金沢文庫、称名寺、八景島シーパラダイス」
第42回	・H.10.1.22～24 ・札幌ガーデンパレス ・参加 74名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「21世紀の日本はくらしやすい社会になれるか」 フィリップ・グロッド（函館旭ヶ岡の家園長） 「愛すること、信じること、待つこと」 谷 昌恒（北海道家庭学校理事長） 「女性・子どもの人権とアジア」 ー共に生きる21世紀へー 松井やより（フリージャーナリスト） ・実践報告 「共生の時代に『イキイキ』『ワクワク』する教育をめざして」 小林 昭彦（成城学園・教諭） ・全体会「研修会のまとめ」座長 人見 楠郎 会長 ・フィールドワーク 「札幌ファクトリー、ビール博物館」
第43回	・H.11.1.21～23 ・パシフィックホテル沖縄 ・参加 69名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「心の教育」 上甲 晃（志ネットワーク代表、元松下政経塾頭） 「沖縄の文化と歴史」 外間 守善（沖縄学研究所所長・法政大学教授） 「私学経営における問題点と解決について」 長谷川良昭（日私小連副会長・大乘淑徳学園理事長） 「沖縄から日本美を再発見する」 永井 信一（沖縄県立芸大美術工芸学部前学部長） ・全体会「研修会のまとめ」伴 憲三郎 常任理事 武田 博信 常任理事 村岡 正則 理事 ・フィールドワーク 「首里城、ひめゆり平和記念資料館、玉泉洞王国村」

第44回	・H.12.1.20～22 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館） ・参加 84名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「21世紀の日本の針路」 根本 二郎（第17期中央教育審議会会長、前日経連会長） 「日本人のペルー移住100年の苦節」 ビクトル アリトミシント（ペルー共和国特命全権大使） 「特色ある学校づくりと総合的な学習」 中野 重人（国立教育研究所教科教育研究） ・報告「私学関係政府予算について」 武田 博信 副会長 ・分科会 第1分科会「総合的な学習にどのように取り組むか」 第2分科会「心の豊かさを育む特色ある教育をどのように実践しているか」 ・全体会「研修会のまとめ」大森 隆實 常任理事 ・フィールドワーク「両国国技館」
第45回	・H.13.1.18～20 ・広島ガーデンパレス ・参加 86名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「桃山のうつくしき武将の茶」 上田 宗嗣（茶道 上田宗箇流家元） 「私の被爆体験とヒロシマの心」 高橋 昭博（元広島平和記念資料館長） 「21世紀における私学教育の実践」 長谷川良昭（日私小連会長） ・報告「私学関係政府予算について」 武田 博信 副会長 ・全体会「地区活動の報告」 ・フィールドワーク「宮島、広島平和記念資料館」
第46回	・H.14.1.17～19 ・新横浜プリンスホテル ・参加 65名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「私の出逢った唄たち」 新谷 のり子（メッセージ・シンガー） 「新しい歌をうたおう」 鈴木 光司（作家） 「映画による開発教育」 千葉 茂樹（日本映画学校副校長） ・報告「私学関係政府予算について」 武田 博信 副会長 ・全体会「地区活動の報告」 ・フィールドワーク「初春の古都鎌倉巡り」
第47回	・H.15.1.16～18 ・郡山市 ホテルハマツ ・参加 76名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「いのちへのまなざし」 森 一弘（元東京教区補佐司教） 「私学の魅力と経営戦略」 今井 茂（㈱アイエスエイ主任コンサルタント） ・ワークショップ 「教育共同体を創るリーダーシップ」 シスター・ジャクリン・ヴィルミュール （無原罪聖母宣教女会会員） ・報告「私学関係政府予算について」 大森 隆實 副会長 ・全体会「研修会のまとめ」と「地区活動の報告」

第48回	・H16.1.15～17 ・福岡市 西鉄グランドホテル ・参加 62名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「守ろう地球、めざそう宇宙」 菊山 紀彦（宇宙開発事業団招聘研究員） 「今をどう生きるか（教育と環境の循環）」 川崎 順一（ひびき開発株式会社代表取締役） 「循環型経済社会を目指して市民、企業、行政のコラボレーション」 垣迫 裕俊（北九州市環境高環境産業政策室長） 「つくしの食文化の歴史」 味酒 安則（太宰府天満宮文化研究所主管） ・報告「私学関係政府予算について」 大森 隆實 副会長 ・全体会「研修会のまとめ」 ・フィールドワーク 「環境ミュージアム及びリサイクル工場」
第49回	・H17.1.20～22 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館） ・参加 58名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「初等教育の時代」 鳥居 泰彦（日本私立学校振興・共催事業団理事長、中央教育審議会会長） 「食育のすすめ」 －大切なものを失った日本人－ 服部 幸應（服部栄養専門学校理事長） ・報告「私学関係政府予算について」 大森 隆實 副会長 ・分科会（グループ別話し合い） 「わが校の課題と今後の対策」 －親とのかかわり、危機管理、教員の資質向上、等－ ・フィールドワーク 「江戸東京たてもの園、三鷹の森ジブリ美術館」
第50回	・H18.1.19～21 ・都ホテル大阪 ・参加 62名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「志を知る」 －21世紀に求められる人間像－ 上甲 晃（志ネットワーク代表・元松下政経塾頭） 「不揃いの木を組む」 小川 三夫（宮大工棟梁） ・報告「私学関係政府予算について」 大森 隆實 副会長 ・分科会（グループ別話し合い） 「わが校の課題と今後の対策」 －危機管理、教員の資質向上、教員評価、親とのかかわり－ ・全体会「研修会のまとめ」堀 俊一 副会長 ・フィールドワーク 「東大寺、西大寺、法隆寺、他」

第51回	・H.19.1.18～20 ・新横浜プリンスホテル ・参加 78名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「発展途上国子どもたちへの支援活動を考える」 ジュディ・オング（NPO法人ワールドビジョンジャパン親善大使） 片山 信彦（同上 事務局長） 「教師と親が日本を変える」 ー小学校を親学の拠点にー 高橋 史郎（明星大学教授） 「最近の子どもの実態と教育課程の改訂の動向」 永田 繁雄（文科省初中局教育課程課教科調査官） ・報告「私学関係政府予算について」 福田景三郎 常任理事 ・全体会「研修会のまとめ」佐藤 勇 副会長 ・フィールドワーク「新横浜港めぐり」
第52回	・H.20.1.17～19 ・ホテルニュー長崎 ・参加 72名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「命の尊さ」 山内 清海（長崎純心大学教授） 「平和の原点」 廣瀬 方人（長崎証言の会代表委員） 「長崎をととして日本が学んだこと」 ブライアン・パークガフニ（長崎総合科学大学教授） ・講話「ド・ロ神父様と教育」 Sr.片岡瑠美子（長崎純心大学教授） ・報告「私学関係等について」 福田景三郎 常任理事 ・フィールドワーク 「原爆資料館、出津教会、ド・ロ記念館、遠藤周作文学館」
第53回	・H.21.1.22～24 ・アルカディア市ヶ谷（私学会館） ・参加 78名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・講演「私学教育を考える」 ーこれからの時代のためにー 安西祐一郎（慶應義塾長、中央教育審議会委員） 「新しい学習指導要領及び移行措置について」 神山 弘（文科省初中局教育課程課教育過程企画室長） 「学校評価及び情報提供に関する対応」 山路 進（日本私学教育研究所主任研究員） 「多様な保護者にどうかわるか」 諸富 祥彦（明治大学文学部教授・教育学博士） ・分科会（グループ別話し合い） 「わが校の課題と今後の対策」 ー教師の資質向上、危機管理、学校評価及び情報提供に関する対応、多様な保護者との関わり、等ー ・フィールドワーク「寛永寺、江戸東京博物館」

第54回	・ H.22.1.21 ～ 23 ・ 大阪ガーデンパレス ・ 参加 64 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践	・ 講演「モンスターペアレントを超えて～保護者と向き合う気持ちと共同性～」 小野田正利（大阪大学大学院人間科学研究科教授） 「古都（難波京）としての上町大地～応神・仁徳・孝徳・聖武朝の都～」 河内 厚郎（評論家・文化プロデューサー・追手門学院大学客員教授） 「これからの私立小学校の課題」 大森 隆實（日本私学教育研究所専任研究員） ・ 分科会（グループ別話し合い） 「私学（我が校）の将来と課題」 ・ フィールドワーク 「四天王寺」（講話と見学） - 講話「聖徳太子の教育観～四天王寺と四天王寺学園をめぐって」 森田 俊朗（四天王寺学園理事長） 「大阪歴史博物館」（講義と見学） - 講義「大阪という町」 脇田 修（大阪歴史博物館館長） 「大阪城見学」（自由散策）
第55回	・ H.23.1.20 ～ 22 ・ 新横浜プリンスホテル ・ 参加 75 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践	・ 講演「教職員のためのメンタルヘルス」 山本 晴義（横浜労災病院勤労者メンタルヘルスセンター長） 「日本の社会（家庭・学校・職場）を蝕んでいる価値観に教育はどう向き合うか」 森 一弘（カトリック司教） 「いかにして子どもたちと共に生きるか～『ある』と『する』の間で～」 芹沢 俊介（社会評論家） ・ 報告「私学関係報告」 園田 達彦 日私小連事務局長 ・ フィールドワーク 「鎌倉見学」（自由散策） 「建長寺」（講演と見学） - 講演「やさしい禅の心」～修行と人間形成～ 永井 宗直（臨済宗建長寺派教学部長）

(4) 東北地区教員研修会

回	日時／会場／参加者／主題	内 容
第22回	・H.4.10.23 ・仙台ガーデンパレス ・参加 112名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・講演「アジアの人々と共に生きる」 松井 耶依（朝日新聞社社会部編集員） ・分科会 4部会 宗教、学校図書館、視聴覚、学級経営
第23回	・H.5.10.23 ・会津若松ザベリオ学園小学校 ・参加 111名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・公開授業 6クラス 6教科 ・分科会 6部会 国語、社会、算数、音楽、図工、保健体育
第24回	・H.6.10.28 ・仙台ガーデンパレス ・参加 116名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・講演「子どもの眼差をもっと高くそして深く」 ー私学教育の目指すものー 政本 博（英知大学教授） ・分科会 4部会 宗教、学校図書館、視聴覚、学級経営
第25回	・H.7.10.20 ・盛岡白百合学園小学校 ・参加 119名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・公開授業 5クラス 5教科 ・分科会 7部会 国語、社会、算数、音楽、図工、保健体育、英語
第26回	・H.8.10.18 ・仙台ガーデンパレス ・参加 112名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・講演「共に進まん共存共栄の道を」 ー南の島の学校作りからー 門田 恒雄（学校法人カトリック沖縄学園名誉校長） ・分科会 4部会 宗教、学校図書館、視聴覚、学級経営
第27回	・H.9.10.17 ・聖ウルスラ学院小学校 ・参加 112名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・公開授業 6クラス 6教科 ・分科会 7部会 国語、社会、算数、音楽、図工、保健体育、英語
第28回	・H.10.10.16 ・仙台ガーデンパレス ・参加 116名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・講演「感性を育てる心の教育」 高橋 史郎（明星大学教授） ・分科会 4部会 宗教、学校図書館、視聴覚、学級経営
第29回	・H.11.10.15 ・仙台白百合学園小学校 ・参加 127名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・公開授業 7クラス 7教科 ・分科会 7部会 国語、社会、算数、音楽、図工、保健体育、英語

第 30 回	・H12.10.13 ・仙台ガーデンパレス ・参加 124 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・講演「21 世紀を担う子どもたち 生きる力を育むために」 森 一弘（元東京教区補佐司教） ・分科会 4 部会 宗教、学校図書館、視聴覚、学級経営
第 31 回	・H13.10.19 ・郡山ザベリオ学園小学校 ・参加 122 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・公開授業 7 クラス 7 教科 ・分科会 7 部会 国語、社会、算数、音楽、図工、保健体育、英語
第 32 回	・H14.10.18 ・桜の聖母学院小学校 ・参加 118 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・公開授業 6 クラス 6 教科 ・分科会 6 部会 国語、社会、算数、音楽、保健体育、英語
第 33 回	・H15.10.17 ・盛岡白百合学園小学校 ・参加 115 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・公開授業 6 クラス 6 教科 ・分科会 6 部会
第 34 回	・H16.10.22 ・聖ウルスラ学院小学校 ・参加 108 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・公開授業 6 クラス 6 教科 ・分科会 6 部会
第 35 回	・H17.10.14 ・聖ドミニコ学院小学校、ホテルー の坊 ・参加 115 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・講演「現代の教育について考えること」 溝部 脩（カトリック高松教区司教） ・公開授業 6 クラス 6 教科 ・分科会 6 部会
第 36 回	・H18.10.13 ・仙台白百合学園小学校 ・参加 115 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・公開授業 6 クラス 6 教科 ・分科会 6 部会
第 37 回	・H19.10.12 ・会津若松ザベリオ学園小学校 ・参加 108 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・公開授業 6 クラス 6 教科 ・分科会 6 部会

第 38 回	・H.20.10.17 ・郡山ザベリオ学園小学校 ・参加 120 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・公開授業 6 クラス 6 教科 ・分科会 6 部会
第 39 回	・H.21.10.14 ・桜の聖母学院小学校 ・参加 121 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・公開授業 6 クラス 6 教科 ・分科会 6 部会+図工 *図工は8/7に実施
第 40 回	・H.22.10.15 ・盛岡白百合学園小学校 ・参加 122 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、喜んで学ぶ子どもー ・公開授業 6 クラス 6 教科 ・分科会 6 部会+図工 *図工は8/10に実施



〈公開授業、盛岡白百合学園小学校 H. 22. 10. 15〉

(5) 東京地区教員研修会

回	日時／会場／参加者／主題	内 容
第 29 回	・ H.4.6.5 ・ 慶應義塾幼稚舎 ・ 参加 1,204 名 ・ 主題 「新しい世紀をめざす 私学教育の課題」	・ 永年勤続教員表彰 (14 名) ・ 公開授業 19 クラス 10 教科 ・ 分科会 16 部会 国語、社会、算数、理科、図工、体育、視聴覚、 学校図書館、学校劇、外国語、音楽、教育課程、 学級経営、学校保健、家庭科、生活科
第 30 回	・ H.5.6.4 ・ 玉川学園小学校 ・ 参加 1,217 名 ・ 主題 「新しい世紀をめざす 私学教育の課題」	・ 永年勤続教員表彰 (19 名) ・ 公開授業 27 クラス 12 教科 ・ 講演「未来の学校」ーアメリカの小学校ー セオドア・R. ミッチェル (UCLA 教育学部長) ・ 分科会 16 部会 教育課程が解消し、特設が加 わる
第 31 回	・ H.6.6.3 ・ 昭和女子大学附属昭和小学校 ・ 参加 1,233 名 ・ 主題 「新しい世紀をめざす 私学教育の課題」	・ 永年勤続教員表彰 (16 名) ・ 分科会 16 部会
第 32 回	・ H.7.6.2 ・ 武蔵野東小学校 ・ 参加 1,190 名 ・ 主題 「新しい世紀をめざす 私学教育の課題」	・ 永年勤続教員表彰 (18 名) ・ 公開授業 28 クラス 16 教科 ・ 分科会 16 部会
第 33 回	・ H.8.6.7 ・ 白百合学園小学校 ・ 参加 1,184 名 ・ 主題 「新しい世紀をめざす 私学教育の課題」	・ 永年勤続教員表彰 (21 名) ・ 公開授業 20 クラス 16 教科 ・ 分科会 16 部会
第 34 回	・ H.9.6.6 ・ 成蹊小学校 ・ 参加 1,218 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・ 永年勤続教員表彰 (16 名) ・ 公開授業 20 クラス 14 教科 ・ 分科会 16 部会
第 35 回	・ H.10.6.5 ・ 成城学園初等学校 ・ 参加 1,195 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・ 永年勤続教員表彰 (23 名) ・ 公開授業 20 クラス 14 教科 ・ 分科会 16 部会
第 36 回	・ H.11.6.4 ・ 立教小学校 ・ 参加 1,172 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・ 永年勤続教員表彰 (28 名) ・ 公開授業 21 クラス 14 教科 ・ 分科会 16 部会

第 37 回	・H12.6.2 ・日本女子大学附属豊明小学校 ・参加 1,172 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰 (28 名) ・公開授業 19 クラス 14 教科 ・分科会 16 部会
第 38 回	・H13.6.8 ・暁星小学校 ・参加 1,140 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰 (26 名) ・公開授業 18 クラス 14 教科 ・分科会 16 部会
第 39 回	・H14.6.7 ・トキワ松学園小学校、目黒星美学 園小学校の 2 校による合同開催 ・参加 1,192 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰 (28 名) ・公開授業 20 クラス 14 教科 ・分科会 16 部会 + 宗教
第 40 回	・H15.6.6 ・東京創価小学校 ・参加 1,211 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰 (21 名) ・公開授業 16 クラス 12 教科 ・分科会 16 部会
第 41 回	・H16.6.4 ・明星小学校 ・参加 1,223 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・東京私立初等学校協会結成 70 周年記念式典 ・永年勤続教員表彰 (22 名) ・公開授業 18 クラス 13 教科 ・分科会 16 部会
第 42 回	・H17.6.3 ・川村小学校 ・参加 1,268 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰 (31 名) ・公開授業 18 クラス 12 教科 ・分科会 16 部会
第 43 回	・H18.6.2 ・玉川学園小学部 ・参加 1,239 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰 (35 名) ・公開授業 23 クラス 16 教科 ・分科会 16 部会
第 44 回	・H19.6.1 ・慶應義塾幼稚舎 ・参加 1,361 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰 (20 名) ・公開授業 24 クラス 14 教科 ・分科会 16 部会
第 45 回	・H20.6.6 ・成城学園初等学校 ・参加 1,356 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰 (26 名) ・公開授業 20 クラス 15 教科 ・分科会 16 部会

第 46 回	・ H.21.6.5 ・ 昭和女子大学附属昭和小学校 ・ 参加 1,401 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・ 永年勤続教員表彰 (27 名) ・ 公開授業 18 クラス 13 教科 ・ 分科会 16 部会
第 47 回	・ H.22.6.4 ・ 学習院初等科 ・ 参加 1,433 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・ 永年勤続教員表彰 (34 名) ・ 公開授業 17 クラス 11 教科 ・ 分科会 15 部会 (特設：休)



〈H. 23. 6. 3〉

(6) 関東地区教員研修会

回	日時／会場／参加者／主題	内 容
第 34 回	・H.4.11.14 ・カリタス小学校 ・参加 451 名 ・主題 「新しい世紀をめざす 私学教育の課題」	・公開授業 18 クラス 9 教科 7 活動 ・分科会 15 部会 国語、社会、算数、理科、生活科、音楽、図工、 家庭科、体育、学校保健、学級経営、学校図書館、 視聴覚、外国語、教頭会
第 35 回	・H.5.11.13 ・関東学院六浦小学校 ・参加 408 名 ・主題 「新しい世紀をめざす 私学教育の課題」	・講演「子どもに生きる児童詩教育」 江口 秀好（日本作文の会常任委員・児 童文学者） ・分科会 15 部会
第 36 回	・H.6.11.12 ・森村学園初等部 ・参加 470 名 ・主題 「新しい世紀をめざす 私学教育の課題」	・公開授業 16 クラス 9 教科 ・分科会 15 部会
第 37 回	・H.7.11.11 ・聖セシリア小学校 ・参加 413 名 ・主題 「新しい世紀をめざす 私学教育の課題」	・講演「小学校におけるいじめの現状とその対策」 坂本 昇一（千葉大学名誉教授・聖徳大 学教授） ・分科会 15 部会
第 38 回	・H.8.11.9 ・横浜英和小学校 ・参加 430 名 ・主題 「新しい世紀をめざす 私学教育の課題」	・講演「ハッピーな子どもを育てる」 四電 経夫（元東京女学館中学高等学校 校長） ・分科会 15 部会
第 39 回	・H.9.11.8 ・湘南白百合学園小学校 ・参加 420 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・講演「新しい時代に向けての子どものしつけと 教育」 東 洋（白百合女子大学教授） ・分科会 15 部会
第 40 回	・H.10.11.14 ・横浜雙葉小学校 ・参加 456 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・講演「兄征爾と私～小澤幹雄のやわらかクラシッ ク～」 小澤 幹雄（音楽ジャーナリスト） ・分科会 15 部会
第 41 回	・H.11.11.6 ・清泉小学校 ・参加 462 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・公開授業 18 クラス 10 教科 ・講演「子どもが求め追究する総合学習」 平野 朝久（東京学芸大学教授） ・分科会 15 部会

第 42 回	・H.12.11.11 ・桐光学園小学校 ・参加 352 名 ・主題 「21 世紀における私学教育の実践」	・講演「教育活動における必然・偶然・自然」 倉澤 栄吉（元文部省視学官、東京教育大学教授、日本国語教育学会会長） ・分科会 15 部会
第 43 回	・H.13.11.17 ・カリタス小学校 ・参加 437 名 ・主題 「21 世紀における私学教育の実践」	・公開授業 18 クラス 9 教科 ・分科会 15 部会
第 44 回	・H.14.11.9 ・湘南白百合学園小学校 ・参加 411 名 ・主題 「21 世紀における私学教育の実践」	・講演「昔ばなしが語る子どもの姿」 小澤 俊夫（筑波大学名誉教授） ・分科会 15 部会
第 45 回	・H.15.11.15 ・相模女子大学小学部 ・参加 432 名 ・主題 「21 世紀における私学教育の実践」	・公開授業 12 クラス 12 教科 ・講演「小学部の教育研究と公開授業について」 澄井 俊哉（相模女子大学小学部教諭） 彦根 道代（同上） ・分科会 15 部会
第 46 回	・H.16.11.20 ・聖ヨゼフ学園小学校 ・参加 391 名 ・主題 「21 世紀における私学教育の実践」	・講演「現代の子ども達と向き合っている教師像」 末盛千枝子（(株)すえもりブックス代表、国際児童図書評議会国際理事） ・分科会 15 部会
第 47 回	・H.17.11.19 ・関東学院小学校 ・参加 455 名 ・主題 「21 世紀における私学教育の実践」	・講演「強いだけでは勝てない」 春口 廣（関東学院大学ラグビー部監督） ・分科会 15 部会
第 48 回	・H.18.11.18 ・横浜英和小学校 ・参加 493 名 ・主題 「21 世紀における私学教育の実践」	・講演「『待つ』ということ ー内発性をどう育てるかー」 安積 力也（恵泉女学園中・高等学校校長） ・分科会 15 部会
第 49 回	・H.19.11.10 ・森村学園初等部 ・参加 467 名 ・主題 「21 世紀における私学教育の実践」	・講演「出会うことから教育は始まる」 津守 眞（お茶の水女子大学名誉教授、愛育養護学校顧問） ・分科会 15 部会

第 50 回	・ H.20.11.15 ・ 関東学院六浦小学校 ・ 参加 472 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・ 講演「貧しさが与えてくれること」 荒川 朋子（アジア学院副校長） ・ 分科会 15 部会
第 51 回	・ H.21.11.17 ・ 横浜雙葉小学校 ・ 参加 495 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・ 講演「授業における子どもの見方、考え方」 ー協同的学びを目指してー 小林 宏己（早稲田大学教育・総合科学 学術院教授） ・ 分科会 15 部会
第 52 回	・ H.22.11.13 ・ 清泉小学校 ・ 参加 600 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・ 公開授業 18 クラス 10 教科 ・ 講演「私立小学校の教師 その使命と生きがい」 町田 健一（国際基督教大学教授） ・ 分科会 15 部会



〈関東地区教員研修会、於 横浜雙葉小学校にて H 21 年 11 月〉

(7) 西日本地区教員研修会

回	日時／会場／参加者／主題	内 容
第 34 回	・ H.4.5.22 ・ 天理小学校 ・ 参加 668 名 ・ 主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・ 永年勤続教員表彰 (9 名) ・ 公開授業 20 クラス 10 教科 ・ 分科会 13 部会 - 国語、社会、算数、理科、生活科、音楽、図工、保健体育、家庭科、外国語、学級経営、視聴覚、学校図書館
第 35 回	・ H.5.5.28 ・ 関西創価小学校 ・ 参加 696 名 ・ 主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・ 永年勤続教員表彰 (12 名) ・ 研究発表 「児童を 21 世紀の平和を守る担い手に」 - ー体験・学習・表現の活動を通してー - 原田 博文 (関西創価・教諭) 「音楽を育てる“思いやりの心”」 - ーアルジェニック・プラスバンドとピクトワール合唱団の活動紹介ー - 田口 秀男 (関西創価・教諭) ・ 講演「子どもが創る文化」 - ーシルクロードの旅からー - 藤本浩之輔 (京都大学教授) ・ 分科会 13 部会
第 36 回	・ H.6.5.27 ・ ノートルダム学院小学校 ・ 参加 707 名 ・ 主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・ 永年勤続教員表彰 (6 名) ・ 研究発表「山の家学習について」 - ノートルダム学院小学校・山の家学習委員会 ・ 分科会 13 部会
第 37 回	・ H.7.5.25 ・ 城南短大附属小学校 ・ 参加 711 名 ・ 主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・ 永年勤続教員表彰 (6 名) ・ 公開授業 12 クラス 9 教科 ・ 実践報告 ・ 分科会 13 部会
第 38 回	・ H.8.5.24 ・ 甲南小学校 ・ 参加 715 名 ・ 主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・ 永年勤続教員表彰 (9 名) ・ 公開授業 12 クラス 9 教科 ・ 講演「毎日の生活から学ぶこと」 - 大森 一樹 (映画監督) ・ 分科会 13 部会
第 39 回	・ H.9.5.30 ・ PL 学園小学校 ・ 参加 694 名 ・ 主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・ 永年勤続教員表彰 (11 名) ・ 公開授業 9 クラス 7 教科 ・ 講演「日本の昨日、今日、明日」 - 黒田 清 (ジャーナリスト) ・ 分科会 13 部会

第40回	・H10.5.26 ・帝塚山小学校 ・参加 690 名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・永年勤続教員表彰 (9 名) ・公開授業 13 クラス 9 教科 ・講演「自然科学の潮流」 ーマクロからミクロそしてマクロへの回帰ー 金森順次郎 (ジャーナリスト) ・分科会 13 部会
第41回	・H11.5.28 ・追手門学院小学校 ・参加 734 名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・永年勤続教員表彰 (12 名) ・公開授業 15 クラス 11 教科 ・講演「自由に生きる」 安藤 忠雄 (東京大学教授・建築家) ・分科会 13 部会
第42回	・H12.5.26 ・ノートルダム学院小学校 ・参加 754 名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・永年勤続教員表彰 (7 名) ・公開授業 24 クラス 10 教科 ・講演「総合的学習の基礎・基本と生きる力」 梶田 勲一 (京都ノートルダム女子大学学長) ・パネルディスカッション 「総合的学習はいかにすれば可能か」 川人 公一 (追手門学院・校長) 善野八千子 (堺市立美木多小学校教頭) 松本 浩二 (ノートルダム学院・教頭) 加藤 明 (京都ノートルダム女子大学教授) ・分科会 13 部会
第43回	・H13.5.25 ・雲雀丘学園小学校 ・参加 763 名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・永年勤続教員表彰 (10 名) ・公開授業 22 クラス 14 教科 ・講演「時代の気分を探る」 佐藤友美子 (サントリー不易流行研究所・部長) ・分科会 13 部会 + 「総合的な学習」準備部会
第44回	・H14.5.24 ・帝塚山学院小学校 ・参加 752 名 ・主題 「21 世紀における私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰 (10 名) ・公開授業 18 クラス 13 教科 ・講演「茶の湯が伝えるもの」 ー利休七ヶ条を中心としてー 千 宗守 (武者小路千家 第14代家元) ・分科会 14 部会
第45回	・H15.5.23 ・京都女子大学附属小学校 ・参加 760 名 ・主題 「21 世紀における私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰 (9 名) ・公開授業 12 クラス 10 教科 ・講演「宮沢賢治と金子みすゞ」 岡田 純也 (京都女子大学教授) ・分科会 14 部会
第46回	・H16.5.28 ・大阪信愛女学院小学校 ・参加 778 名 ・主題 「21 世紀における私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰 (9 名) ・マリンバ演奏 種谷 睦子 (大阪信愛女学院短期大学教授) ・公開授業 18 クラス 12 教科 ・分科会 14 部会

第 47 回	・H17.5.27 ・天理小学校 ・参加 812 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰（13 名） ・公開授業 18 クラス 12 教科 ・講演「遺伝子 ON にして可能性をのぼす」 村上 和雄（国際科学振興財団パイオ研 究所所長） ・分科会 14 部会
第 48 回	・H18.5.25 ・百合学院小学校 ・参加 827 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰（9 名） ・公開授業 12 クラス 10 教科 ・講演「子どもに命の大切さを私は、こう伝えて いる」 日野原重明（聖路加国際病院理事長・名 誉院長） ・分科会 13 部会（生活科と総合的な学習が合流）
第 49 回	・H19.5.25 ・箕面自由学園小学校 ・参加 883 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰（11 名） ・公開授業 12 クラス 12 教科 ・講演「これからの私立学校のあり方」 ー建学の精神をどう具現化するかー 平松 一夫（関西学院大学学長） ・分科会 13 部会
第 50 回	・H20.5.23 ・聖母学院小学校 ・参加 972 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰（8 名） ・公開授業 21 クラス 13 教科 ・講演「国際協力活動の取り組みと現状」 柳瀬 房子（難民を助ける会理事長） ・分科会 13 部会
第 51 回	・H21.5.28 ・追手門学院小学校	新型インフルエンザの拡大を危惧し、開催中止
第 52 回	・H22.5.28 ・小林聖心女子学院小学校 ・参加 991 名 ・主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・永年勤続教員表彰（7 名） ・公開授業 19 クラス 12 教科 ・講演「地球のささやきを聴くー環境教育への提言」 龍村 仁（映画監督） ・分科会 13 部会

(8) 九州地区教員研修会

回	日時／会場／参加者／主題	内 容
第17回	・H.4.10.23～24 ・萩光塩学院小学校 ・参加 189名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・テーマ ー学ぶ喜びを知る子どもの育成ー ・公開授業 8クラス 8教科 ・分科会 9部会 国語、社会、算数、理科、生活科、音楽、図工、保健体育、英語
第18回	・H.5.10.22～23 ・福岡雙葉小学校 ・参加 190名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・公開授業 11クラス 9教科 ・講演「最近の子どもたちの状況と小学校教育の課題」 秦 政春（福岡教育大学教授） ・分科会 9部会
第19回	・H.6.10.21～22 ・聖マリア学院小学校 ・参加 155名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・テーマ ー子どもの意欲を高める授業をめざしてー ・公開授業 10クラス 9教科 ・分科会 9部会
第20回	・H.7.10.20～21 ・福岡海星女子学院附属小学校 ・参加 164名 ・主題 「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・テーマ ー自ら考え、学び、行動する子どもの育成ー ・公開授業 11クラス 9教科 ・分科会 9部会
第21回	・H.8.10.25～26 ・長崎南山小学校 ・参加 163名 ・主題「新しい世紀をめざす私学教育の課題」	・テーマ ー自ら考え、学び、行動する子どもの育成ー ・公開授業 9クラス 9教科 ・分科会 9部会
第22回	・H.9.10.24～25 ・明治学園小学校 ・参加 155名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・テーマ ー学ぶ喜びを知る子どもの育成ー ・公開授業 9クラス 9教科 ・講演「今、私たちは、宇宙人へ進化をはじめた」 菊山 紀彦（宇宙開発事業団・特任参事） ・分科会 9部会
第23回	・H.10.10.23～24 ・長崎精道小学校 精道三川台小学校 ・参加 175名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、学び、行動する子供の育成ー ・公開授業 9クラス 9教科 ・分科会 9部会
第24回	・H.11.10.22～23 ・萩光塩学院小学校 ・参加 163名 ・主題 「21世紀における私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、学び、行動する子供の育成ー ・公開授業 8クラス 7教科 ・分科会 9部会

第 25 回	・H12.10.13～14 ・福岡雙葉小学校 ・参加 164名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、学び、行動する子供の育成ー ・講演「私の地域開発の夢 ～キャナルシティ博多～」 榎本 一彦（福岡地所株式会社代表取締役社長） ・公開授業 8クラス 7教科 ・分科会 9部会
第 26 回	・H13.10.26～27 ・聖マリア学院小学校 ・参加 153名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、学び、行動する子供の育成ー ・公開授業 9クラス 9教科 ・分科会 9部会
第 27 回	・H14.10.25～26 ・福岡海星女子学院附属小学校 ・参加 156名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、学び、行動する子供の育成ー ・公開授業 11クラス 9教科 ・分科会 9部会
第 28 回	・H15.10.17～18 ・長崎南山小学校 ・参加 160名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、学び、行動する子供の育成ー ・公開授業 9クラス 9教科 ・分科会 9部会
第 29 回	・H16.10.15～16 ・明治学園小学校 ・参加 161名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・講演「遺伝子ONにして可能性をのぼす」 村上 和雄（筑波大学名誉教授、国際科 学振興財団バイオ研究所長） ・公開授業 18クラス 11教科 ・分科会 9部会
第 30 回	・H17.10.14～15 ・長崎精道小学校 精道三川台小学校 ・参加 177名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・テーマ ー自ら考え、学び、行動する子供の育成ー ・公開授業 9クラス 9教科 ・分科会 9部会
第 31 回	・H18.10.27～28 ・福岡雙葉小学校 ・参加 185名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・講演「潮流を読む」 ～キャッチャー（女房役）からの視点～ 山倉 和博（元読売巨人軍捕手・コーチ） ・公開授業 13クラス 9教科 ・分科会 9部会
第 32 回	・H19.10.19～20 ・聖マリア学院小学校 ・参加 194名 ・主題 「21世紀における 私学教育の実践」	・講演「理想的教育者像を求めて」 山内 清海（長崎純心大学教授） ・公開授業 9クラス 9教科 ・分科会 9部会

第 33 回	・ H20.10.17 ～ 18 ・ 沖縄カトリック小学校 ・ 参加 193 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・ 公開授業 18 クラス 10 教科 ・ 分科会 9 部会
第 34 回	・ H21.10.16 ～ 17 ・ 福岡海星女子学院附属小学校 ・ 参加 183 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・ テーマ ー自ら考え、学び、行動する子供の育成ー ・ 講演「注意欠陥多動性障害 (ADHD) 児の治療 プログラム」 山下裕史朗 (久留米大学医学部小児科学 教室准教授) ・ 公開授業 11 クラス 9 教科 ・ 分科会 9 部会
第 35 回	・ H22.10.15 ～ 16 ・ 長崎南山小学校 ・ 参加 168 名 ・ 主題 「21 世紀における 私学教育の実践」	・ テーマ ー自ら考え、学び、行動する子供の育成ー ・ 公開授業 9 クラス 9 教科 ・ 分科会 9 部会



〈公開授業、於 福岡海星女子学院附属小学校にて、H 21 年 10 月〉

4. 歴代役員

平成4年度（1992年度）

会長	人見楠郎（昭和女子大学附属昭和）
副会長	橋本正礼（東京文化）、松本尚（鎌倉女子大学）、土井信男（雲雀丘学園）、中村雅胤（八戸聖ウルスラ学院）、横澤澄子（明治学園）
常任理事	三浦貞造（清明学園）、山本義秋（青山学院）、依田好照（明星学園）、石川謹悦（宝仙学園）、長谷川良昭（大乘淑徳学園）、武田博信（トキワ松学園）、伊藤譲（東京創価）、伴憲三郎（東京女学館）
理事	天野昭一（捜真）、佐々木道彦（精華）、坂上敏子（城南短大附属）、鈴木文雄（天理）、和田実（箕面自由学園）、目黒富久子（聖ウルスラ学院）、五十嵐廣（聖マリア学院）
監事	西村知（学習院）、入子祐三（相模女子大学）

平成5年度（1993年度）

会長	人見楠郎
副会長	橋本正礼、天野昭一、土井信男、中村雅胤、横澤澄子
常任理事	三浦貞造、山本義秋、依田好照、石川謹悦、長谷川良昭、武田博信、伊藤譲、伴憲三郎
理事	佐々木道彦、杉山敦（成美学園）、坂上敏子、鈴木文雄、和田実、目黒富久子、五十嵐廣
監事	西村知、入子祐三

平成6年度（1994年度）

会長	人見楠郎
副会長	橋本正礼、天野昭一、坂上敏子、中村雅胤、五十嵐廣
常任理事	三浦貞造、依田好照、石川謹悦、長谷川良昭、武田博信、伴憲三郎、園田達彦（聖徳学園）、中川真弥（慶應義塾）
理事	佐々木道彦、杉山敦、和田実、佐野慶三郎（甲南）、吉田武浩（奈良育英）、川田紀美子（桜の聖母学院）、大槇田鶴子（長崎南山）
監事	西村知、入子祐三

平成7年度（1995年度）

会長	人見楠郎
副会長	長谷川良昭、佐々木道彦、坂上敏子、中村雅胤、五十嵐廣
常任理事	依田好照、石川謹悦、武田博信、伴憲三郎、園田達彦、中川真弥、大森隆實（目黒星美学園）、矢崎昭盛（成城学園）
理事	杉山敦、入子祐三、佐野慶三郎、吉田武浩、阪口治、川田紀美子、大槇田鶴子
監事	尾作信昭（聖学院）、高橋邦明（森村学園）

平成8年度（1996年度）

会長	人見楠郎
副会長	長谷川良昭、佐々木道彦、坂上敏子、相川幸子（盛岡白百合学園）、中島紀子（長崎精道）
常任理事	依田好照、武田博信、伴憲三郎、園田達彦、中川真弥、大森隆實、矢崎昭盛、川嶋優（学習院）
理事	杉山敦、入子祐三、佐野慶三郎、阪口治、渡辺昌嗣（光華）、安藤芳（聖ドミニコ学院）、渡辺治人（精道三川台）
監事	尾作信昭、高橋邦明

平成9年度（1997年度）

会長	人見楠郎
副会長	長谷川良昭、佐々木道彦、坂上敏子、安藤芳、中島紀子
常任理事	依田好照、武田博信、伴憲三郎、園田達彦、中川真弥、大森隆實、矢崎昭盛、川嶋優
理事	杉山敦、入子祐三、阪口治、渡辺昌嗣、堀俊一（帝塚山）、馬目さだ子（仙台白百合学園）、渡辺治人
監事	尾作信昭、高橋邦明

平成 10 年度（1998 年度）

会長	人見楠郎
副会長	長谷川良昭、佐々木道彦、坂上敏子、安藤芳、渡辺治人
常任理事	武田博信、伴憲三郎、園田達彦、中川真弥、大森隆實、佐野康廣（国立音楽大学附属）、矢野淑郎（文教大学付属）、浜口一郎（成蹊）
理事	高橋邦明、佐藤勇（捜真）、阪口治、渡辺昌嗣、堀俊一、馬目さだ子、村岡正則（長崎南山）
監事	尾作信昭、秦和之（湘南学園）

平成 11 年度（1999 年度）

顧問	人見楠郎
会長	長谷川良昭
副会長	武田博信、佐々木道彦、坂上敏子、馬目さだ子、渡辺治人
常任理事	園田達彦、大森隆實、佐野康廣、矢野淑郎、浜口一郎、平野吉三（啓明学園）、清水正人（明星）、石橋恵二（武蔵野東）
理事	高橋邦明、佐藤勇、阪口治、堀俊一、町田秀夫（雲雀丘学園）、安藤芳、村岡正則
監事	原俊夫（清明学園）、瀧川一輝（湘南学園）

平成 12 年度（2000 年度）

顧問	人見楠郎
会長	長谷川良昭
副会長	武田博信、佐々木道彦、坂上敏子、馬目さだ子、村岡正則
常任理事	園田達彦、大森隆實、佐野康廣、矢野淑郎、平野吉三、清水正人、石橋恵二、薩日内信一（宝仙学園）
理事	高橋邦明、佐藤勇、阪口治、堀俊一、町田秀夫、安藤芳、小澤京子（福岡海星女子学院附属）
監事	原俊夫、瀧川一輝

平成 13 年度（2001 年度）

会長	長谷川良昭
副会長	武田博信、佐々木道彦、坂上敏子、馬目さだ子、村岡正則
常任理事	園田達彦、大森隆實、佐野康廣、矢野淑郎、平野吉三、清水正人、石橋恵二、薩日内信一
理事	高橋邦明、佐藤勇、阪口治、堀俊一、町田秀夫、相川幸子、小澤京子
監事	原俊夫、瀧川一輝

平成 14 年度（2002 年度）

会長	平野吉三
副会長	大森隆實、佐々木道彦、坂上敏子、馬目さだ子、小澤京子
常任理事	園田達彦、佐野康廣、矢野淑郎、清水正人、石橋恵二、斉藤進（学習院）、竹下昌之（成城学園）、福田景三郎（東京文化）
理事	高橋邦明、佐藤勇、阪口治、堀俊一、町田秀夫、相川幸子、金森美子（福岡雙葉）
監事	寺澤東彦（東洋英和女学院）、瀧川一輝

平成 15 年度（2003 年度）

会長	平野吉三
副会長	大森隆實、佐々木道彦、堀俊一、山下星子（桜の聖母学院）、入江純子（福岡海星女子学院附属）
常任理事	園田達彦、矢野淑郎、清水正人、石橋恵二、斉藤進、竹下昌之、福田景三郎、岡崎忠彦（成蹊）
理事	高橋邦明、佐藤勇、阪口治、伊勢田善昭（追手門学院）、荒井義一（甲南）、安藤芳、金森美子
監事	寺澤東彦、瀧川一輝

平成 16 年度（2004 年度）

会長	平野吉三
副会長	大森隆實、佐々木道彦、堀俊一、山下星子、近藤明（福岡雙葉）
常任理事	園田達彦、矢野淑郎、清水正人、石橋恵二、斉藤進、竹下昌之、岡崎忠彦、江口雄輔（昭和女子大学附属昭和）
理事	高橋邦明、佐藤勇、伊勢田善昭、荒井義一、山本卓（帝塚山学院）、安藤芳、鶴野篤子（明治学園）
監事	寺澤東彦、中尾正信（聖マリア）

平成 17 年度（2005 年度）

会長	平野吉三
副会長	大森隆實、佐々木道彦、堀俊一、山下星子、近藤明
常任理事	園田達彦、矢野淑郎、石橋恵二、斉藤進、竹下昌之、岡崎忠彦、江口雄輔、福田景三郎
理事	佐藤勇、中尾正信、伊勢田善昭、山本卓、岩崎優（雲雀丘学園）、安藤芳、鶴野篤子
監事	寺澤東彦、塩田征雄（横須賀学院）

平成 18 年度（2006 年度）

会長	平野吉三
副会長	園田達彦、佐藤勇、堀俊一、山下星子、鶴野篤子
常任理事	矢野淑郎、石橋恵二、竹下昌之、岡崎忠彦、福田景三郎、寺澤東彦、大野碧（聖学院）、清水良一（立教女学院）、児玉秀夫（淑徳）
理事	中尾正信、木下邦太朗（相模女子大学）、山本卓、岩崎優、原誠治（箕面自由学園）、安藤芳、岩永眞智子（聖マリア学院）
監事	功力俊文（日本女子大学附属豊明）、塩田征雄

平成 19 年度（2007 年度）

会長	平野吉三
副会長	園田達彦、佐藤勇、堀俊一、関谷秀雄（盛岡白百合学園）、松川明子（明治学園）
常任理事	石橋恵二、竹下昌之、福田景三郎、寺澤東彦、清水良一、児玉秀夫、中村弘之（自由学園）、金納善明（成蹊）
理事	中尾正信、塩田征雄、岩崎優、原誠治、津田克彦（追手門学園）、下地一市（札幌三育）、岩永眞智子
監事	功力俊文、馬目さだ子（函嶺白百合学園）

平成 20 年度（2008 年度）

会長	平野吉三
副会長	石橋恵二、佐藤勇、堀俊一、関谷秀雄、岩永眞智子
常任理事	園田達彦、竹下昌之、清水良一、児玉秀夫、中村弘之、金納善明、沖田侃（東横学園）、加藤三明（慶應義塾）、和智紀朗（宝仙学園）
理事	中尾正信、塩田征雄、岩崎優、原誠治、津田克彦、下地一市、牧山涼子（長崎精道）
監事	功力俊文、馬目さだ子

平成 21 年度（2009 年度）

会長	平野吉三
副会長	清水良一、佐藤勇、堀俊一、下地一市、岩永眞智子
常任理事	竹下昌之、児玉秀夫、中村弘之、金納善明、沖田侃、加藤三明、和智紀朗、飛田浩昭（青山学院）
理事	中尾正信、塩田征雄、岩崎優、原誠治、津田克彦、青木千枝子（仙台白百合学園）、牧山涼子
監事	功力俊文、馬目さだ子

平成 22 年度（2010 年度）

会長	平野吉三
副会長	清水良一、中尾正信、原誠治、下地一市、牧山涼子
常任理事	児玉秀夫、中村弘之、金納善明、加藤三明、和智紀朗、矢崎昭盛（国本）、進藤洋輔（文教大学付属）、村瀬聰子（聖学院）
理事	塩田征雄、荒川健（横浜雙葉）、岩崎優、津田克彦、田中範子（ノートルダム学院）青木千枝子、山田耕司（福岡海星女子学院附属）
監事	功力俊文、馬目さだ子

平成 23 年度（2011 年度）

会長	清水良一
副会長	矢崎昭盛、塩田征雄、原誠治、青木千枝子、牧山涼子
常任理事	児玉秀夫、中村弘之、金納善明、加藤三明、和智紀朗、進藤洋輔、村瀬聰子、横澤敬蔵（国立音楽大学附属）
理事	荒川健、斎藤滋（桐光学園）、津田克彦、田中範子、大谷彰良（甲南）、伊藤宣子（聖ウルスラ学院英智）、山田耕司
監事	菅野秀二（明星）、馬目さだ子

5. 歴代事務局長

平成 24 年 3 月 1 日現在

	氏 名	期 間	備 考
1 代	濱 野 重 郎	昭和 16 年 ～昭和 22 年	会長兼任
2 代	清 水 辛	昭和 22 年 ～	中高連事務局長兼任
3 代	酒 寄 瑛 男	昭和 年 ～昭和 27 年	
4 代	池 上 隆 章	昭和 28 年 ～昭和 37 年 3 月	
5 代	山 極 武 利	昭和 37 年 4 月 ～昭和 46 年 9 月	
6 代	原 秀 二	昭和 47 年 4 月 ～昭和 57 年 1 月	
7 代	中 川 兼 雄	昭和 57 年 4 月 ～昭和 61 年 5 月	
8 代	河 井 和 雄	昭和 61 年 6 月 ～平成 14 年 3 月	
9 代	上 島 武	平成 14 年 4 月 ～平成 16 年 3 月	前 研修福祉会事務局長
10 代	木 村 良 子	平成 16 年 4 月 ～平成 20 年 3 月	前 明治学院東村山中高事務次長
11 代	福 田 景三郎	平成 20 年 4 月 ～平成 21 年 2 月	前 東京文化小学校長 前 日本私立小学校連合会常任理事
12 代	園 田 達 彦	平成 21 年 3 月 ～	前 聖徳学園小学校長 元 日本私立小学校連合会副会長

IV. 資 料

1. 小学校数と児童数の推移

年 度	学 校 数			児 童 数		
	国公立 総数	私立のみ	%	国公立 総数	私立のみ	%
平成 4 ('92)	23,979	170	0.71	8,947,226	65,946	0.74
平成 5 ('93)	23,958	171	0.71	8,768,881	66,975	0.76
平成 6 ('94)	23,941	172	0.72	8,582,871	67,609	0.79
平成 7 ('95)	23,893	173	0.72	8,370,246	68,187	0.81
平成 8 ('96)	23,857	174	0.73	8,105,629	68,361	0.84
平成 9 ('97)	23,775	171	0.72	7,855,387	68,136	0.87
平成 10 ('98)	23,715	171	0.72	7,663,533	68,036	0.89
平成 11 ('99)	23,639	171	0.72	7,500,317	67,898	0.91
平成 12 ('00)	23,573	172	0.73	7,366,079	67,526	0.92
平成 13 ('01)	23,450	172	0.73	7,296,920	67,227	0.92
平成 14 ('02)	23,316	175	0.75	7,239,327	67,377	0.93
平成 15 ('03)	23,169	179	0.77	7,226,910	68,063	0.94
平成 16 ('04)	22,989	187	0.81	7,200,933	69,300	0.96
平成 17 ('05)	22,838	194	0.85	7,197,458	70,950	0.99
平成 18 ('06)	22,533	198	0.88	7,187,417	73,070	1.02
平成 19 ('07)	22,366	200	0.89	7,132,874	74,796	1.05
平成 20 ('08)	22,171	206	0.93	7,121,781	76,904	1.08
平成 21 ('09)	21,970	210	0.96	7,063,606	78,177	1.11
平成 22 ('10)	21,730	213	0.98	6,993,376	79,042	1.13

文部科学省統計データより抜粋

2. 私立小学校の地区別・宗教別学校数と児童数（加盟校対象）

地区名	学校数	カトリック	プロテスタント	仏教	その他	無宗教	児童数
北海道・東北	9	7	2				1,626
東京	54	12	10	3		29	26,592
関東	46	10	12	2		22	17,616
西日本	57	15	6	7	3	26	23,230
九州	13	9	2	1		1	3,535
全国	179	53	32	13	3	78	72,599

平成 23 年 5 月 1 日現在



3. 年度別研修会一覧

全国教員夏季研修会

回数	年度	開催期日	会 場	担当地区
37	H. 4	1992. 8. 19 ～ 21	大阪ガーデンパレス、他	西日本
38	5	1993. 8. 19 ～ 21	アルカディア市ヶ谷（私学会館）、他	東京
39	6	1994. 8. 18 ～ 20	西熱海ホテル	関東
—	7	1995. 8. 21 ～ 23	阪神・淡路大震災のため中止、次年度に延期	西日本
40	8	1996. 8. 19 ～ 21	ホテルオークラ神戸、他	西日本
41	9	1997. 8. 19 ～ 21	アルカディア市ヶ谷（私学会館）、他	東京
42	10	1998. 8. 18 ～ 20	西熱海ホテル	関東
43	11	1999. 8. 19 ～ 21	大阪ガーデンパレス、他	西日本
44	12	2000. 8. 17 ～ 19	アルカディア市ヶ谷（私学会館）、他	東京
45	13	2001. 8. 20 ～ 22	新横浜プリンスホテル、他	関東
46	14	2002. 8. 19 ～ 21	都ホテル大阪、他	西日本
47	15	2003. 8. 19 ～ 21	アルカディア市ヶ谷（私学会館）、他	東京
48	16	2004. 8. 18 ～ 20	新横浜プリンスホテル、他	関東
49	17	2005. 8. 22 ～ 24	都ホテル大阪、他	西日本
50	18	2006. 8. 22 ～ 24	明治学院大学白金校舎、他	東京
51	19	2007. 8. 21 ～ 23	新横浜プリンスホテル、他	関東
52	20	2008. 8. 20 ～ 22	神戸ポートピアホテル、他	西日本
53	21	2009. 8. 18 ～ 20	アルカディア市ヶ谷（私学会館）、他	東京
54	22	2010. 8. 17 ～ 19	新横浜プリンスホテル、他	関東
55	23	2011. 8. 17 ～ 19	グランドプリンスホテル京都、他	西日本

全国教頭研修会

回数	年度	開催期日	会 場	担当地区
17	H. 4	1992. 8. 18・19	宝塚グランドホテル	西日本
18	5	1993. 8. 18・19	新宿ワシントンホテル	東京
19	6	1994. 8. 17・18	新横浜プリンスホテル	関東
—	7	1995. 8. 20・21	阪神・淡路大震災のため中止、次年度に延期	西日本
20	8	1996. 8. 18・19	ホテルオークラ神戸	西日本
21	9	1997. 8. 18・19	アルカディア市ヶ谷（私学会館）	東京
22	10	1998. 8. 17・18	鎌倉パークホテル	関東
23	11	1999. 8. 18・19	平安会館（京都）	西日本
24	12	2000. 8. 19・20	アルカディア市ヶ谷（私学会館）	東京
25	13	2001. 8. 22・23	新横浜プリンスホテル	関東
26	14	2002. 8. 21・22	都ホテル大阪	西日本
27	15	2003. 8. 21・22	アルカディア市ヶ谷（私学会館）	東京
28	16	2004. 8. 20・21	新横浜プリンスホテル	関東
29	17	2005. 8. 24・25	都ホテル大阪	西日本
30	18	2006. 8. 24・25	ラディソン都ホテル東京	東京
31	19	2007. 8. 23・24	新横浜プリンスホテル	関東
32	20	2008. 8. 19・20	花やしき浮舟園（宇治）	西日本
33	21	2009. 8. 17・18	アルカディア市ヶ谷（私学会館）	東京
34	22	2010. 8. 19・20	横浜国際ホテル	関東
35	23	2011. 8. 16・17	グランドプリンスホテル京都	西日本

全国幹部研修会

回数	年度	開催期日	会 場	担当地区
37	H. 4	1993. 1. 21 ～ 23	ホテルはまつ（郡山）	東北
38	5	1994. 1. 20 ～ 22	九州厚生年金会館ホテル（小倉）	九州
39	6	1995. 1. 19 ～ 21	アルカディア市ヶ谷（私学会館）	東京
40	7	1996. 1. 18 ～ 20	ルビノ京都堀川	西日本
41	8	1997. 1. 16 ～ 18	ザホテルヨコハマ	関東
42	9	1998. 1. 22 ～ 24	札幌ガーデンパレス	東北
43	10	1999. 1. 21 ～ 23	パシフィックホテル沖縄	九州
44	11	2000. 1. 20 ～ 22	アルカディア市ヶ谷（私学会館）	東京
45	12	2001. 1. 18 ～ 20	広島ガーデンパレス	西日本
46	13	2002. 1. 17 ～ 19	新横浜プリンスホテル	関東
47	14	2003. 1. 16 ～ 18	ホテルはまつ（郡山）	東北
48	15	2004. 1. 15 ～ 17	西鉄グラントホテル（福岡）	九州
49	16	2005. 1. 20 ～ 22	アルカディア市ヶ谷（私学会館）	東京
50	17	2006. 1. 19 ～ 21	都ホテル大阪	西日本
51	18	2007. 1. 18 ～ 20	新横浜プリンスホテル	関東
52	19	2008. 1. 17 ～ 19	ホテルニュー長崎	九州
53	20	2009. 1. 22 ～ 24	アルカディア市ヶ谷（私学会館）	東京
54	21	2010. 1. 21 ～ 23	大阪ガーデンパレス	西日本
55	22	2011. 1. 20 ～ 22	新横浜プリンスホテル	関東
56	23	2012. 1. 19 ～ 21	アルカディア市ヶ谷（私学会館）	東京

北海道・東北地区教員研修会

回数	年度	開催期日	会 場	備 考
22	H. 4	1992. 10. 23	仙台ガーデンパレス	
23	5	1993. 10. 23	会津若松ザベリオ学園小学校	3 回目
24	6	1994. 10. 28	仙台ガーデンパレス	
25	7	1995. 10. 20	盛岡白百合学園小学校	3 回目
26	8	1996. 10. 18	仙台ガーデンパレス	
27	9	1997. 10. 17	聖ウルスラ学院小学校	4 回目
28	10	1998. 10. 16	仙台ガーデンパレス	
29	11	1999. 10. 15	仙台白百合学園小学校	3 回目
30	12	2000. 10. 13	仙台ガーデンパレス	
31	13	2001. 10. 19	郡山ザベリオ学園小学校	4 回目
32	14	2002. 10. 18	桜の聖母学院小学校	3 回目
33	15	2003. 10. 17	盛岡白百合学園小学校	4 回目
34	16	2004. 10. 22	聖ウルスラ学院小学校	5 回目
35	17	2005. 10. 14・15	聖ドミニコ学院小学校、他	3 回目
36	18	2006. 10. 13	仙台白百合学園小学校	4 回目
37	19	2007. 10. 12	会津若松ザベリオ学園小学校	4 回目
38	20	2008. 10. 17	郡山ザベリオ学園小学校	5 回目
39	21	2009. 10. 14	桜の聖母学院小学校	4 回目
40	22	2010. 10. 15	盛岡白百合学園小学校	5 回目
41	23	2011. 10. 14	聖ウルスラ学院英智小・中学校	東日本大震災のため中止

東京地区教員研修会

回数	年度	開催期日	会 場	備 考
29	H. 4	1992. 6. 5	慶應義塾幼稚舎	3回目
30	5	1993. 6. 4	玉川学園小学部	2回目
31	6	1994. 6. 3	昭和女子大学附属昭和小学校	3回目
32	7	1995. 6. 2	武蔵野東小学校	2回目
33	8	1996. 6. 7	白百合学園小学校	2回目
34	9	1997. 6. 6	成蹊小学校	3回目
35	10	1998. 6. 5	成城学園初等学校	3回目
36	11	1999. 6. 4	立教小学校	4回目
37	12	2000. 6. 2	日本女子大学附属豊明小学校	2回目
38	13	2001. 6. 8	暁星小学校	3回目
39	14	2002. 6. 7	トキワ松学園小学校・目黒星美学園小学校	
40	15	2003. 6. 6	東京創価小学校	2回目
41	16	2004. 6. 4	明星小学校	3回目
42	17	2005. 6. 3	川村小学校	
43	18	2006. 6. 2	玉川学園小学部	3回目
44	19	2007. 6. 1	慶應義塾幼稚舎	4回目
45	20	2008. 6. 6	成城学園初等学校	4回目
46	21	2009. 6. 5	昭和女子大学附属昭和小学校	4回目
47	22	2010. 6. 4	学習院初等科	
48	23	2011. 6. 3	成蹊小学校	4回目

関東地区教員研修会

回数	年度	開催期日	会 場	備 考
34	H. 4	1992. 11. 14	カリタス小学校	2 回目
35	5	1993. 11. 13	関東学院六浦小学校	3 回目
36	6	1994. 11. 12	森村学園初等部	2 回目
37	7	1995. 11. 11	聖セシリア小学校	
38	8	1996. 11. 9	横浜英和小学校	4 回目
39	9	1997. 11. 8	湘南白百合学園小学校	3 回目
40	10	1998. 11. 14	横浜雙葉小学校	4 回目
41	11	1999. 11. 6	清泉小学校	4 回目
42	12	2000. 11. 11	桐光学園小学校	
43	13	2001. 11. 17	カリタス小学校	3 回目
44	14	2002. 11. 9	湘南白百合学園小学校	4 回目
45	15	2003. 11. 15	相模女子大学小学部	2 回目
46	16	2004. 11. 20	聖ヨゼフ学園小学校	3 回目
47	17	2005. 11. 19	関東学院小学校	2 回目
48	18	2006. 11. 18	横浜英和小学校	5 回目
49	19	2007. 11. 10	森村学園初等部	3 回目
50	20	2008. 11. 15	関東学院六浦小学校	4 回目
51	21	2009. 11. 20	横浜雙葉小学校	5 回目
52	22	2010. 11. 13	清泉小学校	5 回目
53	23	2011. 11. 19	洗足学園小学校	5 回目

西日本地区教員研修会

回数	年度	開催期日	会 場	備 考
34	H. 4	1992. 5. 22	天理小学校	2 回目
35	5	1993. 5. 28	関西創価小学校	
36	6	1994. 5. 27	ノートルダム学院小学校	3 回目
37	7	1995. 5. 25	城南短大附属小学校	
38	8	1996. 5. 24	甲南小学校	3 回目
39	9	1997. 5. 30	ピーエル学園小学校	
40	10	1998. 5. 26	帝塚山小学校	3 回目
41	11	1999. 5. 28	追手門学院小学校	3 回目
42	12	2000. 5. 26	ノートルダム学院小学校	4 回目
43	13	2001. 5. 25	雲雀丘学園小学校	3 回目
44	14	2002. 5. 24	帝塚山学院小学校	3 回目
45	15	2003. 5. 23	京都女子大学附属小学校	2 回目
46	16	2004. 5. 28	大阪信愛女学院小学校	2 回目
47	17	2005. 5. 27	天理小学校	3 回目
48	18	2006. 5. 25	百合学院小学校	
49	19	2007. 5. 25	箕面自由学園小学校	
50	20	2008. 5. 23	聖母学院小学校	3 回目
51	21	2009. 5. 28	追手門学院小学校	新型インフルエンザのため中止
52	22	2010. 5. 28	小林聖心女子学院小学校	3 回目
53	23	2011. 5. 27	近畿大学附属小学校	3 回目

九州地区教員研修会

回数	年度	開催期日	会 場	備 考
17	H. 4	1992. 10. 23・24	萩光塩学院小学校	2回目
18	5	1993. 10. 22・23	福岡雙葉小学校	4回目
19	6	1994. 10. 21・22	聖マリア学院小学校	3回目
20	7	1995. 10. 20・21	福岡海星女子学院附属小学校	3回目
21	8	1996. 10. 25・26	長崎南山小学校	3回目
22	9	1997. 10. 24・25	明治学園小学校	4回目
23	10	1998. 10. 23・24	長崎精道小学校・精道三川台小学校	3回目
24	11	1999. 10. 22・23	萩光塩学院小学校	3回目
25	12	2000. 10. 13・14	福岡雙葉小学校	5回目
26	13	2001. 10. 26・27	聖マリア学院小学校	4回目
27	14	2002. 10. 25・26	福岡海星女子学院附属小学校	4回目
28	15	2003. 10. 17・18	長崎南山小学校	4回目
29	16	2004. 10. 15・16	明治学園小学校	5回目
30	17	2005. 10. 14・15	長崎精道小学校・精道三川台小学校	4回目
31	18	2006. 10. 27・28	福岡雙葉小学校	6回目
32	19	2007. 10. 19・20	聖マリア学院小学校	5回目
33	20	2008. 10. 17・18	沖縄カトリック小学校	
34	21	2009. 10. 16・17	福岡海星女子学院附属小学校	5回目
35	22	2010. 10. 15・16	長崎南山小学校	5回目
36	23	2011. 10. 21・22	明治学園小学校	6回目



〈矢崎副会長より経過説明〉



〈森口泰孝文部科学事務次官〉

4. 私立高等学校等に対する経常費助成費財源措置の推移

1. 総 額

区 分	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
国庫補助金	823	847	635	666	706	748.5	748.5	804.5	860.5
地方交付税	3,756	3,954	4,469	4,617	4,688	4,759.0	4,827.0	4,931.0	5,024.0
計	4,579	4,801	5,104	5,283	5,394	5,507.5	5,575.5	5,735.5	5,884.5

2. 児童・生徒1人当たり単価

区 分		平成 4 年度	平成 5 年度	平成 6 年度	平成 7 年度	平成 8 年度	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度
高 校	国庫補助金	41,720	42,400	29,600	31,370	34,320	38,190	39,020	40,040	42,300
	地方交付税	147,600	155,800	178,100	186,100	191,800	198,500	205,100	211,200	215,900
	計	189,320	198,200	207,700	217,470	226,120	236,690	244,120	251,240	258,200
中 学 校	国庫補助金	40,170	40,820	28,490	28,860	30,590	31,200	31,370	31,830	35,680
	地方交付税	144,700	152,900	174,700	183,000	188,800	196,000	202,700	208,900	213,700
	計	184,870	193,720	203,190	211,860	219,390	227,200	234,070	240,730	249,380
小 学 校	国庫補助金	40,170	40,820	28,490	28,860	30,590	31,200	31,370	31,830	34,580
	地方交付税	144,700	152,900	174,700	183,000	188,800	196,000	202,700	208,900	213,700
	計	184,870	193,720	203,190	211,860	219,390	227,200	234,070	240,730	248,280
幼 稚 園	国庫補助金	18,110	18,460	12,800	13,060	13,840	14,630	15,180	15,740	16,830
	地方交付税	68,000	73,500	85,500	92,000	97,000	102,400	106,700	111,100	115,300
	計	86,110	91,960	98,300	105,060	110,840	117,030	121,880	126,840	132,130
高 狭 域 通 信 校	国庫補助金	9,160	9,310	6,500	6,580	6,720	6,860	6,900	6,980	7,040
	地方交付税	32,000	33,800	38,700	40,400	41,700	43,100	44,500	45,900	46,900
	計	41,160	43,110	45,200	46,980	48,420	49,960	51,400	52,880	53,940

平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
922.5	977.5	1,001.5	1,028.5	1,033.5	1,038.5	1,038.5	1,038.5	1,038.5	998.5	1,002.3
5,107.0	5,134.0	5,143.0	5,123.0	5,150.0	5,187.0	5,188.0	5,215.0	5,341.0	5,442.0	5,503.0
6,029.5	6,111.5	6,144.5	6,151.5	6,183.5	6,225.5	6,226.5	6,253.5	6,379.5	6,440.5	6,505.3

平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
44,550	47,610	49,800	50,082	50,469	51,360	51,960	52,325	52,743	52,743	52,905
222,100	228,700	233,200	234,600	236,900	240,100	241,600	242,800	248,200	253,400	255,900
266,650	276,310	283,000	284,682	287,369	291,460	293,560	295,125	300,943	306,143	308,805
39,440	41,980	44,114	44,366	44,706	45,273	45,546	45,726	45,772	45,772	46,087
220,100	226,900	231,600	233,200	235,700	239,200	240,900	242,300	247,900	253,100	255,400
259,540	268,880	275,714	277,566	280,406	284,473	286,446	288,026	293,672	298,872	301,487
37,880	40,570	42,520	42,761	43,089	43,638	43,898	44,072	44,116	44,116	44,487
220,100	226,900	231,600	233,200	235,700	239,200	240,900	242,300	247,900	253,100	255,400
257,980	267,470	274,120	275,961	278,789	282,838	284,798	286,372	292,016	297,216	299,887
18,150	20,170	21,265	21,387	21,581	21,994	22,252	22,408	22,587	22,587	22,619
119,800	124,600	128,300	130,400	133,000	136,200	138,400	140,200	144,400	146,800	148,600
137,950	144,770	149,565	151,787	154,581	158,194	160,652	162,608	166,987	169,387	171,219
7,060	7,970	8,668	8,688	8,952	9,508	9,528	9,585	9,585	9,585	9,585
48,200	49,600	50,600	50,900	51,400	52,100	52,400	52,700	53,900	55,000	55,600
55,260	57,570	59,268	59,588	60,352	61,608	61,928	62,285	63,485	64,585	65,185

5. 日私小連の概要

日本私立小学校連合会

名 称		日本私立小学校連合会
根拠法令		任意団体
規 模	構 成	179 校
	活動範囲	全国（本会に加盟する私立小学校のある 30 都道府県）
	役員構成	会長 清水良一 副会長：5 名 常任理事：8 名 理 事：7 名 監 事：2 名
	事務局組織	日本私立小学校連合会事務局（局長他職員 3 名） ・ 東京地区連合会事務局（日本私立小学校連合会事務局と兼務） ・ 西日本私立小学校連合会事務局（局長他職員 3 名） ・ 関東地区私立小学校連合会事務局（会長校が兼務） ・ 九州地区私立小学校連合会事務局（会長校が兼務） ・ 北海道・東北地区私立小学校連合会事務局（会長校が兼務）
	年間予算	4,650 万円 (内訳)・会費 4,176 万円 ・ 事務所費受託金 74 万円 ・ 研修費助成金 400 万円（財）私学研修福祉会より
事業内容		1. 教育の充実向上のための調査と研究 2. 学校経営の充実発展を図るための努力とその推進 3. 私立小学校教員の資質向上のための研修、研究 4. 私学関係団体との連絡提携 5. その他私立小学校振興のための必要な事業
備 考		昭和 16 年 12 月 16 日結成

平成 23 年 7 月 1 日現在

あ と が き

平成 24 年 1 月 19 日、アルカディア市ヶ谷（私学会館）において文部科学省後援のもと「日本私立小学校連合会結成 70 周年」の記念式典が開催されました。前回の結成記念式典は、結成 50 周年のときの平成 4 年 1 月 23 日に行われ、これを記念して『日本私立小学校連合会 結成 50 年のあゆみ』という冊子がまとめられました。今回もそれにならい、『日本私立小学校連合会 結成 70 年のあゆみ』を発刊する運びとなりました。本書では、各私学団体の代表及び会長からの祝辞、当式典での文部科学大臣はじめ祝辞、受彰者代表の謝辞などを掲載し、続いて日私小連 OB の方々に寄稿して頂いた文を掲載いたしました。さらに加盟校の各校の紹介、結成 50 周年以降の日私小連のあゆみを、『結成 50 年のあゆみ』にならって資料集の形でまとめました。

忘れてならないことは、やはり日私小連発足の歴史であります。昭和 15 年 12 月 24 日の「私立小学校廃止」のラジオ放送から始まる私立小学校への国家からの弾圧に対する抵抗として、同 16 年 12 月 16 日に日私小連が結成されたわけです。この気概たるや、当時の情勢から鑑みるとまさに命を懸けたものといっても過言ではないでしょう。今も、我々はこの気概を継承するべきだと思います。その気概は、私立小学校に学ぶ児童一人ひとりの成長に向かうべきでしょう。それに向けて、それぞれの私立小学校、そこに在籍する教職員が懸命に取り組んでいます。この取り組みが評価された結果、50 周年のときは、155 校であった日私小連加盟校が、70 周年を迎えた今日、179 校に増えています。しかし、全世界を襲っている経済的不況や東日本大震災によって、私学に厳しい時代が到来しています。この状況を乗り越えるためにも、日私小連発足の理念を忘れず、今こそさらに日私小連の団結を強める必要が求められています。

最後に本書の発刊は、園田事務局長、田中課長、仁戸田係長の尽力あつてのものであり、ここに心より感謝を申し上げます。

平成 24 年 2 月 17 日

日私小連結成 70 周年 記念誌発行委員長
加 藤 三 明（慶應義塾幼稚舎舎長）

日私小連「結成 70 周年記念事業」実行委員会

(平成 24 年 1 月 19 日現在)

実行委員長	矢崎 昭盛 (国本小学校長)
記念誌編集委員長	加藤 三明 (慶應義塾幼稚舎長)
編集委員	中村 弘之 (自由学園初等部長)
	金納 善明 (成蹊小学校長)
	進藤 洋輔 (文教大学付属小学校長)
	横澤 敬蔵 (国立音楽大学附属小学校長)
	園田 達彦 (事務局長)
	田中 秀幸 (課長)
	仁戸田 なほ子 (係長)

日本私立小学校連合会

— 結成 70 年のあゆみ —

平成 24 年 (2012 年) 6 月 8 日

発行者	日本私立小学校連合会
	会長 清水 良一
発行所	日本私立小学校連合会
	東京都千代田区九段北 4-2-25 私学会館別館 6F
	電話 03-3261-2934
印刷所	有限会社 京文社
	東京都文京区大塚 6-32-5
	電話 03-3943-4231

(非売品) 2012. 6. 1,000